

Basic Grammar a

—SAクラス・SBクラス・SCクラス・SDクラス—

(SA)植野 達郎(SB)木口 圭子(SC)大関 啓子(SD)田丸 由美子

1年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

この授業では、今まで英語について学習した内容を踏まえ、基本的な文法事項の復習をしながら、英文学科の専門科目の学習に必要な読解力を高め、英語の効果的な学習方法を身につけることを目的とする。

【授業における到達目標】

2年次以降の学修の基礎となる英語の読解力を定着させるとともに、自律的に学習に取り組む姿勢と技術を身につけることを目標とする。これらを通じて「国際的視野」と「研鑽力」を身につける。

【授業の内容】

この授業は演習形式で進める。内容は以下の通りである。

- ・基本的な文法事項を再確認する。
- ・英文を正確に読む。
- ・英語の語彙を増やす。
- ・効果的な英語の学習方法を身につける。

上記の内容を踏まえ担当教員毎に15週に渡って授業が行われる。

第1週 イントロダクション 英語の学習方法・辞書の使い方

第2週 文法の復習 品詞

第3週 文法の復習 時制

第4週 文法の復習 態

第5週 文法の復習 助動詞

第6週 文法の復習 不定詞

第7週 文法の復習 分詞

第8週 文法の復習 分詞構文

第9週 文法の復習 話法

第10週 文法の復習 比較

第11週 文法の復習 前置詞

第12週 読解の基礎

第13週 読解の応用

第14週 読解の実践

第15週 まとめ

上記の15週の内容は、クラスのレベルによって変更となる場合がある。各クラス担当教員の指示に従うこと。

【事前・事後学修】

毎回の授業前に、テキストの該当箇所をよく読み、単語の意味の確認、不明な点の洗い出しを済ませた上で出席すること。その他、授業内で指示のあった作業を済ませておくこと【週2時間】。授業後には、学習した単語や文法事項が他の箇所で使用されている例はないかなどを意識しながら、理解の定着を進めること。各回の授業に並行して、e-learningシステムを利用して語彙力向上に努めること【週2時間】。

【テキスト・教材】

授業時に担当教員より指示される。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・課題・e-learning）50%

試験・レポート50%

フィードバックは翌回以降の授業時に行う。

【参考書】

必要に応じて担当教員より指示される。

【注意事項】

授業には英和辞典を必ず持参すること。

演習科目であるため、一方通行に終始することがないように積極的な参加が望まれる。

Basic Reading a

—SAクラス・SBクラス・SCクラス・SDクラス—

(SA)田丸 由美子(SB)青砥 吉隆(SC)木口 圭子(SD)志渡岡 理恵

1年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

この授業では、今まで英語について学習した内容を踏まえ、基本的な語彙・文法事項の復習をしながら、英文学科の専門科目の学習に必要な読解力を高め、英語の効果的な学習方法を身につけることを目的とする。

【授業における到達目標】

2年次以降の学修の基礎となる英語の読解力を定着させるとともに、自律的に学習に取り組む姿勢と技術を身につけることを目標とする。これらを通じて「国際的視野」と「研鑽力」を身につける。

【授業の内容】

この授業は演習形式で進める。内容は以下の通りである。

- ・基本的な文法事項を再確認する。
- ・英文を正確に読む。
- ・英語の語彙を増やす。
- ・効果的な英語の学習方法を身につける。

上記の内容を踏まえ担当教員毎に15週に渡って授業が行われる。

第1週 イントロダクション 英語の学習方法・辞書の使い方

第2週 長文1 大意把握、語彙確認

第3週 長文1 精読、文法確認

第4週 長文1 精読、問題演習

第5週 長文2 大意把握、語彙確認

第6週 長文2 精読、文法確認

第7週 長文2 精読、問題演習

第8週 長文3 大意把握、語彙確認

第9週 長文3 精読、文法確認

第10週 長文3 精読、問題演習

第11週 長文4 大意把握、語彙確認

第12週 長文4 精読、文法確認

第13週 長文4 精読、問題演習

第14週 長文読解のポイント

第15週 まとめ

上記の15週の内容は、クラスのレベルによって変更となる場合がある。各クラス担当教員の指示に従うこと。

【事前・事後学修】

毎回の授業前に、テキストの該当箇所をよく読み、単語の意味の確認、不明な点の洗い出しを済ませた上で出席すること。その他、授業内で指示のあった作業を済ませておくこと【週2時間】。授業後には、学習した単語や文法事項が他の箇所で使用されている例はないかなどを意識しながら、理解の定着を進めること【週2時間】。

【テキスト・教材】

授業時に担当教員より指示される。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・課題）50%

試験・レポート50%

フィードバックは翌回以降の授業時に行う。

【参考書】

必要に応じて担当教員より指示される。

【注意事項】

授業には英和辞典を必ず持参すること。

演習科目であるため、一方通行に終始することがないように積極的な参加が望まれる。

Basic Grammar b

—SAクラス・SBクラス・SCクラス・SDクラス—

(SA)木口 圭子(SB)田丸 由美子(SC)土屋 結城(SD)吉本 真由美

1年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

「Basic Grammar a」で学習した内容を踏まえ、文法事項の復習をしながら、主に2年次以降の専門科目の学習に必要な読解力を高め、英語の効果的な学習方法を身につけることを目標とする。

【授業における到達目標】

2年次以降の学修の基礎となる英語の読解力を定着させるとともに、自律的に学習に取り組む姿勢と技術を身につけることを目標とする。これらを通じて「国際的視野」と「研鑽力」を身につける。

【授業の内容】

この授業は演習形式で進める。内容は以下の通りである。

- ・基本的な文法事項を再確認する。
- ・英文をより早く、より正確に読む。
- ・英語の語彙を増やす。
- ・効果的な英語の学習方法を身につける。

上記の内容を踏まえ担当教員毎に15週に渡って授業が行われる。

第1週 イントロダクション ささまざまな辞書の使い方

第2週 文法の復習 接続詞

第3週 文法の復習 法

第4週 文法の復習 関係詞

第5週 文法の復習 句

第6週 文法の復習 節

第7週 文法の復習 単文と複文

第8週 文法の復習 特殊構文

第9週 文法の復習 名詞

第10週 文法の復習 冠詞

第11週 文法の復習 動詞

第12週 長文読解の方法

第13週 長文読解の実践

第14週 長文の精読

第15週 まとめ

上記の15週の内容は、クラスのレベルによって変更となる場合がある。各クラス担当教員の指示に従うこと。

【事前・事後学修】

毎回の授業前に、テキストの該当箇所をよく読み、単語の意味の確認、不明な点の洗い出しを済ませた上で出席すること。その他、授業内で指示のあった作業を済ませておくこと【週2時間】。授業後には、学習した単語や文法事項が他の箇所で使用されている例はないかなどを意識しながら、理解の定着を進めること。各回の授業に並行して、e-learningシステムを利用して語彙力向上に努めること【週2時間】。

【テキスト・教材】

授業時に担当教員より指示される。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・課題・e-learning）50%

試験・レポート50%

フィードバックは翌回以降の授業時に行う。

【参考書】

必要に応じて担当教員より指示される。

【注意事項】

授業には英和辞典を必ず持参すること。

演習科目であるため、一方通行に終始することがないように積極的な参加が望まれる。

Basic Reading b

—SAクラス・SBクラス・SCクラス・SDクラス—

(SA)大関 啓子(SB)西野 方子(SC)田丸 由美子(SD)木口 圭子

1年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

「ベーシック・イングリッシュa」で学習した内容を踏まえ、語彙・文法事項の復習をしながら、主に2年次以降の専門科目の学習に必要な読解力を高め、英語の効果的な学習方法を身につけることを目標とする。

【授業における到達目標】

2年次以降の学修の基礎となる英語の読解力を定着させるとともに、自律的に学習に取り組む姿勢と技術を身につけることを目標とする。これらを通じて「国際的視野」と「研鑽力」を身につける。

【授業の内容】

この授業は演習形式で進める。内容は以下の通りである。

- ・基本的な文法事項を再確認する。
- ・英文をより早く、より正確に読む。
- ・英語の語彙を増やす。
- ・効果的な英語の学習方法を身につける。

上記の内容を踏まえ担当教員毎に15週に渡って授業が行われる。

第1週 イントロダクション ささまざまな辞書の使い方

第2週 長文1 大意把握、語彙確認

第3週 長文1 精読、文法確認

第4週 長文1 精読、問題演習

第5週 長文2 大意把握、語彙確認

第6週 長文2 精読、文法確認

第7週 長文2 精読、問題演習

第8週 長文3 大意把握、語彙確認

第9週 長文3 精読、文法確認

第10週 長文3 精読、問題演習

第11週 長文4 大意把握、語彙確認

第12週 長文4 精読、文法確認

第13週 長文4 精読、問題演習

第14週 長文読解の応用

第15週 まとめ

上記の15週の内容は、クラスのレベルによって変更となる場合がある。各クラス担当教員の指示に従うこと。

【事前・事後学修】

毎回の授業前に、テキストの該当箇所をよく読み、単語の意味の確認、不明な点の洗い出しを済ませた上で出席すること。その他、授業内で指示のあった作業を済ませておくこと【週2時間】。授業後には、学習した単語や文法事項が他の箇所で使用されている例はないかなどを意識しながら、理解の定着を進めること【週2時間】。

【テキスト・教材】

授業時に担当教員より指示される。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・課題）50%

試験・レポート50%

フィードバックは翌回以降の授業時に行う。

【参考書】

必要に応じて担当教員より指示される。

【注意事項】

授業には英和辞典を必ず持参すること。

演習科目であるため、一方通行に終始することがないように積極的な参加が望まれる。

Basic Speaking a

—SAクラス・SBクラス・SCクラス・SDクラス・SEクラス—
(SA)パーティウム, D(SB)フルトン, スチュワート(SC)ラーソン,
マイケル(SD)パーティウム, D(SE)ラーソン, マイケル
1年 前期 1単位
◎: 国際的視野 ○: 行動力、協働力

【授業のテーマ】

The purpose of this course is to provide students with basic English communication skills and a foundation for further studies in the English language. This course is a required one-semester course for first-year students.

【授業における到達目標】

Students, upon the completion of this course, will attain the basic ability of effectively communicating in English, and confidence in doing so. That will lead to developing 「国際的視野」「行動力」and 「協働力」 as a student of the English department.

【授業の内容】

The main focus will be on improving students' English proficiency skills through speaking and listening exercises. Students are also expected to do regular reading and writing exercises. Pronunciation and grammar will be emphasized.

1st week Introduction
2nd week Pronunciation Vowels
3rd week Pronunciation Consonants
4th week Intonation
5th week Self-introduction
6th week Group Introduction
7th week College Life
8th week Part-time Jobs
9th week Club Activities
10th week Travel
11th week Studying Abroad
12th week Hobby
13th week Future
14th week Family
15th week Group Work

The subjects will change according to the level of the class.

【事前・事後学修】

Students should preview the appropriate part in the textbook or handouts before each class, especially with regard to unfamiliar expressions, collocations and sentence patterns [2 hours]. Students should also try to use these items themselves in classes afterwards [2 hours].

【テキスト・教材】

Instructors will select a textbook or provide handouts from a variety of sources.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Students in this course are expected to (1) participate in all classroom projects and discussions, and (2) maintain good attendance for the semester. Final grades will be based upon a combination of classroom participation (70%), and completion of all assignments (30%). Feedback will be given on the assignments submitted. Also, every interaction in the class will function as feedback.

【注意事項】

Three tardies (coming to class late) equal one absence.

Basic Speaking b

—SAクラス・SBクラス・SCクラス・SD・SEクラス—
(SA)パーティウム, D(SB)フルトン, スチュワート(SC)ラーソン,
マイケル(SD)パーティウム, D(SE)ラーソン, マイケル
1年 後期 1単位
◎: 国際的視野 ○: 行動力、協働力

【授業のテーマ】

This is a required one-semester course that continues where "Basic Speaking a" finished. (Note however that this course is independent of "Basic Speaking a.") The purpose of this course is to enhance first-year students' basic English proficiency skills.

【授業における到達目標】

Students, upon the completion of this course, will attain the basic ability of effectively communicating in English, and confidence in doing so. That will lead to developing 「国際的視野」「行動力」and 「研鑽力」 as a student of the English department.

【授業の内容】

The main focus will be on improving students' proficiency through speaking and listening exercises. Students are also expected to do regular reading and writing exercises. Pronunciation and grammar will be emphasized. The coursework will engage students in role-plays, information exchanges and group skits.

1st week Introduction
2nd week Pronunciation Vowels
3rd week Pronunciation Consonants
4th week Intonation
5th week Group Work
6th week Group Presentation
7th week Pair Work
8th week Pair Presentation
9th week Group Discussion
10th week Group Writing
11th week Pair Discussion
12th week Pair Writing
13th week Class Discussion
14th week Class Presentation
15th week Review

The subjects will change according to the level of the class.

【事前・事後学修】

Students should preview the appropriate part in the textbook or handouts before each class, especially with regard to unfamiliar expressions, collocations and sentence patterns [2 hours]. Students should also try to use these items themselves in classes afterwards [2 hours].

【テキスト・教材】

Instructors will select a textbook or provide handouts from a variety of sources.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Students in this course are expected to (1) participate in all classroom projects and discussions, and (2) maintain good attendance for the semester. Final grades will be based upon a combination of classroom participation(70%), and completion of all assignments(30%). Feedback will be given on the assignments submitted. Also, every interaction in the class will function as feedback.

【注意事項】

Three tardies (coming to class late) equal one absence.

英文入門セミナー

—CAクラス・CBクラス・CCクラス・CDクラス・CEクラス—

(CA)植野 達郎 (CB)大関 啓子 (CC)佐々木 真理 (CD)土屋 結城

(CE)村上 まどか

1年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

英文学科の専門科目への導入を目的とします。英文学科のカリキュラムの内容と4年生までの流れを理解し、英文学科の3分野に関する基本的な知識を学ぶことで、履修者各自がこの学科で何を学びたいのか、4年間の学びの目標を立てることを目指します。合わせて専門科目の授業において必要となる、異文化理解力、論理的思考力、情報収集・分析力、情報発信力の向上を目標とします。

【授業における到達目標】

英文学科の3分野に関する基本的な知識を学ぶことで、国際感覚を身につけて、世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を育みます。また、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる協働力と、現状を正しく把握し、課題を発見できる行動力を養います。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン 授業の進め方と成績評価について
- 第2週 英文学科の3分野—合同講義 イギリス文学・文化
- 第3週 英文学科の3分野—演習1 イギリス文学・文化
- 第4週 英文学科の3分野—演習2 イギリス文学・文化
- 第5週 英文学科の3分野—合同講義 アメリカ文学・文化
- 第6週 英文学科の3分野—演習1 アメリカ文学・文化
- 第7週 英文学科の3分野—演習2 アメリカ文学・文化
- 第8週 英文学科の3分野—合同講義 英語学
- 第9週 英文学科の3分野—演習1 英語学
- 第10週 英文学科の3分野—演習2 英語学、プレゼンテーション準備
- 第11週 プレゼンテーション1
- 第12週 プレゼンテーション2
- 第13週 プレゼンテーション3
- 第14週 プレゼンテーション4、まとめ
- 第15週 ITPテスト

※「プレゼンテーション1～4」はクラスの中でグループを作り、各週ごとに別々のグループがプレゼンテーションを行う。

【事前・事後学修】

【事前学修】演習回の授業では、前もってマテリアルを十分に読んでおくことを前提に、学生個人個人の考えを発表してもらいます。プレゼンテーションの準備では、授業時間外に学生間で自発的に相談や準備をしてもらうことが必須です。能動的な自己学習を心がけましょう。（学修時間、週2時間）

【事後学修】演習の内容やプレゼンの内容に基づいて、中間・期末課題が課されます。授業後は関連文献を探すなど、課題作成に向けて準備しましょう。（学修時間、週2時間）

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントや資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業参加、プレゼンテーション、コメント用紙）50点、課題50点。フィードバックは課題返却時およびプレゼンテーション終了時に行う。

【注意事項】

演習形式が中心となりますので、積極的に授業に参加して下さい。2年時以降の、ひいては卒論で取り組む研究領域の選択の出発点であることを常に意識して授業に臨んで下さい。

イギリスの文化と社会

女性のライフスタイルの変化

志渡岡 理恵

1年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

イギリスの文化と社会を理解するために必要な基本事項を確認したうえで、女性のライフスタイルの変化をたどりながら、文化と社会の関係について考えていきます。授業で提示する青写真を手掛かりに、受講生がそれぞれの関心に基づいてイギリスの文化と社会についてリサーチを行い、関心を広げ、理解を深めていくことを目指します。

【授業における到達目標】

イギリスの歴史、国のありかた、社会のありように関する基本事項を踏まえ、女性のライフスタイルの変化にはどのような事柄が関係しているのか理解できるようになることを目指します。

【授業の内容】

- 第1週 INTRODUCTION
- 第2週 UKとCOMMONWEALTH
- 第3週 SCOTLAND
- 第4週 WALES
- 第5週 NORTHERN IRELAND
- 第6週 KINGDOM AND CLASS
- 第7週 COLONIAL WOMEN
- 第8週 WOMEN'S MAGAZINE
- 第9週 FASHION
- 第10週 TRAVEL
- 第11週 SPORTS
- 第12週 SCHOOL GIRL AND UNIVERSITY STUDENT
- 第13週 SUFFRAGE
- 第14週 TWO WORLD WARS
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

【事前学修】各回の授業の最後に、次の授業までに調べておくべき事柄を指示するので、それについて図書やインターネットで調べてくること（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業で関心を持ったこと、疑問に思ったことを図書館で調べ、分からなかったことについては質問にいくこと（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（リアクションペーパー）50%、定期試験50%。リアクションペーパーへのフィードバックは、次回授業で行います。

【参考書】

- ・川上洋（編）『イギリス文化事典』（丸善出版2014年）
- ・ケイト・ハバード（著）『ヴィクトリア女王の王室——側近と使用者が語る大英帝国の象徴の真実』（原書房2014年）
- ・坂井妙子『レディの赤面——ヴィクトリア朝社会と化粧文化』（勁草書房2013年）
- ・林田敏子（著）『戦う女、戦えない女——第一次世界大戦期のジェンダーとセクシュアリティ』（人文書院2013年）
- ・堀内真由美（著）『大英帝国の女教師——イギリス女子教育と植民地』（白澤社2008年）
- ・井野瀬久美恵（著）『大英帝国という経験』（講談社2007年）

【注意事項】

自分なりの問題意識をもって授業に臨むこと。

アメリカの文化と社会

実験国家にみるアイデンティティの構築

深瀬 有希子

1年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

アメリカ合衆国の文化社会について、複数の視点から総合的な理解を深めることを目標とする。広大な領土と多様な民族を抱えてきたアメリカ合衆国の、複雑かつユニークな歴史的背景から現代の文化や社会状況までを含む幅広い話題に触れ、異文化理解力を高めるとともに他者との協働のあり方を自ら検討する態度をも身につけることを目指す。

【授業における到達目標】

国際的視野：多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度を養うことを目標とします。

研鑽力：学修を通して自己成長する力を高めることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 イントロダクション
- 第2週 コロニアリズム1—アメリカン・ドリームの起源
- 第3週 コロニアリズム2—大西洋奴隷貿易の始まり
- 第4週 ピューリタニズム1—ボカホンタス神話
- 第5週 ピューリタニズム2—セイラムの魔女狩り
- 第6週 リパブリカニズム1—アメリカ独立宣言
- 第7週 リパブリカニズム2—自伝の伝統
- 第8週 まとめ 1
- 第9週 ロマンティシズム1—アメリカ領土拡張と超絶主義
- 第10週 ロマンティシズム2—奴隷制度と自由
- 第11週 ダーヴィニズム、リアリズム、ナチュラリズム
- 第12週 コスモポリタニズム
—イエロー・ペリルとパリのアメリカ人
- 第13週 ポストモダン・アメリカ1—米ソ冷戦と赤狩り
- 第14週 ポストモダン・アメリカ2—ヴェトナム戦争
- 第15週 まとめ 2

【事前・事後学修】

事前学修として、あらかじめ指定されたトピックについて情報を収集し整理しておくこと。（学修時間、2時間）

事後学修として、授業で提示された課題に関する資料（小説や映画など）を探し読むまたは観ておくこと。（学修時間、2時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業参加度・レスポンスシート）30%、試験70%で評価する。フィードバックはmanabaまたは試験答案返却時に行う。

【参考書】

杉野健太郎、稲垣伸一他著『アメリカ文化入門』三修社、2010年。
巽孝之著『アメリカ文学史のキーワード』講談社現代新書、2000年。

【注意事項】

特別な理由のない遅刻、欠席、授業中の私語は平常点より減点されるので注意すること。

多読演習

多読を通して速読を身につける

吉本 真由美

1年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

この授業では、なるべくたくさんの英語の本に触れることで、日常的に（授業内外で）英文を読むことを習慣づけるとともに、速読のトレーニングをします。日常的にたくさんの本に触れるためには、読書をまず「楽しむ」ということが最も大切です。読書を楽しむことができるように、まずは自分の読みやすい本のレベルを把握し、徐々に難易度の高いものが読むことができるように取り組んでいきます。無理のないようにステップアップし、少しずつでも難易度の高いものをすらすらと読めるようになることを目指しましょう。

【授業における到達目標】

できる限り多くの英文に触れ、速読のトレーニングをします。日本語に訳出せずに、書かれた内容を頭で整理しながら理解する力を養います。また、自分のレベルに合わせて、各自徐々に難易度を上げていくことで、授業が終わるころには、以前よりも難しいものが読めるようになったと実感することも目標のひとつです。

【授業の内容】

- 第1週 イントロダクション
多読の効果や目的、注意点を確認
- 第2週 Oxford Reading Treeの紹介
- 第3週 300語レベルの本に触れる
- 第4週 読書記録1
- 第5週 経過報告1
- 第6週 600語レベルの本に触れる
- 第7週 読書記録2
- 第8週 経過報告2
- 第9週 グループワーク（中間プレゼンテーション準備）
- 第10週 中間プレゼンテーション
- 第11週 1000語以上のレベルの本に触れる
- 第12週 読書記録・経過報告3
- 第13週 グループワーク（最終プレゼンテーション準備）
- 第14週 最終プレゼンテーション
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学習として、教員が授業に持ち込んだ本や、学生が各自図書館等で借りた本を読み進めておくこと（学修時間：週2時間）。事後学習としては、授業中に受けた注意などを参考にして、図書を選択や速読の方法などを見直すこと（学修時間：週2時間）。

【テキスト・教材】

授業内で指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への参加度・コメントシート：20%

読書量、多読への取り組み：50%

課題・発表：30%

フィードバック：

読んだ本についてコメントを提出してもらいます。そのコメントへのフィードバックを翌週行います。

【参考書】

酒井邦秀著『快読100万語！ペーパーバックへの道』（ちくま学芸文庫）

古川昭夫他著『英語多読完全ブックガイド』改定第4版（コスモピア）

多読演習

楽しく多読をしてリーディング力を高める

砂田 緑

1年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

この授業では、英語の多読を通じてリーディング力を高めていきます。速読のスキルを上げるためのテキストを使用し、より早く正確に読み取る力を育てます。授業時間外にも各自で英語の多読を行い、楽しく継続的に英語を読む習慣を身につけていけるようにしましょう。

【授業における到達目標】

授業内外で多くの英文に触れることで、英語を読む習慣を身につけていきましょう。英文をより速く正確に理解していく力を育て、英語で多読をする楽しさを共有していきたいと思えます。

【授業の内容】

- 第1回 イントロダクション・多読・速読演習1・課題①
- 第2回 多読・速読演習1・課題①に関するグループワーク
- 第3回 多読・速読演習2・課題②
- 第4回 多読・速読演習2・課題②に関するグループワーク
- 第5回 多読・速読演習3・課題③
- 第6回 多読・速読演習3・課題③に関するグループワーク
- 第7回 演習1～3のまとめ
- 第8回 多読報告会
- 第9回 多読・速読演習4・課題④
- 第10回 多読・速読演習4・課題④に関するグループワーク
- 第11回 多読・速読演習5・課題⑤
- 第12回 多読・速読演習5・課題⑤に関するグループワーク
- 第13回 演習4と5のまとめ
- 第14回 多読報告会
- 第15回 全体のまとめ・多読の振り返り

【事前・事後学修】

予習として、テキストの各ユニットの英文を読んでおいてください。(1時間)

授業外で多くの本を読むことを勧めます。図書館などを利用して Graded Readers など、読み易い本をたくさん読んでください。

(3時間)

【テキスト・教材】

町田純子・八木茂那子・アーロン・ドッドソン著『Fresh Starts』南雲堂(2013)1,700円+税

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

多読カード・課題40%(授業内外での読書の記録を取ってもらいます。また、各回の課題への取り組みも重視します)

小テスト20%(多読・速読演習に関して、小テストを行います)

発表・グループワーク40%(多読報告会や課題に関するグループワークへの取り組みを評価します)

多読演習

たくさん読んで英語の運用能力を高めよう

宮下 いづみ

1年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

英語多読では、日本語で考えずに英語をたくさん読みながら、英語力をアップさせていきます。

どうすると英語のまま理解できるのか、ハウツーを学びます。

英語多読から学べることは、語彙だけではありません。

異文化、ナチュラルな会話、英語での考え方などいろいろな側面から知識を広げることができます。

分野別の本をどのように読んでいくのか、授業の前半で解説し、後半で実践的に読んでいきます。読めば読むほど力がつくので、授業外でも読んでいくことをおすすめします。

【授業における到達目標】

多読本から多様性を受容し、多角的な視野を培い、ノンフィクション、フィクションの本いずれも、さらなる知識を求めることを意識します。

多読記録を取りながら読む事で、研鑽力をつけ、目的を設定しながら、積極的に多読をしていきます。グループワークを通じ、リーダーシップに必要な力をつけていきます。

【授業の内容】

- 第1週 英語多読 その手法と効果
- 第2週 フィクション読解法
- 第3週 多読で人気のOxford Reading Treeを考察
- 第4週 絵本から学ぶTOEICへの英語表現
- 第5週 ノンフィクション読解法
- 第6週 世界の歌をベースにした本
- 第7週 英語多読本で会話力アップ法
- 第8週 英語での論理構成を見抜くタクティクス
- 第9週 多読本のレベルアップとタイミング
- 第10週 スキャニングとスキミング
- 第11週 多読本をマネをしながらライティング
- 第12週 日本の英語教育現場での多読の実態
- 第13週 英語多読指導法
- 第14週 読解語数と英語力の相関関係を考察
- 第15週 英語多読の進め方、目標設定について

【事前・事後学修】

事前「イギリスの小学校教科書で楽しく英語を学ぶ」をシャドーイングしてきます。シャドーイング方法は授業で説明します。声に出して、イントネーションをマネし、発音のブラッシュアップをはかります。

事後 図書館で借りる英語多読本を選書しますので、家庭学習でも読み、多読手帳に記録をして具体的なコメントを書いておきます。

(事前・事後合わせて週約4時間)

【テキスト・教材】

古川昭夫・宮下いづみ著『イギリスの小学校教科書で楽しく英語を学ぶ』(小学館 2007年)2,100円

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

英語多読の読解量 70%、小テスト・発表・課題 20%、レポート 10% 英語多読の記録は毎回、小テスト・発表・課題は該当授業にて、レポートは最終日にフィードバックを実施します。

【参考書】

古川昭夫他著 『英語多読完全ブックガイド 改定第4版』(コスモピア 2013年)

Introduction to TOEFL

海外留学にチャレンジ

深瀬 有希子・宮下 いづみ

1年 前期・後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

本授業は、TOEFL形式（ITPおよびiBT）の問題を用いて、海外留学の際に必要とされるリーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの4技能を総合的に習得することを目指します。海外留学のための情報収集の仕方や、英語による講義のノートテイキングの方法も学習します。

【授業における到達目標】

国際的視野の獲得：多様性を受容し、多角的な視点をもって世界に臨む態度を養うことを目標とします。

研鑽力の向上：学修を通して自己成長する力を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

- 1 イントロダクション： 授業の内容、進め方、e-learningを用いた予習復習の仕方、評価方法の説明
- 2 Unit 1: Topic: Advertising Skill Focus: Skimming and Scanning
- 3 Unit 2: Topic: Sports Skill Focus: Making Inferences
- 4 Unit 3: Topic: Fraud Skill Focus: Using Context Clues
- 5 Unit 4: Topic: Storytelling Skill Focus: Identifying and Using Rhetorical Structure
- 6 Unit 5: Topic: Language Skill Focus: Identifying and Using Main Ideas and Details
- 7 発表 ①
- 8 まとめ ①
- 9 Unit 6: Topic: Tourism Skill Focus: Paraphrasing
- 10 Unit 7: Topic: Humor Skill Focus: Summarizing
- 11 Unit 8: Topic: Fashion Skill Focus: Comparing and Contrasting
- 12 Unit 9: Topic: Punishment Skill Focus: Using Detailed Examples
- 13 Unit 10: Topic: Marriage Skill Focus: Identifying and Using Cohesive Devices
- 14 発表 ②
- 15 まとめ ②

【事前・事後学修】

事前学修：e-learning 教材およびテキスト教材を使用して、指定された課題に取り組むこと。（学修時間 週2時間）

事後学習：e-learning 教材およびテキスト教材を使用して、授業で学習したことや間違った箇所を再確認し、理解すること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

North Star: Building Skills for the TOEFL iBT (Intermediate, Student Book with Audio CDs) ISBN: 0-13-198576-0 約4000円

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・課題・e-learning）： 40%

発表（①②）： 30% まとめ（①②）： 30%

発表やまとめ、そのほか授業中に指示された課題についてのフィードバックは、翌回以降の授業時に行う。

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【注意事項】

e-learning教材とテキスト教材の両方を用いて必ず予習と復習を行い、積極的に参加すること。

ことばと社会

日常生活から見出す言語と社会の関係

ウンサーシュッツ, ジャンカーラ

1年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

ことばを取得し、日常的に使いこなしている人からすると、その活用があまりに当然であり、分析の対象にすることはほとんどありません。しかし、ことばには不思議なことがたくさんあります。レポートを書くときに、「食べられる」と考えずに打つのに、友人の話すときに「食べれる」と言うことは誰にでもあるでしょうが、それはなぜなのかという説明を求められても答えられない人が多いでしょう。本講義では、そういった現象を理解するカギの一つである「社会」とことばの接点ということに着目しつつ、「ことばの不思議」を取り上げ、考察していきます。ことに英語圏の事情と日本の事情を比較しながら授業を進め、異なる社会的・文化的背景によって、言語活用がいかに変わるのかに注目を当てます。それを通し、社会とことばの影響を研究する社会言語学を学び始めるのに必要な基礎知識と理解を身につけます。

【授業における到達目標】

ことばと社会の関係の基礎を理解し、その知識を活用して簡単な分析を行うことができる。自分の勉学と生活の中で、ことばに意識・関心を持つようになり、まわりの言語的な現象への気づきができる。社会言語学を続けて勉強するために必要な知識を身につける。

【授業の内容】

- 【第1回】ことばと社会の再定義
- 【第2回】ニューヨーカーの英語を、日本語の方言に例えるなら…？：ことばと地域
- 【第3回】アメリカの女性も、女性らしいことば遣いをするか？：ことばと性差
- 【第4回】もしかして、自分の学んだ英語は若くない？：ことばと世代
- 【第5回】外国で下の名前で呼んでも、ボスはボス？：ポライトネス問題
- 【第6回】依頼を依頼として認めてもらうためには？：コミュニケーションスタイル
- 【第7回】旅する日本語、そこで出会う外国語は？：ことばとアイデンティティ
- 【第8回】「キュートだよなー」には違和感ないが、“She’s so kawaii!”は？：言語接触
- 【第9回】地図で見る“Mt. Takaosan”の表示は誰のため？：言語政策
- 【第10回】留学後、自分の日本語がどう変わるか？：言語の取得
- 【第11回】学校は英語、恋愛話はフランス語？：バイリンガリズム
- 【第12回】東京で道に迷っている外国人に会ったら、何語で話せばよいか？：言語と心理
- 【第13回】外国人が指摘される、日本人もする間違い？：言語とイメージ
- 【第14回】ハリウッド映画を見続ければ、どんな英語を習得するか？：言語とメディア
- 【第15回】まとめ：改めて「社会言語学」とは？

【事前・事後学修】

- 1) 各回指定された教科書の章・授業で配布されたプリントを読むこと（週2時間）
- 2) 各回指定された課題に取り組むこと（週2時間）

【テキスト・教材】

真田信治・ダニエル＝ロング編『社会言語学図集—日本語・中国語・英語解説』（秋山書店 2010年）2,000円

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（受講票・授業への積極的な参加）：40%

課題：60%

- 1) 受講票を参考に、各回はいただいた学生の質問や疑問に答え

る。

2) 課題等の評価基準は明確にし、授業内で具体的に解説する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【注意事項】

課題等について質問・相談があった場合、giancarlaunerschutz@ris.ac.jpまでお気軽にご連絡いただけます。原則として喜んで手伝うが、不切前日以降のメールには必ずしも答えられるとは限りないことをご了承下さい。

児童英語演習

国際的視野を持ち、児童英語について学ぶ

宮下 いづみ

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

幼児や小学生への英語の指導方法を学びながら、自分自身の英語力も高めていく講座です。児童英語や英語教育を行う上でのノウハウを、実践的に学んでいきます。

英語圏の文化をよく知ることで、海外でも通用する英語力を養うことができます。授業では海外の祝祭日や風習についても触れながら、実際にどのように4スキルズを教えていくのかを、実践的に年齢別に学んでいきます。

児童英語の指導法を学ぶときに行う発音練習や、指導方法は年代に関わらず適応できるものです。

【授業における到達目標】

児童英語を知っていく上で、グループワークやディスカッションを通して、行動力を高め、協働力を身につけます。アクティブラーニングを意識し、受動的な姿勢ではなく、各々がテーマについて考えて研鑽力を磨けるような人材育成を目指します。

シャドーイングなどを通し、発音をブラッシュアップし、英語の発音に自信を持てるようにします。

【授業の内容】

- 第1週 児童英語についてのイメージを知る
- 第2週 絵本の読み聞かせ（本の持ち方、見せ方、楽しみ方）
- 第3週 歌の指導法（歌の種類、扱い方、指導法）
- 第4週 フォニックスの指導法
（自己の発音もブラッシュアップ）
- 第5週 ゲーム・アクティビティー（実際に行いながら学ぶ）
- 第6週 未就園児～園児の英語指導法
（心構え、授業スタイルについて）
- 第7週 小学生の英語指導法（学校と民間の比較等を含む）
- 第8週 覚えておきたい英語表現（子供にわかる表現とは）
- 第9週 世界の英語（英語の比較）
- 第10週 キッズライティング
- 第11週 キッズの宿題（課題の出し方、作成方法）
- 第12週 小学生のプレゼン（プレゼンの基本を学ぶ）
- 第13週 キッズの英語多読（多読の効果など）
- 第14週 児童英語指導のカリキュラム作り
- 第15週 まとめ（発表を含む）

【事前・事後学修】

事前 発表課題に取り組み、調べます。（週2時間程度）

事後『続・イギリスの小学校教科書で楽しく英語を学ぶ【社会・理科編】』の教科書をシャドーイングします。シャドーイングの方法は授業内で説明します。授業内で学んだ表現を復習します。（週3時間程度）

【テキスト・教材】

テキスト 古川昭夫・宮下いづみ著『続・イギリスの小学校教科書で楽しく英語を学ぶ【社会・理科編】』（小学館 2008年）2,160円

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内の積極参加・発表・課題提出 40%

小テスト（単語チェックを含む）30%

レポート 30%

発表は当日、課題、小テストは次回授業、レポートは最終日にフィードバックを行います。

【参考書】

「音のある英語絵本ガイド」（コスモピア 2009）

特別講義

アメリカという国と消費社会の発達

稲垣 伸一

1年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

パラグラフ・ライティング a

—SAクラス・SBクラス・SCクラス・SDクラス・SEクラス—

(SA)佐々木 真理(SB)青砥 吉隆(SC)西野 方子(SD)吉本 真由美(SE)深瀬 有希子

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

前半では二つの視点（政治、地理）からアメリカ合衆国という国家について考え、この国についての理解を深める。後半では、19世紀後半から20世紀初頭にかけてヨーロッパやアメリカで発達した消費社会がどのように発展し、背景にはその時代のどのような特色や人々の欲求があったのかを考察する。

【授業における到達目標】

アメリカ合衆国の政治システムや地理について知り、そして19世紀ヨーロッパやアメリカにおいて発達した消費社会について多面的に考察する。また、考察した内容を整理して、論理的に叙述する能力を養成する。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 アメリカを知る—権力分立、連邦制
- 第3週 アメリカを知る—大統領制
- 第4週 アメリカを知る—大きな政府と小さな政府
- 第5週 アメリカを知る—地理
- 第6週 小テスト、消費社会の発達—INTROクシヨン
- 第7週 消費社会の発達—欲望喚起装置
- 第8週 消費社会の発達—デパート・通信販売
- 第9週 消費社会の発達—人々を集め、衝動買いを誘う
- 第10週 消費社会の発達—万国博覧会とデパート
- 第11週 消費社会の発達—ロンドン、パリ万国博覧会
- 第12週 消費社会の発達—万国博覧会にみる帝国主義的まなざし
- 第13週 消費社会の発達—文学（自然主義小説）
- 第14週 消費社会の発達—映画（ジャズ・エイジ）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 毎回数回行う範囲のプリント資料を配付するので、その内容を予習するとともに、必要な事項については各自が下調べをしておくこと。（学修時間 週1.5時間）

【事後学修】 第6週に小テスト、最終週に試験を行うので、そのための準備に積極的に取り組むこと。授業各回でキーワードを提示するので、その言葉について理解を深められるよう授業の復習を各回行うこと。（学修時間 週2.5時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（コメントペーパー）40%、試験60%（小テスト20点、最終回の試験40点）で評価する。

小テストとコメントペーパーについては次回授業でフィードバックを行う。

【参考書】

授業中に提示する。

【注意事項】

アメリカという国について理解を深めたい学生、文化研究に関心がある学生の参加を歓迎する。

【授業のテーマ】

「ベイスック・イングリッシュa, b」および「オーラル・イングリッシュa, b」で学習した内容を踏まえ、3、4年生の専門科目の学習に必要な英語運用能力を養成する。

【授業における到達目標】

この授業の目標は主に以下の2点です。第1に、英語のパラグラフの基本的な構造を学び、パラグラフの内容を正しく理解するための読解力を養成します。第2に、正しい文法で英語を書く練習を行い、最初は短い文から始め、最終的にはある程度の長さのパラグラフを書く能力を養成します。

【授業の内容】

- 第1週 INTRODUCTION 授業の進め方と成績評価についての説明
- 第2週 Chapter 1 Meeting New People at College
- 第3週 Chapter 2 Attending Classes
- 第4週 Chapter 3 Pastimes
- 第5週 Chapter 4 Volunteer Activities
- 第6週 Chapter 5 Environmental Problems
- 第7週 Chapter 6 Cultural Differences
- 第8週 Chapter 7 Studying Abroad
- 第9週 Chapter 8 Part-Time Jobs
- 第10週 Chapter 9 Youth and Politics
- 第11週 Chapter 10 Spending Holidays Abroad
- 第12週 Chapter 11 Job Hunting
- 第13週 Chapter 12 Information Technology
- 第14週 Appendix
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

毎回の授業前に、テキストの該当箇所をよく読み、単語の意味の確認、不明な点の洗い出しを済ませた上で出席すること。その他、授業内で指示のあった作業を済ませておくこと【週2時間】。授業後には、学んだ語彙や文法、パラグラフ構成などの知識を自分のライティングに吸収できるよう心がけること【週2時間】。

【テキスト・教材】

『Improving Your Writing 表現力をつける英作文』（南雲堂 2012年） 1600円

その他に、適宜、クラス別にプリント教材を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への参加・課題） 50%

提出課題 50%

フィードバックは翌回以降の授業時に行う。

【参考書】

授業には辞書（英和・和英）を必ず持参してください。

パラグラフ・ライティング b

—SAクラス・SBクラス・SCクラス・SDクラス・SEクラス—

(SA)島 高行(SB)西野 方子(SC)志渡岡 理恵(SD)青砥 吉隆(SE)村上 まどか

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

インテンシヴ・リーディング a

Katherine Mansfield の短編を読む

(SA)多比羅 真理子

2年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

1年次の英語科目に加え、「パラグラフ・ライティングa」で学習した内容を踏まえ、3、4年生の専門科目の学習に必要な英語の運用能力についての理解と技術を養成します。

【授業における到達目標】

この授業で目指す目標は主に以下の2点です。第1に、さまざまなトピックを扱った英語のパラグラフの内容を正しく理解するための読解力を養成します。第2に、テーマ別のパラグラフを書く練習を行い、最終的には複数のパラグラフからなる短いエッセイを書く能力を養成します。これらの作業を通じ、「国際的視野」、「研鑽力」、「行動力」を養います。

【授業の内容】

- 第1週 イントロダクション 授業の進め方と成績評価についての説明
- 第2週 Chapter 1 The Topic Sentence of the Paragraph
- 第3週 Chapter 2 The Specific Details of the Paragraph
- 第4週 Chapter 3 Time Order
- 第5週 Chapter 4 Space Order
- 第6週 Chapter 5 Process and Direction
- 第7週 Chapter 6 Cause and Effect
- 第8週 Chapter 7 Examples
- 第9週 Chapter 8 Definition
- 第10週 Chapter 9 Classification
- 第11週 Chapter 10 Comparison and Contrast
- 第12週 補充プリント1 Chapters 1-3
- 第13週 補充プリント2 Chapters 4-6
- 第14週 補充プリント3 Chapters 7-10
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

毎回の授業前に、テキストの該当箇所をよく読み、単語の意味の確認、不明な点の洗い出しを済ませた上で出席すること。その他、授業内で指示のあった作業を済ませておくこと【週2時間】。

授業後には、学んだ語彙や文法、パラグラフ構成などの知識を自分のライティングに吸収できるよう心がけること【週2時間】。

【テキスト・教材】

『Paragraphs That Communicate: Reading and Writing Paragraphs—Second Edition パラグラフ・ライティング、パラグラフ・リーディングのコツ—第2版』（マクミラン・ランゲージハウス 2012年）2000円
その他に、適宜、クラス別にプリント教材を配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への参加・課題） 50%

提出課題 50%

フィードバックは翌回以降の授業時に行う。

【注意事項】

授業には辞書（英和・和英）を必ず持参すること。

【授業のテーマ】

20世紀初頭のNew Zealand 出身の作家Katherine Mansfieldの短編小説『園遊会、人形の家』を読みます。作品のテーマをつかみながら、彼女の詩情あるれる文章、子供の視線から描かれる大人の世界を読み解く能力を養成します。また、現代社会との違いや、普遍性も見出し、国際的な視野を深めていきます。

【授業における到達目標】

【到達目標】原作を読み、作者が伝えたい情景、考えを直に想像し理解できる読解力を養成することを目標とします。

【ディプロマ・ポリシーとの関連】異文化圏の文学を読むことで感受性を豊かにし自己成長を目指します。そのためには、教材で取り上げる作品以外に、日本や他のイギリス人作家の作品や、DVDなどを鑑賞し、学生間で積極的に意見交換できる姿勢を修得していきます。

【授業の内容】

- 第1週 Katherine Mansfieldの生涯
- 第2週 子供を描いた他の作品紹介
- 第3週 『園遊会』 1～3頁購読（導入）
- 第4週 『園遊会』 4～6頁購読（展開1）
- 第5週 『園遊会』 7～9頁購読（展開2）
- 第6週 『園遊会』 10～12頁購読（展開3）
- 第7週 『園遊会』 13～15頁購読（展開4）
- 第8週 『園遊会』 16～18頁購読（展開5）
- 第9週 『園遊会』 19～21頁購読（展開6）
- 第10週 『園遊会』 22～23頁購読（結末）
- 第11週 まとめ（1）全体の意見交換
- 第12週 『人形の家』 82～85頁（導入）
- 第13週 『人形の家』 86～89頁（展開）
- 第14週 『人形の家』 90～93頁（結末）
- 第15週 まとめ（2）

単語力を増強する目的のため、前回学習した範囲の単語と、内容を問う小テストを毎回します。

【事前・事後学修】

【事前学習】上記範囲内を精読して内容を把握しておく。小テストの準備をする。（週2時間）。

【事後学習】事前学習や、授業の内容との相違の確認。本クラスで取り上げる作品以外の他の作家の作品や、DVDを鑑賞して知識を深め、学期末に提出するレポートの準備をする。（週2時間）

【テキスト・教材】

キャサリン・マンスフィールド『The Garden Party and Other Stories』（南雲堂 2009年）1800円

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト20% 平常点（授業への積極的参加度）15%

レポート15% 定期試験50%

【注意事項】

必ず担当箇所の予習をしてきてください。

テキストや本作品だけでなく、できるだけ多くの小説を普段から読んでください

インテンシヴ・リーディング a

英語読解力強化のために

(SB)島 高行

2年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

インテンシヴ・リーディング a

イギリス文学を読む

(SC)三井 淳子

2年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

まず比較的やさしい英語の文章を読み、文法事項と構文理解の基本を確認する。また語彙力の強化も行う。

後半は、イギリスの短編小説を取り上げて、上記の事柄が身についたか確かめてみる。またフィクションの読み方の基本を学ぶ。

【授業における到達目標】

様々な英文のスタイルに触れることで、多様なものの見方、表現方法を理解できるようになること。

フィクションの内容を理解するだけでなく、どのような点に注目し分析することができるか、またその作品が潜在的に持っている可能性をどのように引き出すことができるのかを学ぶ。

最終的には、三年次以降のどのような演習科目にも対応できる英語読解能力を身につけることを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 課題プリントunit1
- 第3週 課題プリントunit2
- 第4週 課題プリントunit3
- 第5週 課題プリントunit4
- 第6週 課題プリントunit5
- 第7週 テクストchapter1
- 第8週 テクストchapter2
- 第9週 テクストchapter3
- 第10週 テクストchapter4
- 第11週 テクストchapter5
- 第12週 テクストchapter6
- 第13週 テクストchapter7
- 第14週 テクストchapter8
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修

授業内で行う小テスト、発表の準備を行うこと。(学修時間 週2時間)

事後学修

授業内容の復習と、授業で紹介された文献を読み進めること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

授業開始時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験70%、平常点(小テスト、授業への積極的参加)30%

【注意事項】

授業時には辞書(英和または英英)を持参すること。

【授業のテーマ】

Lewis Carolの“Alice’s Adventures in Wonderland”を英語独特の表現や日本語との構文の違いを理解しながら精読します。英語の読解力と語彙力を高めると同時に、作品が書かれた当時の歴史的・文化的背景にも理解を深め、様々な視点から作品を鑑賞、分析する力を養います。

【授業における到達目標】

到達目標：英文を正確に読み解く力を向上させると同時に、作品が書かれた当時の歴史的・文化的背景への造詣を深め、異文化への理解を促し、作品を多角的な視点から鑑賞する力を養うことを目標とします。

ディプロマ・ポリシーとの関連：異文化圏の文学作品を読むことにより国際的視野を養い、英文学作品を精読する学修を通じて自律的に学ぶ研鑽力を養成することを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週：イントロダクシヨン
- 第2週：作品の背景について
- 第3週：Chap. 1 (1) 前半(~p. 4)
- 第4週：Chap. 1 (2) 後半
- 第5週：Chap. 2
- 第6週：Chap. 3 (1) 前半(~p. 13)
- 第7週：Chap. 3 (2) 後半
- 第8週：Chap. 4 (1) 前半(~p. 19)
- 第9週：Chap. 4 (2) 後半
- 第10週：Chap. 5
- 第11週：Chap. 6 (1) 前半(~p. 30)
- 第12週：Chap. 6 (2) 後半
- 第13週：Chap. 7 (1) 前半(~p. 38)
- 第14週：Chap. 7 (2) 後半
- 第15週：まとめ

【事前・事後学修】

事前学習：次回該当箇所の予習(週2時間)

事後学習：授業で扱った内容の復習(週1時間)

【テキスト・教材】

Carol, Lewis. “Alice’s Adventures in Wonderland” Oxford Bookworms, Third Edition, 2008) ¥772

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業貢献、提出課題など)50%、定期試験50%で総合的に評価する。フィードバックは翌回以降の授業で行う。

【注意事項】

テキスト、辞書は毎授業必携すること。

インテンシヴ・リーディング a

短編を読む

(SD)植野 達郎

2年 前期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

Oscar Wildeの短編とRaymond Carverの短編を読みながら英語をきちんと読むことを学び、読解力を高めます。

【授業における到達目標】

英語をきちんと読むことを踏まえて、それを日本語として正しく表現するとともに、英米の文化を理解することを目指します。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 作品購読 95-96ページ
- 第3週 作品購読 96-97ページ
- 第4週 作品購読 97-98ページ
- 第5週 作品購読 98-99ページ
- 第6週 作品購読 99-100ページ
- 第7週 作品購読 100-101ページ
- 第8週 作品購読 101-103ページ
- 第9週 作品紹介
- 第10週 作品購読 47-49ページ
- 第11週 作品購読 49-51ページ
- 第12週 作品購読 51-53ページ
- 第13週 作品購読 53-55ページ
- 第14週 作品購読 55-56ページ
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：テキストの該当箇所の予習。（学修時間 週3時間）

事後学修：授業で行った箇所の復習。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

授業時に指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業に参加する態度、発表回数）50%

期末試験 50%

【注意事項】

授業前に必ず予習を行い、授業には積極的に参加すること。

インテンシヴ・リーディング b

短編を読む

(SA)植野 達郎

2年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

Roald Dahlの短編とTruman Capoteの短編を読みながら、英語をきちんと読むことを学び、日本語との違いを学びます。

【授業における到達目標】

英語の読解力の経験値を高め、英文を正しく読み、その英文の内容を日本語で正しく表現するとともに、英米の文化を理解することを目指します。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 作品購読 58-59ページ
- 第3週 作品購読 59-61ページ
- 第4週 作品購読 61-63ページ
- 第5週 作品購読 63-65ページ
- 第6週 作品購読 65-67ページ
- 第7週 作家・作品紹介
- 第8週 作品購読 24-25ページ
- 第9週 作品購読 25-26ページ
- 第10週 作品購読 26-28ページ
- 第11週 作品購読 28-29ページ
- 第12週 作品購読 29-30ページ
- 第13週 作品購読 30-32ページ
- 第14週 作品購読 32-34ページ
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：テキストの該当箇所を精読し、しっかり調べます。（学修時間 週3時間）

事後学修：授業の内容を復習します。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

授業時に指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業に参加する態度、発表回数）50%

期末試験50%

【注意事項】

授業の前に必ず予習を行い、授業には積極的に参加すること。

インテンシヴ・リーディング b

イギリス文学を読む

(SB)三井 淳子

2年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

インテンシヴ・リーディング b

テッド・チャン (Ted Chiang) 作品群の講読

(SC)青砥 吉隆

2年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

チャールズ・ディケンズの“A Christmas Carol”を精読します。英語独特の表現や日本語との構文の違いをしっかりと把握し、読解力と語彙力を高めると同時に、作品の歴史的・文化的背景にも造詣を深め、作品を多角的な視点から鑑賞、分析する力を養います。

【授業における到達目標】

到達目標：英文を正確に読むと同時に、作品が書かれた当時の社会的背景にも造詣を深め、作品を様々な視点から読み解く力を養うことを目標とします。

ディプロマ・ポリシーとの関連：イギリスの文学作品を精読することにより、異文化圏への理解を深め、国際的な視野を養成する。精読という学修を通じて、自律的に学ぶ研鑽力を養う。

【授業の内容】

- 第1週： イントロダクション
- 第2週： 作品の背景について (ヴィクトリア時代のイギリス)
- 第3週： Chap. 1 (1) 序盤 (~p. 4)
- 第4週： Chap. 1 (2) 中盤 (~p. 8)
- 第5週： Chap. 1 (3) 終盤
- 第6週： Chap. 2 (1) 前半 (~p. 19)
- 第7週： Chap. 2 (2) 後半
- 第8週： Chap. 3 (1) 前半 (~p. 32)
- 第9週： Chap. 3 (2) 後半
- 第10週： Chap. 4 (1) 前半 (~p. 44)
- 第11週： Chap. 4 (2) 後半
- 第12週： Chap. 5 (1) 前半 (~p. 54)
- 第13週： Chap. 5 (2) 後半
- 第14週： 作品の背景について (ディケンズ)
- 第15週： まとめ

【事前・事後学修】

事前学習：次回該当箇所の予習 (週2時間)

事後学習：授業で扱った内容の復習 (週1時間)

【テキスト・教材】

Dickens, Charles. “A Christmas Carol” (Oxford, Bookworms, 2008) ¥772

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点 (授業貢献、課題提出など) 50%、定期試験 (50%) で総合的に評価します。

フィードバックは翌回以降の授業時に行います。

【注意事項】

テキスト、辞書は毎回必携のこと。

【授業のテーマ】

新進気鋭のSF作家であるテッド・チャン (Ted Chiang) の短編集を読んでみましょう。チャンは男性でありながら、女性を主人公とした短編を数多く執筆しており、“Stories of Your Life” は、2017年公開の映画『メッセージ』の原作となりました。この作品を読み込むことで英語力を高め、同時にSFという「未知なる物」を理解しようとする知的態度を身につけましょう。

この作品は、時制が入り乱れており、また難解な単語も頻出します。これまでに学習してきた英文法を復讐しながら、自分なりにこの作品を訳出して頂きたいと思います。一回の授業ごとに、前回の授業で取り扱った単語及び文法の確認テストを行います。

【授業における到達目標】

上述の通り、この作品は決して読むのが容易いものではありません。しかし、そのような文章を読み込むことで作品の構造を理解し、また同時に、多角的な視点から物事を考える能力を涵養することを到達目標に設定します。

【授業の内容】

- 第一週 イントロダクション
- 第二週 作品講読及び解説 (Section 1)
- 第三週 作品講読及び解説 (Section 2)
- 第四週 作品講読及び解説 (Section 3)
- 第五週 作品講読及び解説 (Section 4)
- 第六週 作品講読及び解説 (Section 5)
- 第七週 作品講読及び解説 (Section 6)
- 第八週 作品講読及び解説 (Section 7)
- 第九週 作品講読及び解説 (Section 8)
- 第十週 作品講読及び解説 (Section 9)
- 第十一週 作品講読及び解説 (Section 10)
- 第十二週 作品講読及び解説 (Section 11)
- 第十三週 作品講読及び解説 (Section 12)
- 第十四週 作品講読及び解説 (Section 13)
- 第十五週 総括

【事前・事後学修】

[事前学習]

各回ごとに、該当ページに出てくる単語の意味を調べ、作品を訳出しておきましょう。単語及び文法確認テストの準備もして下さい。(週2-3時間)

[事後学習]

授業後は、物語の流れをもう一度確認し、テストについては間違った箇所の再確認をして下さい。(週2時間)

【テキスト・教材】

Ted Chiang 『Stories of Your Life and Others』 (New York: Vintage Books, A Division of Penguin Random House LLC, 2016) ¥1,800-

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小テスト20%、
平常点30% (授業への積極的参加)、
期末レポート50%

【注意事項】

必ず予習、復習を行いましょ

インテンシヴ・リーディング b

社会・文化に関する英文を読む

(SD)稲垣 伸一

2年 後期 1単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

イギリス文学史 a

『ベオウルフ』から近代小説の誕生まで

島 高行

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

現代社会について解説した英文を読むことにより、リーディングの能力を高める。

【授業における到達目標】

文法事項の確認を行いながら、英文を正確に読むこと、できるだけ豊富な語彙を身につけることを目標とする。また、英語で書かれた内容を理解することにより、現代社会について考察することも目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODakション
- 第2週 Unit 1 (現在完了)
- 第3週 Unit 2 (副詞節)
- 第4週 Unit 3 (形容詞+前置詞)
- 第5週 Unit 7 (接続詞、関係詞)
- 第6週 Unit 8 (形容詞、副詞)
- 第7週 Unit 11 (関係詞)
- 第8週 中間試験
- 第9週 Unit 12 (受動態)
- 第10週 Unit 13 (数量詞)
- 第11週 Unit 14 (派生語)
- 第12週 Unit 15 (形容詞Every, Any, All)
- 第13週 Unit 16 (前置詞To, For, With)
- 第14週 Unit 17 (名詞節)
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】次の授業で扱うUnitを予習する。(学修時間 週1時間)

【事後学習】授業でUnitの内容を復習する。(学修時間 週1時間)

【テキスト・教材】

授業初回に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業での発表等) 50%

試験(中間、期末) 50%

フィードバックは翌回以降の授業及びmanabaで行う。

【注意事項】

必ず予習すること。

中英和程度の辞書(本あるいは電子辞書)を必ず授業時に持参すること。スマートフォンのアプリ等は不可。

【授業のテーマ】

アングロ・サクソン時代から18世紀半ばにいたるイギリス文学の歴史を概観する。それぞれの時代を代表する作品を紹介しつつ、それらがどのような歴史的条件のもとで生み出されてきたのかを明らかにする。

【授業における到達目標】

『ベオウルフ』の時代から18世紀にいたるまでのイギリス文学の歴史を学び、その特質を理解する。そのことにより、多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度を身につける。また文学と社会、歴史との関連性を学ぶことにより、学ぶ愉しさをすることを旨とする。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODakション
- 第2週 『ベオウルフ』と叙事詩の伝統
- 第3週 中世1 チョーサー
- 第4週 中世2 マロリイ他
- 第5週 ルネサンス1 スペンサー
- 第6週 ルネサンス2 シェイクスピア 喜劇
- 第7週 ルネサンス3 シェイクスピア 悲劇
- 第8週 ルネサンス4 シェイクスピア 四大悲劇
- 第9週 ルネサンス5 シェイクスピア ロマンズ劇
- 第10週 ルネサンス6 ジョン・ダン他
- 第11週 17世紀 革命と文学 ミルトン
- 第12週 18世紀 古典と文学 ポープ
- 第13週 18世紀 経済と文学 デフォー、スウィフト
- 第14週 18世紀 小説形式の多様化
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：授業で扱う範囲を教科書で読み、主要な作品に目を通しておくこと。週2時間。

事後学修：授業で取りあげた作品だけでなく、関連する作品をできるだけ多く読むこと。週2時間。

【テキスト・教材】

神山妙子編著『初めて学ぶイギリス文学史』(ミネルヴァ書房、2015年) 2,800円。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験80パーセント、リアクションペーパー等授業内活動20パーセント。

リアクションペーパーによる質問については、次回の授業の冒頭で回答する。

【参考書】

授業時に指示する。

【注意事項】

授業内で紹介した作品はできるだけ自分で読んでみることを。

授業中の私語は厳禁。

遅刻の場合は、授業中であってもすぐに申し出ること。申し出のあった時間を記録する。

イギリス文学史 b

ロマン派から現代まで

土屋 結城

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

ロマン派から現代に至るまでのイギリス文学の作家、作品について学ぶとともに、作家、作品の背景にある思想、文化についても考察する。時代背景を色濃く映した作品を概観することにより、近代、現代のイギリス文学についての理解を深めることを目的とする。

【授業における到達目標】

近代、現代のイギリス文学についての理解を深め、全学ディプロマ・ポリシーのうち、「研鑽力」と知を求めようとする「美の探究」を修得することを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨN
- 第2週 ロマン派の詩
- 第3週 19世紀初期の小説（ゴシック小説）
- 第4週 19世紀初期の小説（Jane Austen, Walter Scott）
- 第5週 19世紀中期の小説（Charles Dickens, William Makepeace Thackeray）
- 第6週 19世紀中期の小説（ブロンテ姉妹）
- 第7週 19世紀の児童文学（Lewis Carrollなど）
- 第8週 19世紀中期の詩（Robert Browning, Alfred Tennyson）
- 第9週 19世紀後期の小説（Joseph Conrad, Thomas Hardy）
- 第10週 19世紀の演劇（Oscar Wilde, George Bernard Shaw）
- 第11週 20世紀初頭の小説（モダニズムの小説）
- 第12週 20世紀初頭の詩（モダニズムの詩）
- 第13週 20世紀の演劇（Samuel Beckettなど）
- 第14週 現代の小説（Kazuo Ishiguroなど）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】

授業前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。（学修時間 週2時間）

【事後学修】

授業内容を復習すること。授業で学んだ作品に触れること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

神山妙子編『はじめて学ぶイギリス文学史』（ミネルヴァ書房）2800円+税

その他、適宜プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

リアクション・ペーパー30%、試験70%で評価する。
フィードバックは次回以降の授業で行う。

【注意事項】

授業で解説する作品はなるべく手に入りやすい形態のものを紹介するので、できる限り多く読んだり見たりして作品そのものに触れること。

アメリカ文学史 a

国民文学の創成から自然主義小説まで

稲垣 伸一

2年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

【授業のテーマ】

19世紀から20世紀初頭までにアメリカで活躍した作家や思想家の作品を紹介する。

【授業における到達目標】

それぞれの時代の文化的・文学的特徴を理解し、多くの作家・作品を知る。
また、アメリカにおける作家・思想家の思想に触れ、読んだ文章の内容について理解を深めて、考察した内容を文章にまとめる能力を養成する。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨN
- 第2週 国民文学の創世と成熟（Washington Irving, James Fenimore Cooper）
- 第3週 国民文学の創世と成熟（Edgar Allan Poe）
- 第4週 アメリカン・ルネッサンス（Ralph Waldo Emerson, Henry David Thoreau）
- 第5週 アメリカン・ルネッサンス（Walt Whitman）
- 第6週 アメリカン・ルネッサンス（Herman Melville）
- 第7週 アメリカン・ルネッサンス（Nathaniel Hawthorne）
- 第8週 奴隷制を巡る作品（Harriet Beecher Stowe）
- 第9週 奴隷制を巡る作品（Frederick Douglass, Harriet Jacobs）
- 第10週 1860～1880年代—リアリズムの小説（Mark Twain）
- 第11週 1860～1880年代—リアリズムの小説（Henry James）
- 第12週 1890～1910年代—自然主義小説（Stephen Crane）
- 第13週 1890～1910年代—自然主義小説（Frank Norris）
- 第14週 1890～1910年代—自然主義小説（Theodore Dreiser, Jack London）
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 次回の授業で扱う作家・作品を、テキストの該当箇所ですべて予習しておくこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】 授業各回の終了後、配付したプリントも参照して復習すること。また、授業で紹介された作品のうち関心を持ったものができるだけ多く読むようにすること。（学修時間 週3時間）

【テキスト・教材】

井上謙治『アメリカ小説入門』（研究社、1995）2,300円

その他の資料は授業時に適宜配付する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（コメントペーパー）40%・試験60%で評価する。
コメントペーパーについては、書かれた質問等に対して次の回の授業冒頭で回答することによりフィードバックを行う。

【参考書】

授業時に提示する。

【注意事項】

ただ講義を聴くのではなく、授業中に作品の一部を読み、紹介されている作品の内容について受講者が考える機会を持つよう授業を進める。たくさんの気に入った作品に出会うために、紹介された作品を授業外で積極的に読むことを推奨する。

アメリカ文学史 b

20世紀から現代まで

佐々木 真理

2年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究

英語学概論 a

英語を言語学という学問分野から観察する

吉本 真由美

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

20世紀初頭から現在までのアメリカ合衆国の文学の歴史と特色について、社会的・文化的背景を踏まえつつ、代表的な作家及び作品を取り上げながら学びます。

【授業における到達目標】

アメリカ文学の特徴と変遷に関する知識と理解を深めることを目標とします。それによって、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる研鑽力を養います。また、文学の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を育みます。

【授業の内容】

毎回プリントを配布し、時代ごとにその歴史や社会的変化について説明した上で、作家及び作品について講義を行います。代表的な作品の抜粋のコピーを配布しますので、受講者はそれらを丹念に読み理解した上で、批評することが求められます。

- 第1週 第1次世界大戦前後① ガートルード・スタインとモダニズム
- 第2週 第1次世界大戦前後② アーネスト・ヘミングウェイと失われた世代
- 第3週 第1次世界大戦前後③ スコット・フィッツジェラルドとジャズ・エイジ
- 第4週 第1次世界大戦前後④ ネラ・ラーセンとハーレム・ルネサンス
- 第5週 第2次世界大戦前後① ウィリアム・フォークナーと南部文学
- 第6週 第2次世界大戦前後② ジョン・スタインベックと抵抗の文学
- 第7週 冷戦期① J・D・サルインジャーとシルヴィア・プラスと50年代
- 第8週 冷戦期② テネシー・ウィリアムズとサザン・ルネサンス
- 第9週 冷戦期③ トルーマン・カポーティとサザン・ルネサンス
- 第10週 ポスト冷戦期① SFとポストモダニズム
- 第11週 ポスト冷戦期② リチャード・ブローティガンとポストモダニズム
- 第12週 ポスト冷戦期③ レイモンド・カーヴァーとミニマリズム
- 第13週 21世紀② トニ・モリソンとマイノリティ文学
- 第14週 21世紀③ エイミ・タンとアジア系アメリカ文学
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 期末試験の課題図書を読むこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】 授業の内容を復習し、期末試験の課題についてリサーチを行うこと。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

プリント配布

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業への積極参加・提出課題)50%、期末試験50%。
提出課題は次回の授業においてフィードバックを行う。

【授業のテーマ】

後期の「英語学概論b」とあわせて、英語学(言語学)の様々な研究領域について概観します。私たちが日ごろ、特別に意識せずに難なく使用している「言語」について、意識して観察してみると、そこにはたくさんの疑問がわいてきます。この授業では、そんな「言語の不思議」について、英語を対象に各専門領域でどのような研究がなされているのか、基本的な内容を学びます。

【授業における到達目標】

前期の「英語学概論a」では、まず英語の歴史的な変化、地域間のバリエーションを扱い、その後、英語の音、単語、文構造に焦点を置いて、英語そのものの性質について観察していきます。これらの研究領域の基礎を学ぶとともに、それぞれの内容に関わる、日本語や英語などの身近な具体例を自分で考え、理解を深めることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 イントロダクション
- 第2週 第1章：言語の起源と語族
- 第3週 第2章：言語研究の方法
- 第4週 第3章：英語の発音とスペリング
- 第5週 第4章：英語の語彙の多様性
- 第6週 第5章：標準英語の成立
- 第7週 第6章：英語のバリエーション
- 第8週 第7章：英語の変化
- 第9週 第8章：音声学
- 第10週 第9章：音韻論
- 第11週 第10章：形態論
- 第12週 第11章：統語論1(文ができるしくみ)
- 第13週 第12章：統語論2(文の内部構造)
- 第14週 生成文法理論の問題設定
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学習:

各回の該当する箇所を事前に読み、章末の練習問題に取り組むこと(週2時間)。

事後学修:

授業内でわからなかったこと、疑問に思ったことを整理し、それについて文献等を調べて自分なりの答えを検討すること(週2時間)。

【テキスト・教材】

長谷川瑞穂編著『はじめての英語学』改訂版(研究社、2014年)2、500円+税

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への参加度・コメントシート 30%

課題 20%

試験 50%

コメントシート等、提出物のフィードバックは翌週行います。

【参考書】

田中春美他『入門ことばの科学』大修館書店
安藤貞雄・澤田治美『英語学入門』開拓社
中島平三・外池滋生『言語学への招待』大修館書店
その他、授業中に紹介します。

【注意事項】

講義の内容をただ聞くだけでなく、自分で様々な具体例を考えながら、「この場合はどんな説明ができるか」「この場合は、授業で習った内容では説明できないのではないかな」等、自ら考察を広げていく楽しさを味わってください。

英語学概論 b

英語に関する言語学を探究する

村上 まどか

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

英語圏の詩

詩のレトリックを学ぶ

島 高行

2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

英語の意味論・語用論にトピックを広げ、文脈や談話、コミュニケーションについて考察を深めます。社会言語学・英語教育についても基礎を学びます。

【授業における到達目標】

英語学・言語学のエッセンスを学ぶことによって、知的好奇心を満たします。中でも意味論・語用論の探究は、言外の意味を探ることになり、深い洞察力を身につけることができます。

【授業の内容】

第1週	第13章	意味論
第2週	第14章	意味関係
第3週	第15章	比喩表現
第4週	第16章	モダリティ（主観的表現）
第5週	第17章	意味と文脈
第6週	第18章	文の結束性
第7週	第19章	文の情報構造
第8週	第20章	語用論
第9週	第22章	英語と文化
第10週	第23章	社会言語学
第11週	第24章	4大英語国家
第12週	第25章	英語教育・教授法
第13週		補充プリント
第14週		予備日
第15週		総括

【事前・事後学修】

授業1回につき前期と同じテキスト1章をすすめるので、次回の単元をよく読んで、章末の「課題」について考えてくること（週に約2時間）。

授業内ノートは余白を十分に取って記入し、授業後に不明な箇所を調べて書き加え、事後学修とすること（週に約2時間）。

【テキスト・教材】

長谷川瑞穂・編著『はじめての英語学』改訂版（研究社、2014年）
定価2500円。

前期と同じテキストの後半を用いるが、第21章は割愛し、試験にも含めない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

出席率を満たした上での、100点満点の筆記試験（自筆ノートのみ持ち込み可）による。番号入力が入力時間も記録が付くので、遅刻もそれによって厳格につけ、29分59秒までの遅刻3回を欠席1回にカウントし、30分より遅ければ欠席とする。

成績評価は試験が100%である。

前回までの講義内容は、授業内で適宜フィードバックされる。

【参考書】

安藤貞雄・澤田治美『英語学入門』（開拓社）
東照二『社会言語学入門』（研究社）
その他も授業中に紹介する。

【注意事項】

- manabaの9桁番号送信システムにより出席をとる。授業の最後に若干名を指名して質問に答えさせ、この時に返事をしなかった者は番号送信をしても欠席とする。
- 配布プリントは、manaba にアップする。

【授業のテーマ】

ジョン・ダンとシェイクスピアの作品を中心に、英語圏の詩を学ぶ。特にメタファー、メトニミー等のレトリックが、それぞれの作品においてどのような役割を果たしているかに注目し、作品分析を行う。

またビートルズやボブ・ディランの歌詞なども同時に紹介し、詩に親しみ、レトリックが身近に感じられるような講義を行う。

【授業における到達目標】

詩の発想と表現の多様さを学ぶことにより、多様性を受容し、多角的な視点を以て世界に臨む態度を身につける。

また言葉によって表現された細やかな感情を詩を通して学ぶことで、美に対する意識を高めることを目標とする。

【授業の内容】

第1週	イントロダクション
第2週	喩えについて
第3週	メタファーと詩
第4週	メトニミーと詩
第5週	奇想と詩
第6週	逆説と詩
第7週	誇張法と詩
第8週	矛盾撞着語法と詩
第9週	象徴と詩
第10週	詩の形式 ソネット形式の歴史
第11週	詩の形式 ソネット形式の発展
第12週	詩の形式 韻律
第13週	詩の形式 形象詩
第14週	劇詩
第15週	まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：授業で取り上げるテーマについて、事前に基礎的知識を学んでおくこと。週2時間。

事後学修：授業で紹介した詩を何度も音読すること、また同じ詩人のほかの作品も読んでみる。週2時間。

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験80点、平常点（リアクションペーパー）20点。

リアクションペーパーによる質問については、次回の授業冒頭で答える。

【参考書】

授業時に指示する。

【注意事項】

詩のレトリックを学ぶことで、ものの見方が変わるような授業を目指しますので、積極的に学ぶ姿勢を求めます。

授業時の私語は厳禁。

遅刻の場合は、すぐに申し出ること。申告のあった時間を記録する。

英語圏の演劇

シェイクスピアの世界

伊澤 高志

2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

英語圏の演劇を代表するものとして、ウィリアム・シェイクスピアの作品について講義します。まず、シェイクスピアの時代の演劇や劇場の様子などの概説を行い、それを踏まえて具体的な作品として喜劇『夏の夜の夢』と悲劇『マクベス』を取り上げます。それぞれ幕ごとに舞台上演の様子を映像で確認しながら、台詞や場面の分析を行い、その特質、歴史性、そして現代性を探っていきます。前者は妖精、後者は魔女という超自然的存在の登場する作品ですが、喜劇と悲劇という異なったジャンルに属し、まったく性質の違う作品です。両作品を通してシェイクスピア作品の多様さをうかがい知ることができるといえます。

【授業における到達目標】

シェイクスピアの作品についての理解を深めること、さらにそこから演劇全般へと関心を広げてゆくことを目標とします。また、全学ディプロマ・ポリシーのうち、「知を求め、心の美を育む態度」および「学修を通して自己成長する力」を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 シェイクスピアの生涯と作品
- 第3週 シェイクスピア時代の演劇と劇場
- 第4週 『夏の夜の夢』第1幕
- 第5週 『夏の夜の夢』第2幕
- 第6週 『夏の夜の夢』第3幕
- 第7週 『夏の夜の夢』第4幕
- 第8週 『夏の夜の夢』第5幕
- 第9週 中間まとめ
- 第10週 『マクベス』第1幕
- 第11週 『マクベス』第2幕
- 第12週 『マクベス』第3幕
- 第13週 『マクベス』第4幕
- 第14週 『マクベス』第5幕
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】

授業範囲を予習し、作品の内容について自分なりに理解しておくこと。（学修時間 2時間）

【事後学修】

授業内容について復習し、理解を深めること。また不明な点は図書館等を利用して積極的に自分で調べること。（学修時間 2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用する。ただし、取り上げる作品については日本語訳を各自で入手してもらいたい。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

リアクション・ペーパー30%、期末試験70%で評価を行う。リアクション・ペーパーに対しては翌週以降にフィードバックを行う。

【参考書】

- 河合祥一郎『シェイクスピア 人生劇場の達人』
- 喜志哲雄『シェイクスピアのたくらみ』
- 小林章夫、河合祥一郎編『シェイクスピア・ハンドブック』
- 高橋康也編『新装版 シェイクスピア・ハンドブック』
- 日本シェイクスピア協会編『新編 シェイクスピア案内』

女性と英語圏文学 a

イギリス女性作家の世界

志渡岡 理恵

2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

17世紀から20世紀の間にイギリスおよび旧植民地で文筆活動を行った女性たちの生涯と作品を様々な視点から振り返り、当時の社会との関係や現代との繋がりについて考えながら、多彩な女性作家たちの活動について理解を深めることを目指します。

【授業における到達目標】

イギリスの女性作家の多様な活動に触れることにより、女性が「書く＝自己表現する」意味と困難について考察し、女性と社会・文化の関係をより深く理解できるようになることを目指します。

【授業の内容】

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 A. ベーン—初の女性職業作家
- 第3週 M. ウルストンクラフト—女性の権利
- 第4週 J. オースティン—映像化され続ける作品
- 第5週 A. ラドクリフとM. シェリー—ゴシック小説の系譜
- 第6週 E. ギャスケル—社会へのまなざし
- 第7週 B. ボター—童話と自然保護運動
- 第8週 O. シュライナー—南アフリカを描く
- 第9週 I. バード—日本への旅
- 第10週 F. バーネット—児童文学におけるインド表象
- 第11週 A. ブラジル—スクールガール文化
- 第12週 V. ウルファー—モダニズム、フェミニズム
- 第13週 K. マンスフィールド—少女の目線
- 第14週 A. クリスティー—推理小説と旅行文化
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】各回でとりあげる女性作家について、図書やインターネットで調べておくこと。（学修時間 週1時間）

【事後学修】各回でとりあげた女性作家の作品を読んで理解を深めること（学修時間 週3時間）

【テキスト・教材】

プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（リアクションペーパー）50%、定期試験50%。リアクションペーパーへのフィードバックは、次回授業で行います。

【参考書】

授業時に提示します。

【注意事項】

自分なりの問題意識をもって授業に臨むこと。

女性と英語圏文学 b

アメリカ女性文学の伝統と変遷

佐々木 真理

2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

イギリス文学・文化講義 a

—現代表象文化にみるアーサー・ロマンスと女性達—

大関 啓子

2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

18世紀から21世紀にかけて、アメリカ社会の変容と共に変化してきた女性の生き方を検証しながら、アメリカ女性文学の伝統と変遷について、さまざまな作家・作品を通して考察します。

【授業における到達目標】

アメリカ女性文学の伝統と変遷に関する知識と理解を深めることを目標とします。それによって、文学の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を育みます。また、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる研鑽力を養います。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 ピューリタニズムと女性詩人—Anne Bradstreet
- 第3週 共和国と誘惑小説—Hannah Webster Foster
- 第4週 19世紀の女性—Margaret Fuller
- 第5週 家庭の天使たち—Louisa May Alcott
- 第6週 目覚めの時代—Kate Chopin
- 第7週 新しい女性—Edith Wharton
- 第8週 西部と女性—Willa Cather
- 第9週 女性参政権運動—Charlotte Perkins Gilman
- 第10週 南部貴婦人の神話—Margaret Mitchell
- 第11週 女性らしさの神話—May Sarton
- 第12週 フィーメール・ゴシック—Joyce Carol Oates
- 第13週 移民と母性—Jamaica Kincaid
- 第14週 21世紀の新たな可能性—Kelly Link
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 期末試験の課題図書を読み進めること。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 期末試験の課題について、リサーチを行うこと。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリント配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・レスポンスシート）50%、期末試験50%。

レスポンスシートは次回授業でフィードバックを行う。

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【注意事項】

特別な理由のない遅刻、欠席、授業中の私語は平常点より減点されるので注意すること。

【授業のテーマ】

アーサー王伝説をテーマにした映像を中心に、アーサー王物語の世界を、「読む」だけでなく、「観て」「聞いて」広く鑑賞して、文学・音楽・美術など様々なジャンルから理解を深めます。

特に現代にも通じる女性たちの活躍に注目します。

【授業における到達目標】

1つの題材について、国・時代・ジャンルなどの、異なる研究方法をとりあげ、様々な角度から考察することにより、多角的に考え、文化の多様性を理解する方法を広げることを目標とします。

【授業の内容】

ケルト世界の伝説に起源するアーサー・ロマンスと総称されるロマンス群が、中世末期にトマス・マロリーにより集大成され、その後も、E. スペンサー、R. ワグナー等、多くの芸術家たちの限らない想像力をかきたて、特に19世紀、A. テニスンにより、ヴィクトリア朝の英雄崇拜理念に再構成されて、一般化しました。

その領域は文学にとどまらず、歴史・美術・音楽、演劇、そして現代では、映画の『スター・ウォーズ』やハリリー・ポッター・シリーズ、さらにコンピュータ・ゲーム等、あらゆる分野に多大の刺激を与え、世界中に広まっていきました。20世紀以降の映像世界を見渡しただけでも、多くの名作があります。それらには、現代世界の様々な問題が反映されています。例えば、男性中心の中世社会の中で、文化・文学・教育等で輝いた女性達の存在に注目します。

以下の内容を予定しています。

1. Introduction
2. 歴史のアーサーと中世の女性達
3. 映画『スター・ウォーズ』と映画『アーサー』
4. 映画『エクスカリバー』と映画『トリスタンとイゾー』
5. 中世に生き、導き、書いた女性マリー・ド・フランス
6. 中世装飾写本
7. 『ガウェイン卿と緑の騎士』における奥方の役割
8. トマス・マロリーの『アーサーの死』
9. 『シャロットの女』—ヴィクトリア朝の女性と教育
10. ウィリアム・モリスとアーサー王伝説—ラファエル前派
11. A. V. ビアズリーの *Morte Darthur*
12. リヒャルト・ワグナーの楽劇『トリスタンとイゾー』
13. 夏目漱石の『薔露行』
14. ハリー・ポッターと『指輪物語』—現代の女性像
15. Conclusion

【事前・事後学修】

事前学修として各回の授業で取り上げる作品について、2時間程度、各自鑑賞し予習しておくこと。

事後学修として、前回の授業で扱った作品について2時間程度、復習をし、まとめておくこと。

【テキスト・教材】

テキストは使用せず、プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・リアクションペーパー・課題提出等）30%、レポート70%として評価します。課題は期日と場所を指定して、フィードバックします。

イギリス文学・文化講義 b

—ケルト「異界」への旅—

大関 啓子

2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

ヨーロッパ精神文化のルーツともいえるケルト民族の、異界と女性たちについての考え方を探り、その文学・文化への影響をたどります。

【授業における到達目標】

この講座では英文学を中心に、「読む」だけでなく、美術や音楽の世界にも触れながら、DVDやパワーポイントなどを使い、「見て」「聞いて」広く鑑賞して理解を深めることにより、多角的に考え、文化の多様性を理解する方法を広げることを目標とします。

【授業の内容】

古代ヨーロッパを支配していたケルト人は、文字を持たず、口承によって多くの神話や民話を伝えました。彼らは美と真理を愛し、驚くべき想像力を駆使して優れた芸術を遺しましたが、ローマ人とゲルマン人の勢力におされ、西に追いやられた結果、今日ではかろうじて緑の島アイルランドやウェールズに生きています。

森や泉や巨石を聖所とする彼らの自然信仰は、異教であるキリスト教を受け入れながら、独自の文化を生み出しました。文学の世界では、アーサー王伝説などの中世騎士物語や、多くの妖精伝承、そしてW. B. イエイツ、ジョナサン・スイフト、ジェームズ・ジョイス、ラフカディオ・ハーンなどのアイリッシュ・ライターたちに、その想像力が受け継がれています。最近では、ハリー・ポッターの世界やJ. R. R. トールキンの『指輪物語』、C. S. ルイスの『ナルニア国物語』などにもその影響が見られます。特にケルト社会の女性たちの存在とその影響に注目します。

以下の内容を予定しています。

1. Introduction
2. 幻の民ケルトとは？
3. 激情と創造の伝説—ケルトの起源と勢力
4. イギリス人とケルト人
5. 民族国家の興亡
6. 神々の変貌(ケルトの宗教)
7. ケルトの女性達
8. ケルトの教育
9. ケルトの芸術
10. 装飾写本『ケルズの書』とジェームズ・ジョイス
11. ケルトを聴く—エンヤ、ケルティック・ウーマン
12. ケルトを読む1—W. B. イエイツ、O. ワイルド、サミュエル・ベケット
13. ケルトを読む2—ジョナサン・スイフト、ラフカディオ・ハーン
14. ケルトを観る—ハリー・ポッターと『ナルニア国物語』
15. Conclusion

【事前・事後学修】

事前学修として各回の授業で取り上げる作品について、2時間程度、各自鑑賞し予習しておくこと。

事後学修として、前回の授業で扱った作品について、2時間程度復習をし、まとめておくこと。

【テキスト・教材】

テキストは使用せず、プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業態度・リアクションペーパー・課題提出等)30%、レポート70%として評価します。

課題は期日と場所を指定して、フィードバックします。

アメリカ文学・文化講義 a

アメリカの歴史と思想—植民地時代から南部再建まで

斎木 郁乃

2年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

植民地時代から南北戦争を経て南部再建までの、アメリカの歴史と社会思想を、人種、階級、ジェンダー、そして民主主義に焦点をあてながら、文学作品や映画を用いて解説します。

【授業における到達目標】

17世紀から19世紀のアメリカの歴史と思想の流れを理解できるようになる。学生が修得すべき「国際的視野」のうち国際感覚を身につけて世界に踏み出し社会を動かそうとする態度と、「美の探求」のうち人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を身につけ、「研鑽力」のうち学ぶ愉しみを知り、生涯にわたる知を探究し、学問を続ける能力を養う。

【授業の内容】

- 第1週 イントロダクション
- 第2週 ポカホンタスと植民地時代 1 *The New World*
- 第3週 ポカホンタスと植民地時代 2 講義と解説
- 第4週 魔女狩りとピューリタニズム 1 *The Crucible*
- 第5週 魔女狩りとピューリタニズム 2 講義と解説
- 第6週 捕鯨と拡張主義 1 *In the Heart of the Sea*
- 第7週 捕鯨と拡張主義 2 講義と解説
- 第8週 プロテスタンティズムと資本主義 1 "Bartleby, the Scrivener"
- 第9週 プロテスタンティズムと資本主義 2 講義と解説
- 第10週 感傷主義と女性作家たち 1 *Uncle Tom's Cabin* 他
- 第11週 感傷主義と女性作家たち 2 講義と解説
- 第12週 奴隷解放運動と南北戦争 1 *Lincoln*
- 第13週 奴隷解放運動と南北戦争 2 講義と解説
- 第14週 南部再建
- 第15週 授業のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】その週で扱う映画や文学作品に目を通してください。(学修時間 週2時間)

【事後学修】授業で学んだことを、ハンドアウトとノートを見ながら復習してください。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

毎回ハンドアウトを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

定期試験80%、授業内の提出物20%で評価します。試験結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

ハンドアウトに記載します。

【注意事項】

3分の2以上の授業に出席すると、試験の受験資格が得られます。

アメリカ文学・文化講義 b

アメリカの光と影

植野 達郎

2年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

アメリカの生活の一端をさまざまな角度から考察します。アメリカの文学や文化を知ることにより、私たち自身の文学や文化についての理解を深めます。

【授業における到達目標】

アメリカの生活や文化を知ることにより、自国の文化を相対的に見ることがを学び、国際感覚を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 大統領
- 第3週 銃
- 第4週 車
- 第5週 食
- 第6週 教育・スポーツ
- 第7週 キャラクター
- 第8週 音楽（フォークソング）
- 第9週 音楽（ロック）
- 第10週 小説の中の若者
- 第11週 ハリウッド
- 第12週 アカデミー賞
- 第13週 ディズニー
- 第14週 小説の中の戦争
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：それぞれの授業に備えてトピックについて調べる。（学修時間 週3時間）

事後学修：トピックについてのレポートをmanabaで提出する。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

必要に応じて提示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・レポート）50%

期末試験 50%

女性と言語学

言語にあらわれる女性性を探る

村上 まどか

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

英語と日本語における女性差別的な表現をさまざまな角度から豊富な実例を挙げて観察することによって、1970年代から現在にいたるまでの女性に関する社会言語学を概観します。

【授業における到達目標】

日本語的な文化・精神には女性差別的な負の面もあると知ることになりますが、主に英語圏の多様な言語観を学ぶことによって国際感覚を身に付けます。

性差のない言語はありえないが、性差別のない言語は実現可能であるという信念のもと、そのような言語運用を実践していく女性になることが目標です。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨンと動画
- 第2週 「女ことば」の歴史
- 第3週 Robin Lakoff（1975）の言語観
- 第4週 Dale Spender（1980）の言語観
- 第5週 Deborah Tannen（1990）の言語観
- 第6週 ポライトネスの理論（Brown and Levinson 1987）
- 第7週 続・ポライトネス、及び中間確認テスト
- 第8週 メディアにおけるジェンダー
- 第9週 言葉遣いとアイデンティティ
- 第10週 女性と姓 — 諸外国の場合
- 第11週 女性と姓 — 日本の場合
- 第12週 職業生活における女性と言葉
- 第13週 性差別表現をなくすガイドライン
- 第14週 レポート作成について
- 第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修として、配布された英文を入念に予習してくること（週2時間）。

事後学修として、参考書に指定された本を4冊とも読むこと（週2時間）。

【テキスト・教材】

中村桃子・編『ジェンダーで学ぶ言語学』（世界思想社 2010年）
定価2,200円 *あると便利だが必ずしも買う必要はない。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内中間確認テスト40点、学期末レポート60点、合計100点。
・中間確認テストは、点数のみを返却する。
・学期末レポートは、アポイントメントを得て研究室に取りに来ること。

【参考書】

レイコフ著、れいのるず秋葉訳『言語と性』（有信堂高文社 1985年）
スペンダー著、れいのるず秋葉訳『ことばは男が支配する』（勁草書房1987年）
タネン著、田丸美寿々訳『わかりあえる理由（わけ）、わかりあえない理由』（講談社文庫 2003年）
滝浦真人『ポライトネス入門』（研究社 2008年）

【注意事項】

中間確認テストを受けなかった者は単位修得できなくなるので注意すること。実習による公欠等の場合、追試験を行なう。

英語音声学

英語教員を目指す人のための音声学

杉本 淳子

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

コミュニケーション英語 a

English for Communication

ダーリン, マーティン・フルトン, スチュワート

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：行動力、協働力

【授業のテーマ】

この授業は、英語教員を目指す学生にとって必須である音声学の基礎の理解と、発音・聞き取りの指導法を学ぶことを目的としています。授業では、母音・子音・リズム・イントネーションの内、日本語母語話者にとって特に難しく重要な項目を取り上げます。英語と日本語の比較をもとに、受講者が英語教員として、生徒の発音・聞き取りを指導する上でどのような点に注意すべきかを考え、効果的なエクササイズを作成する練習をおこないます。同時に、受講者が自分自身の発音・聞き取りの問題点を認識し、改善するための練習方法も学びます。

【授業における到達目標】

- (1) 音声学・音韻論の基礎的な用語の説明ができる。
 - (2) 英語音声の特徴を説明できる。
 - (3) 日本語と英語の音声の違いを説明できる。
 - (4) 発音の問題点を改善するために必要な練習を理解している。
- ディプロマポリシーとの関連では、学生が修得すべき「行動力」のうち「課題を発見できる力」、「研鑽力」のうち「学修成果を実感し自信を創出すること」、そして「国際的視野」のうち「相互の理解と協力を築こうとする態度」を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 辞書と発音記号、音素
- 第2週 英語の母音体系、短母音と長母音
- 第3週 二重母音と弱母音
- 第4週 英語の子音体系
- 第5週 子音(1) (摩擦音と破擦音)
- 第6週 子音(2) (接近音と鼻音)
- 第7週 発音とつづり字
- 第8週 音節構造と子音連続
- 第9週 語強勢
- 第10週 リンキングと音変化
- 第11週 リズム、内容語と機能語
- 第12週 イントネーション(1) (区切り方、核)
- 第13週 イントネーション(2) (音調)
- 第14週 英語の多様性と発音モデル
- 第15週 発音指導と評価法

【事前・事後学修】

- ・授業では扱えない項目について、教科書を読み練習問題にとりくむこと (事前事後学修 週1-2時間程度)
- ・自分自身の発音・聞き取り能力向上のため、普段から積極的に練習すること (事後学修 週1-2時間程度)
- ・学期中に実施する小テストや学期末の試験に向けて、毎回の授業内容をよく復習すること (事後学修 週1-2時間程度)

【テキスト・教材】

竹林滋・斎藤弘子著『新装版 英語音声学入門』(大修館 2008年)(2,400円+税)

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点 (授業内の練習やディスカッションへの積極的参加) 20%
小テスト 20%
期末テスト 60%
期末テストの結果は授業最終回でフィードバックを行います。

【参考書】

英語音声学研究会著. 2003. 『大人の英語発音講座』 (NHK出版)

【授業のテーマ】

The purpose of this elective one-semester course is to help second-year students develop their general English speaking and listening skills.

【授業における到達目標】

Students, upon the completion of this course, will attain the basic ability of effectively communicating in English, and confidence in doing so. That will lead to developing 「国際的視野」「行動力」and「協働力」 as a student of the English department.

【授業の内容】

This course will engage students in everyday conversational tasks and functions in which students will be expected to take part in pair-work, information exchanges and role-plays. In speaking, students will practice simple, controlled conversations and work for more independence in their ability to produce spoken English. Students will also practice listening to authentic English to improve their listening abilities. Students will be exposed to some reading and writing.

- 1st week Introduction
- 2nd week Listening to authentic English
- 3rd week Listening Abilities
- 4th week Conversation Elementary Level
- 5th week Questions
- 6th week Talking with Friends
- 7th week Conversation Intermediate Level
- 8th week Travel
- 9th week Reservation
- 10th week Studying Abroad
- 11th week Talking with Teachers
- 12th week Explanation
- 13th week Classification
- 14th week Direction
- 15th week Review

The subjects will change according to the level of each class.

【事前・事後学修】

Students should preview the appropriate part in the textbook or handouts before each class, especially with regard to unfamiliar expressions, collocations and sentence patterns [2 hours]. Students should also try to use these items themselves in classes afterwards [2 hours].

【テキスト・教材】

Instructors will select a textbook or provide handouts from a variety of sources.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

1. Participation-60%
 2. One test-40%
- Feedback will be given in every class.

【注意事項】

Three tardies (coming to class late) equal one absence.

コミュニケーション英語 b

English for Communication

フルトン, スチュワート・ダーリン, マーティン

2年 後期 2単位

◎ : 国際的視野 ○ : 行動力、協働力

コミュニケーション英語 c

Communicate more confidently in English

ラーソン, マイケル

2年 前期 2単位

◎ : 国際的視野 ○ : 行動力、協働力

【授業のテーマ】

This is an elective one-semester course that continues where “コミュニケーション英語a” finished. (Please note, however, that this course is independent of “コミュニケーション英語 a.”) The course is designed to help second-year students to further develop their general English speaking and listening skills.

【授業における到達目標】

Students, upon the completion of this course, will attain the basic ability of effectively communicating in English, and confidence in doing so. That will lead to developing 「国際的視野」「行動力」and 「協働力」 as a student of the English department.

【授業の内容】

This course will engage students in everyday conversational tasks and functions in which students will be expected to take part in pair-work, information exchanges and role-plays. In speaking, students will practice simple, controlled conversations and work for more independence in their ability to produce spoken English. Students will also practice listening to authentic English to improve their listening abilities. Students will be exposed to some reading and writing.

- 1st week Introduction
- 2nd week Listening to authentic English
- 3rd week Listening Abilities
- 4th week Conversation Advanced Level
- 5th week Pair Work
- 6th week Information Exchanges
- 7th week Role Plays
- 8th week Pair Presentation
- 9th week Pair Review
- 10th week Group Work
- 11th week Group Presentation
- 12th week Group Review
- 13th week Class Discussion
- 14th week Class Talk
- 15th week Review

The subjects will change according to the level of each class.

【事前・事後学修】

Students should preview the appropriate part in the textbook or handouts before each class, especially with regard to unfamiliar expressions, collocations and sentence patterns [2 hours]. Students should also try to use these items themselves in classes afterwards [2 hours].

【テキスト・教材】

Instructors will select a textbook or provide handouts from a variety of sources.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

1. Participation-60%
2. One test-40%

Feedback will be given in every class.

【注意事項】

Three tardies (coming to class late) equal one absence.

【授業のテーマ】

The aim of this elective one semester course is for students to improve their general English skills. Especially, speaking and listening will be practised extensively. Students will also develop their discussion abilities and become more confident overall users of the English language.

【授業における到達目標】

This course will require students to engage in a number of speaking/listening activities - speeches, discussions, and presentations - on a number of topics linked to the ones in the textbook. These activities will lead to students broadening and widening their international perspective 「国際的視野」and will help with their personal development 「行動力」as students of the English department. Furthermore, students will be required to work on their investigative skills 「行動力」and ultimately, they will be honing their collaborative and team working skills 「協働力」.

【授業の内容】

- 1st week Introduction
- 2nd week Identity - speeches (preparation)
- 3rd week Identity - speeches (activities)
- 4th week Sports - speeches (preparation)
- 5th week Sports - speeches (activities)
- 6th week The Big Picture 1 - speeches
- 7th week The night - discussions (preparation)
- 8th week The night - discussions (activities)
- 9th week Fashion - discussions (preparation)
- 10th week Fashion - discussions (activities)
- 11th week Fashion - discussions (review)
- 12th week The Big Picture 2 - presentations
- 13th week Homes - presentations (preparation)
- 14th week Homes - presentations (activities)
- 15th week Review

【事前・事後学修】

Students should preview the appropriate parts in the textbook or handouts before each class. Especially, with regard to unfamiliar expressions, collocations and sentence patterns - 2 hours. Students should also aim to use these items independently in classes afterwards - 2 hours.

【テキスト・教材】

Instructors will select a textbook or provide handouts from a variety of sources.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Students in this course are expected to participate in all classroom projects and discussions, and maintain good attendance for the semester. Final grades will be based upon a combination of classroom participation - 50%, and completion of all assignments - 50%.

Feedback will be given on the assignments submitted. Active listening, peer feedback and, peer assessment will also be integral parts of the overall grading.

【参考書】

Students must have access to a Japanese-English dictionary.

【注意事項】

- Students attending less than 70% of their class will fail.
- Exceptions are made for excused absences - via email in advance.
- Three tardies - coming to class late - equal one absence.

コミュニケーション英語 d

Communicate more confidently in English

ラーソン, マイケル

2年 後期 2単位

◎ : 国際的視野 ○ : 行動力、協働力

- Exceptions are made for excused absences - via email in advance.

- Three tardies - coming to class late - equal one absence.

【授業のテーマ】

This is an elective one-semester course that continues where コミュニケーション英語c finished - please note, however, that this course is independent of コミュニケーション英語c. The aim of this elective one semester course is for students to improve their general English skills. Especially, speaking and listening will be practised extensively. Students will also develop their discussion abilities and become more confident overall users of the English language.

【授業における到達目標】

This course will require students to engage in a number of speaking/listening activities - speeches, discussions, and presentations - on a number of topics linked to the ones in the textbook. These activities will lead to students broadening and widening their international perspective 「国際的視野」 and will help with their personal development 「行動力」 as students of the English department. Furthermore, students will be required to work on their investigative skills 「協働力」 and ultimately, they will be honing their collaborative and team working skills 「協働力」.

【授業の内容】

1st week Introduction
2nd week Buying and Selling - speeches (preparation)
3rd week Buying and Selling - speeches (activities)
4th week Weather - speeches (preparation)
5th week Weather - speeches (activities)
6th week Mysteries - speeches (preparation)
7th week Mysteries - speeches (activities)
8th week The Big Picture 3 - discussions
9th week Education - discussions (preparation)
10th week Education - discussions (activities)
11th week Education - discussions (review)
12th week Water - presentations (preparation)
13th week Water - presentations (activities)
14th week The Big Picture 4 - presentations
15th week Review

【事前・事後学修】

Students should preview the appropriate parts in the textbook or handouts before each class. Especially, with regard to unfamiliar expressions, collocations and sentence patterns - 2 hours. Students should also aim to use these items independently in classes afterwards - 2 hours.

【テキスト・教材】

Instructors will select a textbook or provide handouts from a variety of sources.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Students in this course are expected to participate in all classroom projects and discussions, and maintain good attendance for the semester. Final grades will be based upon a combination of classroom participation - 50%, and completion of all assignments - 50%.

Feedback will be given on the assignments submitted. Active listening, peer feedback and, peer assessment will also be integral parts of the overall grading.

【参考書】

Students must have access to a Japanese-English dictionary.

【注意事項】

- Students attending less than 70% of their class will fail.

時事英語演習

英語で世界のニュースを知る

砂田 緑

2年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

この授業では、世界のニュースを英語で聞いたり読んだりすることで、英語の運用能力を向上させるとともに、世界のニュースに関心を持つ姿勢を養います。

テキストを読むだけではなく、自ら英語のニュースを探し、読んだり観たりし、それを人と共有していくことで、深い理解を促します。

【授業における到達目標】

英語でニュースを読んだり聴いたりすることで、リスニング力やリーディング力の向上、関連する語彙の習得を目的とします。さらに、ニュースに関心を持ち、自ら英語でニュースを読んだりする機会を増やしていき、国際情勢に興味を持ち、国際的な視野を養うことを目標とします。

【授業の内容】

- 第1回 インTRODクシヨン・Topic 1・課題①
- 第2回 Topic 2・課題①
- 第3回 Topic 3・課題②
- 第4回 Topic 4・課題②
- 第5回 Topic 5・課題③
- 第6回 Topic 6・課題③
- 第7回 Topic 1～6のまとめ・発表準備
- 第8回 グループ発表
- 第9回 Topic 7・課題④
- 第10回 Topic 8・課題④
- 第11回 Topic 9・課題⑤
- 第12回 Topic 10・課題⑤
- 第13回 Topic 11・課題⑥
- 第14回 Topic 12・課題⑥
- 第15回 グループ発表

【事前・事後学修】

授業の前にテキストの予習をしてください。(1時間)

復習として、本文の復習をしてください。(1時間)

各自で英語のニュースを探し、内容をまとめるという課題を出します。英語でニュースを読む習慣を身につけましょう。(2時間)

【テキスト・教材】

村尾純子 編著『世界を読むメディア英語入門 2018』(金星堂、2018年)1,900円＋税

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題40%(英語でニュースを読み、その内容をまとめます)

小テスト10%(テキストの内容を復習します)

発表・グループワーク50%

時事英語演習

国際的な教養と知識

宮上 久仁子

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

この授業では貿易の仕組みや環境問題、国際社会の出来事といった時事英語におなじみの内容と併せて食文化や文学書評、ならびに地理にも目を向けます。一般の新聞を開くと、さまざまな問題が扱われているように、時事問題とは、実は遠い世界の出来事ではなく、日常生活に関わりのある事柄です。この授業が、世界は多様な価値観から成り立っているとの認識を得て、国際的で多角的な視野を持つ、ひとつの機会となれば幸いです。

【授業における到達目標】

実際の英字新聞を読むために、記事の内容そのものにも興味を持ち、関連する語彙群の習得を目標にします。国際情勢に関心を寄せ、異文化や国際問題を積極的に理解しようとする姿勢を持つ意義を認識するためにも、個々の時事問題の背景知識も、可能な限り学習したいと思います。それと同時に、日本の文化や日本ならではの精神性を振り返って、「国際的であること」を自分の言葉で語れるようにして、自ら世界との関わりを持てるようにしたいと思います。

【授業の内容】

- 第1週 教材配布と授業に関するガイダンス
- 第2週 地理と産業：スウェーデン (前半)
- 第3週 地理と産業：スウェーデン (後半)
- 第4週 商業：雇用環境とサービス (前半)
- 第5週 商業：雇用環境とサービス (後半)
- 第6週 第1回単語テスト・国際経済：フェアトレード (前半)
- 第7週 国際経済：フェアトレード (後半)
- 第8週 環境問題：自然破壊と環境保護 (前半)
- 第9週 環境問題：自然破壊と環境保護 (後半)
- 第10週 第2回単語テスト・食文化：クリスマス (前半)
- 第11週 食文化：クリスマス (後半)
- 第12週 文化と文学：書評 (前半)
- 第13週 文化と文学：書評 (後半)
- 第14週 第3回単語テスト・国際問題：国連の取り組み (前半)
- 第15週 国際問題：国連の取り組み (後半) とまとめ

【事前・事後学修】

事前学修について：書き込み式の予習プリントを配布しますので、それを行ったのち、指示のあった範囲の英文本文を日本語訳してください。(学修時間：週2時間)

事後学修について：授業で説明された背景知識や重要理解項目を抑えて、再び英文本文をよく読み、内容と単語を結び付けてください。その際に、予習プリントを自分で再確認するとよいでしょう。(学修時間：週2時間)

【テキスト・教材】

プリントを使用しますので、テキスト購入の必要はありません。

教材配布については、初回授業時に説明します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期中に行われる複数回の単語テストが80%、平常点(予習プリントの準備・指示のあった範囲の英文の日本語訳・授業への積極的な参加・特別に指示された課題の提示および提出)20%で評価します。予習プリントのフィードバックと確認は毎回の授業時に、単語テストのフィードバックは次回授業時に行います。

【注意事項】

授業時に受講生の皆さんに、予習プリントの設問の回答と英文の日本語訳の発表をお願いしますので、皆さんとのやりとりが授業の要です。どうか事前に準備をして参加してください。なお、授業の性質上、受講者数を上限40名とさせていただきますと助かります。

翻訳演習

「良い翻訳」をめざして

多比羅 真理子

2年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

国際言語の英語で書かれた様々なジャンルの英文を、その目的に応じて、直訳ではなく分かりやすい日本語に翻訳する力を高めることを目的とします。翻訳に必要な文法、また、英文の背後にある異文化を知り、作家の感性を考察しながら「良い翻訳」をする能力を修得していきます。

【授業における到達目標】

「翻訳」は誤訳をしてはなりません。従って正しく翻訳する力を育成することを第一目標とします。また、翻訳は、それぞれの言語領域の中でその人の感性が最も出る分野です。本授業の総括として、自分の好きな絵本、児童書、広告などを翻訳し、クラスで紹介するプレゼンテーションタイムを持ちます。

【授業の内容】

第1週	オリエンテーション
第2週	翻訳入門文法（1） 主語を中心に
第3週	同上（2） 動詞と時制
第4週	同上（3） 無生物主語
第5週	同上（4） 注意する表現
第6週	文法復習テスト 広告の説明
第7週	前回課題の発表（6週分） マニュアル・カタログの説明
第8週	同上（7週分） 小説の説明
第9週	同上（8週分） 児童書の説明
第10週	同上（9週分） 童話の説明
第11週	同上（10週分） コミックの説明
第12週	同上（11週分） 映画字幕（一回目）
第13週	映画字幕（2回目）
第14週	まとめ
第15週	プレゼンテーション

【事前・事後学修】

【事前学修】各回の課題の翻訳（週2時間）

【事後学修】授業中の発表を参考に自分の翻訳を修正する。最終課題作品の選択、その準備、作成（週2時間）

【テキスト・教材】

第一回目のオリエンテーション、第5回目の授業時に担当教員がプリントして配布します

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

復習テスト 30% 平常点（各回課題、授業への積極的な参加度）
30% 最終課題作品 40%

【注意事項】

- 必ず課題をすること、またその提出が多くなります。
- 辞書を忘れずに持参してください

翻訳演習

英文解釈と日本語表現

宮上 久仁子

2年 前期・後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力、行動力

【授業のテーマ】

この授業では、英文の小説を適切で自然な日本語に翻訳することを目指します。小説の登場人物、また小説で描かれている状況も吟味したうえで、それにふさわしい日本語表現を検討したいと思います。テキストにシャーロック・ホームズの「シルバーブレイズ」を選び、翻訳をしていきます。テキストとして使用するのはリトル版です。一回の授業につき、2、3ページを目安に進めますが、その都度の進行状況によって多少は前後します。

【授業における到達目標】

はじめは原文にほぼ忠実な直訳に近い訳であっても、解釈を重ねて、表現の可能性を検討していくと、最終的には自然な日本語に訳出できるようになることを目標とします。自ら翻訳に取り組むことで、訳すという仕事が、実に創造的であることを実感し、学びを続ける意思を養う機会となれば幸いです。翻訳という二言語を操る作業を通じて、日本や英語圏の文化への洞察を深めます。「人とは・社会とは・文化とは何か」という普遍的な問いに対して、自分の意見を構築する機会となるように、古典小説を読みたいと思います。

【授業の内容】

第1週	翻訳と授業に関するガイダンス
第2週	「シルバーブレイズ」第1章：pp. 1-3
第3週	同上 第1章：pp. 4-6
第4週	同上 第2章：pp. 7-9
第5週	同上 第2章：pp. 10-11
第6週	同上 第2章：pp. 12-13
第7週	同上 第3章：pp. 14-16
第8週	同上 第3章：pp. 17-19
第9週	同上 第3章：pp. 20-21
第10週	同上 第4章：pp. 22-24
第11週	同上 第4章：pp. 25-27
第12週	同上 第4章：p. 28・第5章：p.29
第13週	レポート課題のフィードバック（予定）
第14週	同上 第5章：pp. 31-33
第15週	同上 第6章：pp. 34-36とまとめ

【事前・事後学修】

事前学修について：この授業のために一冊ノートを用意していただき、予習として指示のあった範囲の英文を日本語に訳してください。（学修時間：週2時間）

事後学修について：授業中に学習した訳例を参考にしながら、再び英文を読み、訳を検討すると、小説への理解が深まります。これによって訳の技術もさらに高まります。（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

テキストについては、開講後に授業時に指示します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レポート 80%、平常点（指示のあった範囲の英文の日本語訳作成・授業への積極的な参加・レポート以外に特別に指示があった課題の提出および提示） 20%で評価します。予習に関するフィードバックは毎回の授業時に、レポート課題については最終提出日の次回授業時に行います。

【注意事項】

授業時に個々の受講生の方々に訳の発表をお願いしますので、必ず準備をしたうえで参加してください。訳出技術は繰り返すことで向上します。原文の意に沿いながら、実に見事な日本語表現がきつとひらめきます。積極的に取り組みながら訳す楽しさを、どうか実感してください。なお、授業の性質上、受講者数の上限を40名とさせていただきますと助かります。

プレセミナー

—CAクラス・CBクラス・CCクラス・CDクラス・CEクラス—

(CA)稲垣 伸一(CB)志渡岡 理恵(CC)島 高行(CD)深瀬 有希子

(CE)土屋 結城

3年 前期 2単位

◎：行動力 ○：国際的視野、協働力

中世イギリス文学・文化演習 a

—C. S. ルイスを読む—

大関 啓子

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

「実践入門セミナー」及び「英文入門セミナー」で学んだことを踏まえて、論理的な文章の読み方と書き方を引き続き学び、4年次の「卒論セミナー」及び「卒業論文」への準備を行います。

【授業における到達目標】

専門分野への知識を深めるとともに、専門性を備えた論理的な文章が書けるようになることを目標とし、全学ディプロマ・ポリシーのうち、多様な価値観についての「国際的視野」、課題解決のために主体的に行動する「行動力」、さらに学生同士が互いに協力しながら学習を進めていく「協働力」を修得することを目標とする。

【授業の内容】

第1週	イントロダクション	授業の目的と目標
第2週	論理的な文章の読み方と書き方	文献講読1 資料の読み方
第3週	論理的な文章の読み方と書き方	文献講読2 資料の分析
第4週	論理的な文章の読み方と書き方	テーマの探し方1 テーマとは何か
第5週	論理的な文章の読み方と書き方	テーマの探し方2 テーマの種類
第6週	論理的な文章の読み方と書き方	テーマの探し方3 テーマの選択
第7週	論理的な文章の読み方と書き方	文献調査
第8週	論理的な文章の読み方と書き方	アウトラインの作り方1 アウトラインとは何か
第9週	論理的な文章の読み方と書き方	アウトラインの作り方2 アウトラインの組み立て
第10週	論理的な文章の読み方と書き方	アウトラインの作り方3 アウトラインから論文へ
第11週	論理的な文章の読み方と書き方	書式1 引用の仕方
第12週	論理的な文章の読み方と書き方	書式2 注のつけ方
第13週	論理的な文章の読み方と書き方	書式3 文献表
第14週	論理的な文章の読み方と書き方	まとめ
第15週	まとめ	

【事前・事後学修】

事前学修として、次週の課題について予習をしておくこと（学修時間 週2時間）。

事後学修として、その週の内容について復習をし、提出課題の作成を進めておくこと（学修時間 週2時間）。

【テキスト・教材】

授業時に担当教員より指示される。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業への参加及び課題）60%、期末レポート40%。

課題は次回以降の授業でフィードバックを行う。

【参考書】

授業時に担当教員より指示される。

【注意事項】

「卒論セミナー」と「卒業論文」につながるように、積極的に授業に臨むこと。

【授業のテーマ】

『ナルニア国物語』で有名なC. S. ルイスについて、中世英文学者としての姿勢、伝承文学研究とそのimageryを読み解きます。

【授業における到達目標】

C. S. ルイスの作品と人生を通して、異文化理解と論理的思考力を育みます。

【授業の内容】

以下の内容を予定しています。

1. Introduction
2. 中世英文学者C. S. ルイスについて
3. 伝承文学研究について
4. インクリングズの会
5. 作品の背景—『愛のアレゴリー』
6. 作品の背景—『ナルニア国物語』
7. アレゴリーと神話
8. 映画『永遠の愛に生きて』
9. シンボリズムとサクラメンタリズム
10. 喜び
11. 理性と道徳
12. 『ナルニア国物語』1—信仰と懐疑
13. 『ナルニア国物語』2—愛
14. 『ナルニア国物語』3—希望
15. Conclusion

この他、作品の映画・DVD等を用いる予定です。

【事前・事後学修】

事前学修として、各回の授業で取り上げる内容について、2時間程度の予習を行い、事後学修として、前回の授業で扱った内容について、2時間程度しっかり復習し、まとめておくこと。

【テキスト・教材】

テキストは使用せず、プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・リアクション・ペーパー・課題等）40%、レポート60%で評価。

平常点については、毎週の授業時における貢献度（作品の理解を深めるような意見や質問、発表など）を、高く評価。課題は期日と場所を指定して、フィードバックします。

近代イギリス文学・文化演習 a

怪物たちの世紀末

島 高行

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

Bram Stokerの*Dracula*を取り上げ、前半はテキストを精読する。後半は同テキストを読み進めながら、19世紀末の英国社会が抱えていたさまざまな問題を明るみに出す文化論的アプローチによって、この作品を理解する。

【授業における到達目標】

英語の読解力を高めるだけでなく、小説の読み方を学ぶ。特にテキストのどのような部分に注目すればよいのか学び、そこから歴史的、文化的問題に結び付けていく態度を養う。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 テキストpp. 1-3
- 第3週 テキストpp. 4-5
- 第4週 テキストpp. 6-8
- 第5週 テキストpp. 9-12
- 第6週 テキストpp. 13-15
- 第7週 テキストpp. 15-25
- 第8週 テキストpp. 25-35
- 第9週 テキストpp. 36-45
- 第10週 テキストpp. 46-55
- 第11週 テキストpp. 56-65
- 第12週 テキストpp. 66-75
- 第13週 テキストpp. 76-85
- 第14週 テキストpp. 86-98
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：担当者以外も授業で取り上げる範囲をよく読んで、あらすじと問題点を把握しておくこと。確認のため、授業の冒頭で小テストを行うことがある。（学修時間：2時間）

事後学修：授業で取り上げた問題点を確認し、紹介する参考図書を読んでより深く論点について考察すること。（学修時間：週2時間）

【テキスト・教材】

授業時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験50%、平常点（レポート、小テスト、発表）50%

リアクションペーパーによる質問については、次回の授業冒頭で答える。

【注意事項】

授業時の私語等、ほかの受講生の迷惑となる行為は厳しく注意する。
辞書を持ってくること。

近代イギリス文学・文化演習 b

『クリスマス・キャロル』を通して見るイギリス社会

土屋 結城

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

19世紀の作家チャールズ・ディケンズ（Charles Dickens）の*A Christmas Carol*（1843）を読む。作品の読解とあわせて、イギリスにおける階級問題およびイギリスのクリスマス特有の幽霊小説について考察する。

【授業における到達目標】

文学作品の鑑賞のしかたを身につけるとともに、当時のイギリス社会への理解を深めることを目的とし、全学DPのうち、研鑽力、美の探究、行動力を身につけることを目標とする。

【授業の内容】

第2回授業時に担当者を決め、担当者による発表形式で授業を進める。各担当者は担当箇所のあらすじをまとめるだけでなく、重要箇所の指摘、文化的背景のリサーチなどを行う必要がある。発表の後には教員による解説、受講者による重要箇所精読、ディスカッションを行う。必要に応じて関連文献を読む。

- 第1週 インTRODクシヨン、ディケンズの生涯について
- 第2週 クリスマスの幽霊物語について
- 第3週 マーレーの幽霊 1（スクルージ）
- 第4週 マーレーの幽霊 2（マーレー現る）
- 第5週 第1の幽霊 1（第1の幽霊現る）
- 第6週 第1の幽霊 2（過去を見る）
- 第7週 第1の幽霊 3（過去の幽霊が立ち去る）
- 第8週 第2の幽霊 1（第2の幽霊現る）
- 第9週 第2の幽霊 2（クラチット家にて）
- 第10週 第2の幽霊 3（二人の子供）
- 第11週 第3の幽霊 1（第3の幽霊現る）
- 第12週 第3の幽霊 2（未来を見る）
- 第13週 終わり（現在に戻ってきたスクルージ）
- 第14週 映画鑑賞およびディスカッション
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】

テキストで該当箇所を読み、課題に取り組む。（学修時間 週2時間）

【事後学修】

授業の内容の復習をすること。関連項目を各自で調べること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

プリントを使用するほか、授業開始時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業に取り組む態度、発表）50%、レポート50%で評価する。

フィードバックは翌回以降の授業時に行う。

【注意事項】

辞書を必ず持参すること。

近代イギリス文学・文化演習 d

犯罪小説から歴史を読む

島 高行

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

現代イギリス文学・文化演習 a

戦争文学を読む

新井 紀代

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

Arthur Conan Doyle *The Sign of Four*を読み、大英帝国の繁栄を支えた植民地支配の問題を考察する。

特に作品の背景にあるインド大反乱という歴史的イベントが、この小説でどのように語られ、変形させられているかに注目し、フィクションと歴史の関係性について考えてみる。

【授業における到達目標】

英語の読解力を高めること。

テキストの重層性を理解し、問題を自ら発見できるような読み方を身につけること。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODakション
- 第2週 アフガニスタン戦争の影
- 第3週 「巨大な汚水溜め」としてのロンドン
- 第4週 テキストpp. 1-5
- 第5週 テキストpp. 6-10
- 第6週 テキストpp. 11-16
- 第7週 テキストpp. 17-24
- 第8週 テキストpp. 25-35
- 第9週 テキストpp. 36-45
- 第10週 テキストpp. 46-50
- 第11週 テキストpp. 51-55
- 第12週 テキストpp. 56-60
- 第13週 テキストpp. 61-68
- 第14週 テキストpp. 69-70
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：授業での予定範囲をよく読み、問題点を見つけておく。
(週1時間)

事後学修：授業内容を復習、確認し、指示された参考文献等にあたり、考えを深めること。(週3時間)

【テキスト・教材】

授業時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験50%、平常点(発表、授業内テスト、レポート)50%で評価する。

【授業のテーマ】

過去の大戦を作家独自の視点から捉え直した作品は数多く存在する。Pat Barkerの代表作である第一次世界大戦三部作もその一例である。

この授業では第一作目にあたるRegenerationを精読する。戦争神経症を発症したとみなされ、戦地から病院へ送られてきたSiegfried Sassoonと彼を治療する医師Riversの対話を描くことによって作者がわれわれ読者に問いかけているのは何なのか考えてみたい。

【授業における到達目標】

英語で書かれた作品の和訳という作業を通じて、英語の読解力の向上および作品のより深い解釈を目標とする。学生が行うべき「美の探究」のうち、感受性を深めようとする態度を身につける。

【授業の内容】

- 第1週：作者と作品についての説明
- 第2週：Chapter 1, 2
- 第3週：Chapter 3, 4
- 第4週：Chapter 5, 6
- 第5週：Chapter 7
- 第6週：Chapter 8
- 第7週：Chapter 9, 10
- 第8週：Chapter 11, 12, 13
- 第9週：Chapter 14
- 第10週：Chapter 15, 16
- 第11週：Chapter 17
- 第12週：Chapter 18, 19
- 第13週：Chapter 20, 21
- 第14週：Chapter 22, 23
- 第15週：まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：毎週該当箇所を和訳し、小テストや発表の準備をしておくこと。(学修時間 週2時間)

事後学習：小テストを復習し、物語の内容が理解できているか確認すること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

コピーを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末試験50%、授業態度・課題発表・小テスト50%

小テストは次回授業、学期末試験は授業最終回でフィードバックを実施する。

現代イギリス文学・文化演習 b

「新しい伝記」を読む

志渡岡 理恵

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

モダニズムの代表的な女性作家ヴァージニア・ウルフの『灯台へ』をとりあげます。ウルフは、この小説に両親の生を描ききったことで両親の呪縛から解放された、と述べています。ウルフの言う「新しい伝記」としてのこの作品を読みながら、「意識の流れ」をはじめとする実験的手法、「伝記」と「歴史」の関係、女性の生き方、戦争などの問題について考えていきます。

【授業における到達目標】

- ①生の記録＝ライフ・ライティングについてのウルフの考え方を理解する。
- ②女性が「書く＝自己表現する」ことの意味と困難を理解する。
- ③19世紀末から20世紀前半の女性の生き方の変化を理解する。

【授業の内容】

- 第1週：イントロダクション
- 第2週：ウルフの生涯と作品（講義）
- 第3週：第1部「窓」冒頭
- 第4週：第1部「窓」前半
- 第5週：第1部「窓」中盤
- 第6週：第1部「窓」後半
- 第7週：第2部「時は過ぎる」冒頭
- 第8週：第2部「時は過ぎる」前半
- 第9週：第2部「時は過ぎる」中盤
- 第10週：第2部「時は過ぎる」後半
- 第11週：第3部「灯台」冒頭
- 第12週：第3部「灯台」前半
- 第13週：第3部「灯台」中盤
- 第14週：第3部「灯台」後半
- 第15週：総括

【事前・事後学修】

・事前学修

各回を読む部分を精読し、自分の意見をまとめてくること（学修時間 週2時間）

・事後学修

他の受講生と自分の意見を比較し、図書館でリサーチを行って不足していた知識を補い、考察を深めること（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

Virginia Woolf, *To the Lighthouse* (Oxford University Press, 2008) 1075円（洋書のため価格は変動）

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表30%、平常点（リアクションペーパー）30%、定期試験40%。発表へのフィードバックは授業時にその場で、リアクションペーパーへのフィードバックは次回授業で行います。

【参考書】

授業時に提示します。

【注意事項】

自分なりの問題意識を持って、授業に臨むこと。

現代イギリス文学・文化演習 c

クリスティの「オリент」旅行記を読む

志渡岡 理恵

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

『オリент急行殺人事件』で有名な世界的ミステリ作家アガサ・クリスティの『さあ、あなたの暮らしぶりを話して』をとりあげます。これは、クリスティが、考古学者である夫マックスと共に、中東の遺跡発掘現場で暮らしたときの様子を記した滞在記です。クリスティの「オリент」旅行記を読みながら、帝国主義、オリエンタリズム、旅行文化、男女関係の諸問題について考えていきます。

【授業における到達目標】

- ①アガサ・クリスティの「オリент」観の特徴を理解する。
- ②アガサ・クリスティのライフ・ライティングと小説の関係について理解する。
- ③20世紀の世界情勢を踏まえながら、個人の回想録の精読を通して、英国と中東の関係が歴史の現場ではどのようなものであったのかを理解する。

【授業の内容】

- 第1週：イントロダクション
- 第2週：クリスティの生涯と作品（講義）
- 第3週：シリアへ
- 第4週：予備調査の旅
- 第5週：ハーブル河とジャフジャーハ河
- 第6週：チャガール・パザールでの最初のシーズン
- 第7週：シーズンの終わり
- 第8週：旅の終わり
- 第9週：チャガール・パザールでの生活
- 第10週：チャガールとブラーク
- 第11週：マックの到着
- 第12週：ラッカへの道
- 第13週：ブラークとの別れ
- 第14週：エイン・エル・アルース
- 第15週：総括

【事前・事後学修】

・事前学修

各回を読む部分を精読し、自分の意見をまとめてくること（学修時間 週2時間）

・事後学修

他の受講生と自分の意見を比較し、図書館でリサーチを行って不足していた知識を補い、考察を深めること（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

Agatha Christie, *Come, Tell Me How You Live* (HarperCollins, 2015) 1656円（洋書のため、価格は変動）

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

発表30%、平常点（リアクションペーパー）30%、定期試験40%。発表へのフィードバックは授業時にその場で、リアクションペーパーへのフィードバックは次回授業で行います。

【参考書】

授業時に提示します。

【注意事項】

自分なりの問題意識を持って、授業に臨むこと。

現代イギリス文学・文化演習 d

Maevy Binchyの短編集を読む

新井 紀代

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

夫の家族との集いを回避する手立てがないか思案しながら帰路につく会社員。恋人を両親に合わせることにためらいを感じつつ実家へ向かう青年。月一度の「買い物」に出かける万引き常習犯の主婦。様々な人生が交錯するロンドンの地下鉄を利用する人間たちのドラマを描き出した短編集Victoria Line, Circle Lineを精読する。

【授業における到達目標】

英語で書かれた作品の和訳という作業を通じて、英語の読解力の向上および作品のより深い解釈を目標とする。学生が行うべき「美の探究」のうち、感受性を深めようとする態度を身につける。

【授業の内容】

- 第1週 作者と作品についての説明
- 第2週 Tottenham Hale pp.3-8
- 第3週 Tottenham Hale pp.9-15
- 第4週 Highbury and Islington pp.45-50
- 第5週 Highbury and Islington pp.51-56
- 第6週 King's Cross pp.57-65
- 第7週 King's Cross pp.65-72
- 第8週 King's Cross pp.73-80
- 第9週 King's Cross pp.81-88
- 第10週 Euston pp.89-94
- 第11週 Euston pp.95-100
- 第12週 Euston pp.101-106
- 第13週 Bond Street pp.346-351
- 第14週 Bond Street pp.352-358
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修

毎週該当箇所を和訳し、小テストや発表の準備をしてくる。
(学修時間 週2時間)

事後学修

小テストを復習し、物語の内容が理解できているか確認すること。
(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

コピーを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

学期末試験50%、授業態度・課題発表・小テスト50%
小テストは次回授業、学期末試験は授業最終回でフィードバックを実施する。

近代アメリカ文学・文化演習 b

一フロストが詠うニューイングランドの自然とピューリタン精神—

難波 雅紀

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

サンフランシスコ生まれの詩人Robert Frostは、コスモポリタン詩人のEzra Poundに知り合った1912年以降、*A Boy's Will*や*North of Boston*を皮切りにNew Hampshire、A Further Range、Steeple Bushと続々と詩集を発表していく。そして最晩年の1963年には*In the Cleaning*を出版するのだが、これらの詩は、詩集のタイトルにも連想されるように、マサチューセッツやニューハンプシャー、ヴァーモントなどニューイングランドの自然を題材に、ピューリタンの精神世界を詠ったものが圧倒的に多い。ここでは、Frostの代表的作品を四季ごとに取り上げ、内容を考察していく。授業では、実際に詩を解釈した結果をレポートすることが求められる。

【授業における到達目標】

代表的なアメリカ詩を詩学的(韻律、歩格、脚韻など)な側面と物語的(叙事、叙情など)な側面から分析し、そこに描かれている美的世界観を理解することを目標とする。その上で、自分における美的世界の内実と有り様を探求していく研鑽力を養っていく。

【授業の内容】

1. Introduction and Perspective
2. Life and Times of Robert Frost
3. Meter, Foot, Rhyme
4. Reading "Into My Own"
5. Reading "The Rose Family"
6. Reading "The Pasture" and "Fire and Ice"
7. Reading "Nothing Gold Can Stay"
8. Reading "Dust of Snow"
9. Reading "The Road Not Taken"
10. Reading "The Oven Bird"
11. Reading "A Passing Glimpse"
12. Reading "In Hardwood Groves"
13. Reading "Come In"
14. Reading "Now Close the Window"
15. For further reading

【事前・事後学修】

【事前学修】授業終了時に次回取り上げる詩を指定するので、授業での詩学的構造の分析に備えて、詩を正確に音読できるよう練習しておくこと。単語の発音については必ず辞書を調べ、確認しておくこと。(学修時間 2時間)

【事後学修】添削済みの小レポート・リアクションペーパーは次回授業で返却するので、確認の上、理解が不足している点を補習すること。(学修時間 2時間)

【テキスト・教材】

特になし。授業時にプリント配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小レポート・リアクション・ペーパー50%、学期末レポート50%により総合評価する。小レポート・リアクションペーパーは、添削した上、次回授業でフィードバックする。

【参考書】

新倉俊一『アメリカ詩入門』(研究社)
阿部公彦『英詩のわかり方』(研究社)

【注意事項】

特になし。

近代アメリカ文学・文化演習 c

Sarah Orne Jewettの短編小説を読む

齋木 郁乃

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

19世紀のアメリカの女性作家、Sarah Orne Jewettによる短編小説を読み、作品の歴史的、文化的背景について考えます。文学の批評的な読解法とプレゼンテーションの仕方、またレポートの書き方について学びます。

【授業における到達目標】

英語で文学作品を読み理解できるようになること。文学を批評的な視点から考察できるようになること。正しい日本語で自分の意見を発表できるようになること。学生が修得すべき「国際的視野」のうち国際感覚を身につけて世界に踏み出し社会を動かそうとする態度と、「美の探求」のうち人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を身につけ、「研鑽力」のうち学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続ける能力を養う。

【授業の内容】

- 第1週 Introduction
- 第2週 The Courting of Sister Wisby 1
- 第3週 The Courting of Sister Wisby 2
- 第4週 The Courting of Sister Wisby 3
- 第5週 Going to Shrewsbury 1
- 第6週 Going to Shrewsbury 2
- 第7週 Going to Shrewsbury 3
- 第8週 Tom's Husband 1
- 第9週 Tom's Husband 2
- 第10週 Tom's Husband 3
- 第11週 Me King of Folly Island 1
- 第12週 Me King of Folly Island 2
- 第13週 Me King of Folly Island 3
- 第14週 レポートの書き方、参考文献の使い方
- 第15週 授業のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】 その週の決められた個所まできちんと辞書をひきながら読み、解釈のポイントをメモしてきてください。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 その日の授業で議論したこと教員のコメントを利用しながら、自分なりの解釈をまとめてください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

Jewett, Sarah Orne. *The Best Stories of Sarah Orne Jewett* (Classic Reprint). Forgotten Books, 2017. (授業に必要な箇所だけコピーにて配布。)

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業中の発言）+プレゼンテーション（50%）、期末レポート（50%） プレゼンテーションに対するフィードバックは授業中に、期末レポートに対するフィードバックはメールにて行います。

【参考書】

適宜授業中に指示します。

【注意事項】

一定レベルの英語読解力が必要な授業です。毎週数ページ分の英語を家で読んでくると、毎回授業に出席し、発言することが求められます。

近代アメリカ文学・文化演習 d

犬が先祖返りする物語を読む

稲垣 伸一

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

成年にちなんで犬を主人公とした小説ジャック・ロンドンの『荒野の呼び声』（Jack London, *The Call of the Wild*, 1903）の一部を原書で読む。

【授業における到達目標】

一つ目の目標は、英語を正しく読む読解力を身につけること、二つ目の目標は、自然主義小説としても冒険小説としても楽しめるこの作品の内容を味わうことである。

【授業の内容】

- 第1週 イントロダクション
- 第2週 1. Into the Primitive前半の読解
- 第3週 1. Into the Primitive後半の読解
- 第4週 2. The Law of Club and Fang前半の読解
- 第5週 2. The Law of Club and Fang後半の読解
- 第6週 3. The Dominant of Primordial Beast前半の読解
- 第7週 3. The Dominant of Primordial Beast後半の読解
- 第8週 4. Who Has Won to Mastership前半の読解
- 第9週 4. Who Has Won to Mastership後半の読解
- 第10週 5. The Toil of Trace and Trail前半の読解
- 第11週 5. The Toil of Trace and Trail後半の読解
- 第12週 6. For the Love of a Man前半の読解
- 第13週 6. For the Love of a Man後半の読解
- 第14週 7. The Sounding of the Call前半の読解
- 第15週 7. The Sounding of the Call後半の読解

【事前・事後学修】

【事前学修】 次の回の授業で読む章をあらかじめ読む。（学修時間 週2時間）

【事後学修】 授業で読んだ内容について復習し、自分の考えをまとめる。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

Jack London, *The Call of the Wild* (Puffin Books, 2008)、約1,000円

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業中の発表、コメントシート）50%

レポート 50%

各章についてのディスカッション時やコメントシートで出された意見について、教員がコメントすることによりフィードバックを行う。

【参考書】

授業中に指示する。

【注意事項】

飼い犬がまるでオオカミに先祖返りするかのような物語を読む。進化論を反映した自然主義小説、あるいは冒険小説に関心があり、かつその一部を原書で読む意欲ある学生の履修を歓迎します。

現代アメリカ文学・文化演習 a

ジェンダー規範の変容

佐々木 真理

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

19世紀に始まり21世紀の現在に続く女性の権利獲得と地位向上を求める運動の中で、多くの女性作家や活動家たちが優れた演説や著作を残してきました。この演習の目標は、19世紀から20世紀の女性作家の代表的な著作にふれながら、アメリカ社会における女性の権利問題とジェンダーに関する規範の変容について考えます。

【授業における到達目標】

女性作家の作品を通して、アメリカ社会における女性の地位や権利の問題、ジェンダーに関する問題について理解を深め、分析を行い、自らの考察をまとめることを目標とします。それによって、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる研鑽力、目標を設定して、計画を立案・実行できる行動力を養います。また、文学の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を育みます。

【授業の内容】

19世紀終わりに活躍した女性作家Kate Chopinの作品を、*The Awakening*を中心に読んでいきます。あわせて、19世紀から20世紀前半のさまざまな女性活動家たちの背景・思想をたどります。毎回担当を決め、発表してもらった上で、重要な箇所や問題点について、議論を行います。

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 19世紀女性参政権運動の背景
- 第3週 19世紀女性参政権運動の流れ
- 第4週 19世紀女性参政権運動の思想
- 第5週 19世紀前半の女性活動家の背景
- 第6週 19世紀前半の女性活動家の流れ
- 第7週 19世紀前半の女性活動家の思想
- 第8週 19世紀後半の女性活動家の背景
- 第9週 19世紀後半の女性活動家の流れ
- 第10週 19世紀後半の女性活動家の思想
- 第11週 20世紀前半の女性活動家の背景
- 第12週 20世紀前半の女性活動家の流れ
- 第13週 20世紀前半の女性活動家の思想
- 第14週 20世紀後半への展開
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】発表者は担当箇所及び担当トピックについてハンドアウトを作成し、発表の準備をすること。発表者以外も授業で読む箇所を前もってよく読んでくること。(学修時間 週3時間)

【事後学修】その週に扱った箇所を読み直し、期末試験に向けて論点を整理すること。(学修時間 週1時間)

【テキスト・教材】

The Awakening and Other Stories
(Kate Chopin) (Oxford World's Classics, Oxford University Press)
約1200円

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業態度・発表・課題)50%、期末試験50%。
課題については次回授業にてフィードバックを行います。

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【注意事項】

授業の前に必ず予習を行い、授業には積極的に参加すること。

現代アメリカ文学・文化演習 b

女性のライフ・スタイルとアメリカ社会

佐々木 真理

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

19世紀に始まり21世紀の現在に続く女性の権利獲得と地位向上を求める運動の中で、多くの女性作家たちが数々の優れた著作を残してきました。この演習の目標は、20世紀後半の女性作家の代表的な著作にふれながら、アメリカ社会における女性のライフ・スタイルの変遷を学び、21世紀の新たな可能性を探ることにあります。

【授業における到達目標】

アメリカ社会における女性のライフ・スタイルの変遷について、女性作家の作品を通して理解を深めることで、女性に関する諸問題の知識を培うことを目指します。それによって、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる研鑽力、目標を設定して、計画を立案・実行できる行動力を養います。また、文学の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度を育みます。

【授業の内容】

20世紀後半に発表された女性作家Sylvia Plathの著作を読みます。毎回担当を決め、発表してもらった上で、重要な箇所や問題点について議論を行います。

- 第1週 イン트로ダクション
- 第2週 20世紀女性運動の背景
- 第3週 20世紀女性運動の流れ
- 第4週 20世紀女性運動の思想
- 第5週 20世紀後半の女性活動家の背景
- 第6週 20世紀後半の女性活動家の流れ
- 第7週 20世紀後半の女性活動家の思想
- 第8週 21世紀の女性活動家の背景
- 第9週 21世紀の女性活動家の流れ
- 第10週 21世紀の女性活動家の思想
- 第11週 21世紀の女性活動家の活動
- 第12週 今後の女性活動家の思想
- 第13週 今後の女性活動家の展開
- 第14週 今後の女性活動家の展望
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】発表者は担当箇所及び担当トピックについてハンドアウトを作成し、発表の準備をすること。発表者以外も授業で読む箇所を前もってよく読んでくること。(学修時間 週3時間)

【事後学修】その週に扱った箇所を読み直し、期末試験に向けて論点を整理すること。(学修時間 週1時間)

【テキスト・教材】

The Bell Jar (Sylvia Plath) (Harper Perennial) 約1600円

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業態度・発表・課題)50%、期末試験50%。
課題については次回授業にてフィードバックを行います。

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【注意事項】

授業の前に必ず予習を行い、授業には積極的に参加すること。

現代アメリカ文学・文化演習 c

Fitzgeraldを読む

植野 達郎

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

Scott Fitzgeraldの“The Great Gatsby”を読むことによって、小説を読むことの面白さを味わう。時代を超えて現代の読者に訴えるものがあるとなれば、それは変わることのない人間性であろう。その人間性とはどのようなものなのかを考える。

【授業における到達目標】

アメリカと日本の文化の違いを学ぶことによって国際的視野を広めるとともに、英語の読解力を高めることを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODクシヨン
- 第2週 pp. 3-7
- 第3週 pp. 7-10
- 第4週 pp. 10-15
- 第5週 pp. 15-20
- 第6週 pp. 20-25
- 第7週 Ch. 2
- 第8週 Ch. 3
- 第9週 Ch. 4
- 第10週 Ch. 5
- 第11週 Ch. 6
- 第12週 Ch. 7
- 第13週 Ch. 8
- 第14週 Ch. 9
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：テキストを精読し、しっかり調べるとともに、課題をレポートとしてmanaバで提出すること。（学修時間 週3時間）

事後学修：その週で扱った内容を確認し、他の人のレポートを参考にして自らの考えを整理すること（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

開講時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・発表・課題）50%、期末試験50%

【参考書】

適宜指示する。

【注意事項】

授業の前に必ず予習をし、授業には積極的に参加すること。

現代アメリカ文学・文化演習 d

Toni Morrisonの小説Sulaを精読する

深瀬 有希子

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

本授業では、1993年にノーベル文学賞を受賞したToni Morrisonの初期作品Sula（1973）を精読する。アフリカン・アメリカンが1920年代から1960年代に至るまでに経験した社会的状況をふまえながら、個人と共同体の関係やアイデンティティの構築性について考察する。

【授業における到達目標】

研鑽力：学修を通して自己成長する力を高める。

美の探究力：知を求め、心の美を育む態度を養う。

行動力：課題解決のために主体的に行動する力を高める。

【授業の内容】

- 1 INTRODUCTION： トニ・モリスン作品の概観
- 2 「はじまりから1919」の章を精読する： 第一次世界大戦
- 3 「1920」の章を精読する： トラウマ
- 4 「1921」の章を精読する： 20年代の北部
- 5 「1921」の章を精読する： 20年代の北部
- 6 「1922」の章を精読する： 20年代の南部
- 7 「1922」の章を精読する： 20年代の南部
- 8 「1923」の章を精読する： ジェンダー
- 9 「1937」の章を精読する： 世界大恐慌後の社会
- 10 「1937」の章を精読する： 世界大恐慌後の社会
- 11 「1939」の章を精読する： 第二次世界大戦
- 12 「1939」の章を精読する： 第二次世界大戦
- 13 「1941」の章を精読する： 第二次世界大戦
- 14 「1945」の章を精読する： レズビアニズム
- 15 「1965」の章を精読する： 公民権運動の時代

【事前・事後学修】

事前学修： 発表者は担当箇所についてハンドアウトを作成する。発表者以外も重要と思われる論点への意見を用意しておくこと。学修時間 週2時間。

事後学修： 発表で提示された問題点を確認しながら、次回の授業範囲の予習を行い、物語の流れを把握しておくこと。学修時間 週2時間。

【テキスト・教材】

Toni Morrison *Sula* (Vintage 2004年版) 約 2000円

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・発表・課題）50%、レポート2回 50%で評価する。フィードバックはmanaバまたはレポート返却時に行う。

【参考書】

授業中に随時紹介する。

【注意事項】

授業の前に必ず予習を行い、授業には積極的に参加すること。また毎回、辞書を持ってくること。

英語学演習 a

ことばの意味と使用

野村 美由紀

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

英語学演習 b

英語の記述文法を究める

村上 まどか

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

文法や構文に関する知識は、外国語の能力を身に付けるためには不可欠です。似たような意味の表現の使い分けや正確な意味内容を理解して、英語の使い方を学び、話者の認識や判断の観点から文の意味を捉えて、さらに発話を取り巻く場面や背景も考えて行きます

【授業における到達目標】

英語の正確な意味解釈と正しい使い方、使用場面、話者の心的態度が分かることを目的としています（国際的視野）。また、ことばの観察力と説明力を身に付けることも目標としています（研鑽力）。さらに、発話を取り巻く場面や背景を考えて行きます。知的好奇心を持って授業に臨むようになることも目標です（行動力）

【授業の内容】

予め担当箇所を決めておき、担当者は、担当箇所の要旨をまとめて、作成したハンドアウトを使用して発表します。その後、解説をして、Further Studyの問題を考えて行きます。

第1週 インTRODクッション

第2週 法

第3週 二重目的語構文

第4週 使役文

第5週 受動文

第6週 There構文

第7週 結果構文

第8週 進行形

第9週 現在完了形

第10週 時制とアスペクト

第11週 未来表現

第12週 法助動詞

第13週 新情報・旧情報と焦点

第14週 直示と視点

第15週 全体のまとめ

【事前・事後学修】

事前学修：担当者は担当箇所の要旨をまとめて、ハンドアウトを作成すること。担当ではない場合も、教科書を読んで、分からない語句は下調べをすること。（学修時間 週3時間）

事後学修：授業中の板書や解説を参考にして授業内容の復習をして理解に努めること。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

澤田治美・高見健一編（2010）『ことばの意味と使用一日英語のダイナミズム』 鳳書房 2800円＋税

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への積極的な参加および態度 20%

提出物 10%

期末試験 70%

【参考書】

安藤貞雄（2005）『現代英文法講義』 開拓社

Quirk et al. (1985) 『A Comprehensive Grammar of the English Language』 Longman

その他は授業内で適宜紹介します。

【注意事項】

英和辞典（電子辞書可）を持参して下さい。

【授業のテーマ】

母語話者による英語の記述文法を精読し、冠詞、法助動詞、関係代名詞といった、日本語には存在しない品詞に焦点をあてて探求します。目からうろこが落ちるような説明に、感動しながら読み進めていきましょう。

【授業における到達目標】

もし自分が人に英語を教える場合にも説明できるように、英文学科の学生として磐石の文法力を身に付けることが目標です。理想的には、誰もが練習問題に満点がとれるようになること！

【授業の内容】

学生が準備してきた成果を発表してもらい、それに教員が解説を加えながら授業をすすめます。

第1回 インTRODクッション：前書き

第2回 インTRODクッション：用語と文法性

第3回 冠詞：単数か複数か

第4回 冠詞：定冠詞とゼロ冠詞

第5回 法助動詞：基本的な意味の二分法

第6回 法助動詞：can と may

第7回 法助動詞：must, will, should

第8回 法助動詞：否定の作用域

第9回 間接目的語：二重目的語を取る動詞

第10回 間接目的語：人、移動、そして受益

第11回 関係代名詞：格

第12回 関係代名詞：who, which, that

第13回 関係副詞：where, when, why

第14回 関係詞：新情報と旧情報をつなぐ機能

第15回 総括

【事前・事後学修】

自分の当たらない箇所も含めて、次回に読む箇所を入念に予習してくる。出てきた練習問題は、別紙に回答して授業時に提出する。（週に2時間）

事後は、読んだ箇所を復習し、返却された練習問題を見直して、同じ問題なら満点が取れるほど納得するまで考察すること。（週に2時間）

【テキスト・教材】

以下のテキストをプリントで配ります。

Yule, George (1998) *Explaining English Grammar*, Oxford University Press.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

提出物は翌日に返却して解説する。朱書きをよく読むこと。

出席率を満たした上での（遅刻3回は欠席1回にカウント）、提出物40%、学期末筆記試験60%で評価する。試験は基本的な内容にするので、一切の持込を禁止する。

【参考書】

生成文法もカバーしている同じ著者の本：

Yule, George (2016) *The Study of Language*, 6th edition, Cambridge University Press.

その本の日本語訳：

ユール、ジョージ著、今井邦彦・中島平三訳『現代言語学20章』大修館書店。

【注意事項】

試験に持ち込み不可とするのは、当該教員の試験としてはきわめてめずらしいので、注意すること。

英語学演習 c

英語学・言語学の真髄を英文で読破する

村上 まどか

3年～ 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

英語学演習 d

統語論と意味論の観点から言語の不思議に迫る

吉本 真由美

3年～ 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

この演習では、一般言語学の各分野の基礎を、平易な英語で読みながら押さえていくことを目的とします。英語学概論よりも詳しい内容について、英語力を使って考察を深めます。

【授業における到達目標】

単なる英文読解にとどまらず、現代の英語学・言語学を自分の中に内在化することが目的です。

【授業の内容】

テキストはさまざまなトピックを扱っています。授業において学生は準備してきた成果を発表し、それに教員が解説を加えていくという方式をとります。

第1週	イントロダクションおよびビデオ
第2週	言語の発達
第3週	動物の言語
第4週	幼児の言語習得
第5週	パイリンガリズム
第6週	男性と女性の話し方
第7週	丁寧表現
第8週	外国語学習
第9週	各種教授法
第10週	世界の言語
第11週	方言と公用語
第12週	言語の変遷と歴史
第13週	外来語
第14週	言語の危機と絶滅
第15週	総括

【事前・事後学修】

事前学修（2時間）として、今回は自分は当たらないと思っても、英文を入念に予習し、各単元についている問題を解いてくること。

事後学修（2時間）として、英文と問題を復習し、用語を暗記するとともに、英文の概要を200字程度で書いてみること。

【テキスト・教材】

Clankie, Shawn and Toshihiko Kobayashi (2007) *Language and Our World* 三修社 約1,500円

ビデオ『ことばの不思議』（アメリカ制作、1995年NHK教育テレビ放映）

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

筆記試験100%で評価します。30分前の遅刻3回を欠席1回に数え、出席率を充たした上での、何でも持ち込み参照可の筆記試験によって評価を行います。

【参考書】

大津由紀雄著『探検！ことばの世界』（ひつじ書房）約1,600円
町田健著『町田健のたのしい言語学』（ソフトバンククリエイティブ）約2,000円

ほか、授業中に適宜指示します。

【注意事項】

3年生で英語学志向の学生は、卒業論文のテーマ探しを念頭におきながら、この演習に参加するとよいでしょう。

【授業のテーマ】

私たち人間はなぜ、生まれてから数年で母語を話せるようになるのでしょうか。また、初めて聞くような文でも、母語であれば難なく理解することができるのはなぜでしょうか。この授業では、統語論、意味論の観点から、言語に関するこういった素朴な疑問に迫ります。

【授業における到達目標】

この授業では、英文で書かれた統語論・意味論（の比較的容易な）文献を読み、担当者あるいはグループに内容を発表してもらいます。これにより、専門的な英文を読みこなす力を養うとともに、統語論と意味論の基本的な知識を身につけ、自分なりにその内容を説明できるまで理解することを目標とします。

【授業の内容】

担当者あるいは担当グループを事前に決め、発表してもらいます。教員はそれに対して補足・修正を行います。また、各回、学んだ内容に対する自分の考えや、わからなかった点をコメントシートに書いて提出してもらいます。

第1週	イントロダクション
第2週	言語研究の諸分野の紹介と生成文法の問題設定
第3週	樹形図と統語構造
第4週	句構造規則
第5週	主要部と補部
第6週	構造上の曖昧性
第7週	疑問文
第8週	普遍文法について
第9週	統語論まとめ
第10週	文の構造と意味解釈
第11週	比較構文
第12週	メタファーとメトニミー
第13週	会話の公理とスピーチアクト
第14週	意味論・語用論まとめ
第15週	総括

【事前・事後学修】

事前学修：
授業中に指示した箇所を読み進めておいてください。（学修時間 週2時間）

事後学修：
授業で取り上げた内容を復習し、わからない箇所があれば、必ず質問してください。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

授業内で配布するプリントを使用します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業への参加度・コメントシート 30%

発表 20%

試験 50%

各回、コメントシートを集めます。翌週にそのフィードバックを行います。

【参考書】

Fromkin, Victoria, Robert Rodman, and Nina Hyams (2011) *An Introduction to Language* (9th edition), Cengage Learning.

イギリス文学・文化講義 c

物語絵画から読みとくヴィクトリア時代

土屋 結城

3年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

物語絵画と呼ばれるジャンルの作品からヴィクトリア時代のイギリスにおける女性像を探る。現代の日本ともイギリスとも異なる状況の社会で、女性がどのように生きることを求められたか、そしてどのように生きなければならなかったかを考察し、当時の女性の立場、生き方についての理解を深めることを目的とする。

【授業における到達目標】

ヴィクトリア時代のイギリス社会についての理解を深めることを目標とする。

全学ディプロマ・ポリシーのうち、知を求める「美の探究」の態度とリアクション・ペーパーやレポートを通して「研鑽力」を修得することを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODククション
- 第2週 ヴィクトリア女王をめぐる物語
- 第3週 家庭の天使
- 第4週 家庭の天使の影に
- 第5週 労働者と女性
- 第6週 ガヴァネスのイメージと実態
- 第7週 子供のイメージ
- 第8週 “fallen woman” (“The Bridge of Sigh”)
- 第9週 “fallen woman” (The Awakening Conscience)
- 第10週 信仰についての疑問
- 第11週 労働と社会
- 第12週 鉄道の発達
- 第13週 救貧院での生活
- 第14週 植民地へ
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】

授業範囲を予習し、時代背景について理解しておくこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】

授業で取り上げた内容について、各自復習し、自分なりの問題点を意識し、次回の授業にのぞむこと。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

プリントを配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

リアクション・ペーパー40%、レポート60%で評価する。

フィードバックは次回以降の授業で行う。

【注意事項】

辞書を必ず持参すること。

イギリス文学・文化講義 d

映画で知る現代イギリス

伊澤 高志

3年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

20世紀後半から21世紀にいたるイギリスの文化・社会の諸側面について、階級、ジェンダー、セクシュアリティ、そして人種といった様々な境界線の「越境」をキーワードに、映画を題材としながら講義します。ストライキ中の炭鉱町でパレエに挑戦する少年の物語『リトル・ダンサー』、ロンドンのセクシュアル・マイノリティとウェールズの炭鉱労働者との連帯を描く『パレードへようこそ』、ドラッグ・クイーン向けのブーツ制作に挑む『キンキーブーツ』、いずれも現代のイギリス文化の「多様性」を描き出した作品です。また、映画をもとにしたミュージカルについても紹介します。

【授業における到達目標】

イギリスの文化・社会の「多様性」についての興味・理解を深め、文化研究的観点から考察ができるようになることを目標とします。また、全学ディプロマ・ポリシーのうち、「多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度」、「知を求め、心の美を育む態度」、および「学修を通して自己成長する力」を身につけることを目標とします。

【授業の内容】

- 第1週 インTRODククション
- 第2週 「イギリス」の成り立ちと戦後の文化と社会
- 第3週 『リトル・ダンサー』(1980年代のイギリス)
- 第4週 『リトル・ダンサー』(スポーツとジェンダー規範)
- 第5週 『リトル・ダンサー』(階級について)
- 第6週 『リトル・ダンサー』(ミュージカル版について)
- 第7週 『パレードへようこそ』(アイデンティティの政治)
- 第8週 『パレードへようこそ』(ウェールズの地域性)
- 第9週 『パレードへようこそ』(病とその隠喩)
- 第10週 『パレードへようこそ』(音楽と文化)
- 第11週 『キンキーブーツ』(異性装)
- 第12週 『キンキーブーツ』(移民について①)
- 第13週 『キンキーブーツ』(移民について②)
- 第14週 『キンキーブーツ』(ミュージカル版について)
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】

授業範囲の予習として、図書館等を利用して各トピックについて自分なりに学ぶこと。(学修時間 2時間)

【事後学修】

授業内容について復習し、理解を深めること。また不明な点は図書館等を利用して積極的に自分で調べること。(学修時間 2時間)

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

リアクション・ペーパー30%、期末試験70%で評価を行う。リアクション・ペーパーに対しては翌週以降にフィードバックを行う。

【参考書】

- イギリス文化事典編集委員会編『イギリス文化事典』
- 板倉巖一郎他編『映画でわかるイギリス文化入門』
- 川端康雄他編『愛と戦いのイギリス文化史 1951-2010年』
- 武藤浩史他編『愛と戦いのイギリス文化史 1900-1950年』
- 森山至貴『LGBTを読み解く——クィア・スタディーズ入門』

アメリカ文学・文化講義 c

—モダン・ジャズをとおして見る物語的美学—

難波 雅紀

3年 前期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

モダン・ジャズをとおしてアメリカの文化や社会の有り様を考察する。音楽ジャンルとしての歴史や特徴を踏まえつつ、特にビバップからハードバップの時代に数多く産み出されたスタンダード曲に焦点を絞り、映像をとおして視覚的、聴覚的な理解を得つつ、歌詞に注目しながら、モダン・ジャズのもつ物語性、宗教性、芸術性を明らかにしていく。主に、Miles DavisやJohn Coltrane、Wynton Marsalis、Helen Merrill、Sarah Vaughan、Diana Krallなどの演奏や歌唱を取り上げる。

【授業における到達目標】

モダン・ジャズを音楽的（和声的）、文学的（詩的）に分析し、独特の芸術形式をとおして表現されている物語的美学を理解することを目指す。それにより、相対的に自分にとって美とは何かを探求する姿勢を育み、人間としての研鑽力を培っていく。

【授業の内容】

1. Prologue to Modern Jazz in American Culture
2. What Is Jazz? (1) —Origin and History
3. What Is Jazz? (2) — “Blues & Swing” by Wynton Marsallis
4. Standard Jazz Vocal (1) — “You’ d Be So Nice to Come Home to” by Helen Merrill
5. Standard Jazz Vocal (2) — “Summertime” by Helen Merrill and Sarah Vaughan
6. Standard Jazz Vocal (3) — “Day by Day” by Sarah Vaughan
7. Standard Jazz Vocal (4) — “Misty” by Sarah Vaughan
8. Standard Jazz Vocal (5) — “Autumn in New York” by Sarah Vaughan
9. Scenes from Jazz Vocal—Sarah Vaughan
10. Standard Jazz Vocal (6) — “Unforgettable” by Nat King Cole with Natalie Cole
11. Standard Jazz Vocal (7) — “Cry Me a River” by Diana Krall
12. Standard Jazz Vocal (8) — “Love Letters” by Diana Krall
13. Giants in Modern Jazz (1) —Miles Davis
14. Giants in Modern Jazz (2) — “The World of John Coltrane”
15. Epilogue to Modern Jazz in American Culture

【事前・事後学修】

【事前学修】 授業終了時に次回の授業で取り上げる演奏や歌唱を指定するので、試聴して音楽的、文学的な特徴を把握しておくこと。（学修時間 2時間）

【事後学修】 毎授業での小レポート・リアクションペーパーを次回の授業で返却するので、確認の上、理解不足の点を補うこと。また、音楽的な専門用語を理解しておくこと。（学修時間 2時間）

【テキスト・教材】

特になし。授業時にプリント配布する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

小レポート・リアクション・ペーパー40%、学期末レポート60%により総合評価する。小レポート・リアクションペーパーは、添削した上、次回授業でフィードバックする。

【参考書】

相倉久人『新書で入門 ジャズの歴史』（新潮新書）
油井正一『ジャズの歴史物語』（アルテスパブリッシング）

【注意事項】

特になし。

アメリカ文学・文化講義 d

1960年代にみる自由の諸相—公民権運動、核開発、ベトナム戦争

深瀬 有希子

3年 後期 2単位

◎：美の探究 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

公民権運動、核開発、ベトナム戦争といった多層的で複雑な1960年代の政治的展開を概観したのち、それらをうけて生み出されたアメリカ文学文化に見出される自由や国家の意味を考察する。人種・民族・ジェンダーなど複数の概念が交錯する60年代の文学文化に触れることにより、異文化理解はもちろんのこと、対象を多方面から分析する方法や論理的思考力を獲得することも目指す。

【授業における到達目標】

美の探究：知を求め、心の美を育む態度を養う。
研鑽力：学修を通して自己成長する力を高める。

【授業の内容】

- 1 イントロダクション：「ジム・クロウ」について
- 2 公民権運動の展開 1：「分離すれども平等」について
- 3 公民権運動の展開 2：シット・インからワシントン大行進へ
- 4 公民権運動の展開 3：アフーマティヴ・アクション
- 5 マーチン・ルーサー・キングとマルコムX
- 6 公民権運動とジェンダー：アリス・ウォーカー『メリディアン』、キャスリン・ストケット『ヘルプ』、スパイク・リー『ゲット・オン・ザ・バス』
- 7 まとめ ①
- 8 ベトナム戦争の展開 1：米ソ冷戦
- 9 ベトナム戦争の展開 2：核開発、宇宙開発競争
- 10 ベトナム戦争の展開 3：ケネディ政権の動向
- 11 ベトナム戦争の展開 4：アメリカ国外からの反応
- 12 現代アメリカ戦争文学史概説
- 13 ポストモダン・アメリカの形成1：コーマック・マッカーシー『ザ・ロード』
- 14 ポストモダン・アメリカの形成2：『地獄の黙示録』、『7月4日に生まれて』、『フォレスト・ガンプ』
- 15 まとめ ②

【事前・事後学修】

事前学修：アメリカ（文学）史の基本的知識を確認しておくこと。
授業で扱う小説や映画をできる限り読むまたは観ておくこと。
学修時間 週2時間。

事後学修：授業で扱われた小説や映画をできる限り読むまたは観ておくこと。次回の授業範囲を予習し、専門用語等を理解しておくこと。学修時間 週2時間。

【テキスト・教材】

プリントを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

レスポンスシート30%、試験70%で評価する。
フィードバックはmanabaまたは試験答案返却時に行う。

【参考書】

杉野健太郎、稲垣伸一他著『アメリカ文化入門』三修社、2010年
巽孝之著『アメリカ文学史—駆動する物語の時空間』慶應義塾出版会、2003年

【注意事項】

特になし。

コミュニケーション英語 e

More English for Communication

ダーリン, マーティン

3年 前期 2単位

◎: 国際的視野 ○: 行動力、協働力

コミュニケーション英語 f

More English for Communication

ダーリン, マーティン

3年 後期 2単位

◎: 国際的視野 ○: 行動力、協働力

【授業のテーマ】

The aim of this course is for students to improve their English skills, especially speaking and listening. Students will also develop their discussion abilities and become more confident English speakers.

【授業における到達目標】

Each theme will present students with the opportunity to reflect on, discuss, and share their views with others. Students will learn to support their opinions and develop their critical thinking skills. In so doing, students will gain international perspectives and shape autonomous learning attitudes.

【授業の内容】

Week 1 - Introduction
Week 2 - Cosmetic surgey
Week 3 - Expressing opinions
Week 4 - Household rules
Week 5 - Analyzing problems
Week 6 - Fashion
Week 7 - Expressing preferences
Week 8 - Preparing a presentation
Week 9 - Presentations
Week 10 - Parasite singles
Week 11 - Giving advice
Week 12 - Foreigners in Japan
Week 13 - Japanese culture
Week 14 - In-class proof
Week 15 - Feedback

【事前・事後学修】

Read the assigned story and listen to it before class on the self-study CD. (4 hours per week on average)

【テキスト・教材】

Impact Issues 3
Richard R Day, Joseph Shaules, Junko Yamanaka
(Pearson Longman, 2011)
978-962-01-9932-5
3,316円

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Quizzes 40%
Presentations 40%
Participation 20%
Feedbacks will be provided in every class as needed.

【参考書】

Students must have an English-Japanese dictionary.

【注意事項】

Students need a B5 notebook.

【授業のテーマ】

This course will develop students' language proficiency particularly in speaking and listening. Students will also learn the skills required to lead and fully participate in group discussions.

【授業における到達目標】

Students will discuss social issues relevant to their own lives. They will have many opportunities to discuss with their partner, in a group, and with the teacher. Students will have some input into class content and will be encouraged to take responsibility for their own learning. In so doing, students will gain international perspectives and shape autonomous learning attitudes.

【授業の内容】

Week 1 - Course introduction
Week 2 - Workplace relationships
Week 3 - Preparing an article for discussion
Week 4 - Career choices
Week 5 - Preparing for a job interview
Week 6 - Presentations
Week 7 - Women in society
Week 8 - Societal roles
Week 9 - Dating
Week 10 - Family relationships
Week 11 - Presentations (preparation)
Week 12 - Presentations (activities)
Week 13 - Tourism in Japan
Week 14 - In-class proof
Week 15 - Feedback

【事前・事後学修】

Read a short article related to the theme and study new vocabulary. (4 hours per week)

【テキスト・教材】

Materials will be supplied.

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Presentations 40%
Quizzes 40%
Participation 20%
Feedback will be provided in class as needed.

【参考書】

Students must have an English-Japanese dictionary.

【注意事項】

Students need a B5 notebook and a clear plastic folder.

コミュニケーション英語 g

Advanced English for Communication

パーティウム, デイヴィッド

3年 前期 2単位

◎ : 国際的視野 ○ : 行動力、協働力

- Exceptions are made for excused absences.
- Three tardies (coming to class late) equal one absence.

【授業のテーマ】

This is an elective, one-semester course for students who would like a more challenging atmosphere in which they can use and improve their English speaking, listening, reading and writing skills at an accelerated level. The course is open to 3rd- and 4th-year students who meet two of the following three qualifications: a relatively high score on the TOEFL-ITP, an instructor's recommendation, and a high GPA. The class is limited to 30 students. The English Department will select the top 30 students from the pool of those who wish to register. A list of the names of the qualified students will be provided in the 2nd week of the course.

【授業における到達目標】

The course will require students to express their thoughts and opinions in debates, discussions and presentations on academic issues related to students' interests and will primarily focus on speaking and listening with some related reading and writing. In so doing, students will be able to play an independent role by applying what they already know to what they are learning.

【授業の内容】

1st week Family
2nd week Food
3rd week Time
4th week House
5th week Music
6th week Transportation
7th week Sports
8th week Numbers
9th week Best Friends
10th week TV
11th week Work
12th week Vacation
13th week School
14th week Movies
15th week Money

【事前・事後学修】

Students should preview the appropriate part in the textbook or handouts before each class, especially with regard to unfamiliar expressions, collocations and sentence patterns. Students should also try to use these items themselves in classes afterwards. (4 hours per week)

【テキスト・教材】

David Martin, 『Topic Talk, 2nd ed.,』 (EFL Press, 2000年)
2700円

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Students in this course are expected to (1) participate in all classroom projects and discussions, and (2) maintain good attendance for the semester. Final grades will be based upon classroom participation (60%) and completion of all assignments and debates or presentations (40%)

Feedback will be provided through actual interactions in class.

【注意事項】

- Students attending less than 70% of their classes will fail.

コミュニケーション英語 h

Advanced English for Communication

パーティウム, デイヴィッド

3年 後期 2単位

◎ : 国際的視野 ○ : 行動力、協働力

- Exceptions are made for excused absences.
- Three tardies (coming to class late) equal one absence.

【授業のテーマ】

This is an elective, one-semester course for students who would like a more challenging atmosphere in which they can use and improve their English speaking, listening, reading and writing skills at an accelerated level. The course is open to 3rd- and 4th-year students who meet two of the following three qualifications: a relatively high score on the TOEFL-ITP, an instructor's recommendation, and a high GPA. The class is limited to 30 students. The English Department will select the top 30 students from the pool of those who wish to register. A list of the names of the qualified students will be provided in the 2nd week of the course.

【授業における到達目標】

The course will require students to express their thoughts and opinions in debates, discussions and presentations on academic issues related to students' interests and will primarily focus on speaking and listening with some related reading and writing. In so doing, students will be able to play an independent role by applying what they already know to what they are learning.

【授業の内容】

- 1st week Restaurants
- 2nd week Animals
- 3rd week Shopping
- 4th week Health
- 5th week Fashion
- 6th week Travel
- 7th week Books, Magazines and Newspapers
- 8th week Sickness
- 9th week Holidays
- 10th week Fears
- 11th week Dating
- 12th week Marriage
- 13th week Beliefs
- 14th week Crime
- 15th week Opinions

【事前・事後学修】

Students should preview the appropriate part in the textbook or handouts before each class, especially with regard to unfamiliar expressions, collocations and sentence patterns. Students should also try to use these items themselves in classes afterwards. (4 hours per week)

【テキスト・教材】

David Martin, 『Topic Talk, 2nd ed. 』 (EFL Press, 2000)
2700円

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

Students in this course are expected to (1) participate in all classroom projects and discussions, and (2) maintain good attendance for the semester. Final grades will be based upon classroom participation (60%) and completion of all assignments and debates or presentations (40%)

Feedback will be provided through actual interactions in class.

【注意事項】

- Students attending less than 70% of their classes will fail.

英語教育学講義

第二言語習得に関する知識を得る

砂田 緑

3年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

この授業では、第二言語習得に関する様々なトピックについて、「何が信じられているか」「研究では何が証明されているか」「実際の学習や指導において何が重要か」という視点を持って、英文を読んだりディスカッションをしたりします。

英語教育学に関する用語を学び、英文で専門的な文章を読み解く力も育てます。

【授業における到達目標】

第二言語習得研究において何が議論され、証明されているのかを英語で読むことができるようにします。また、読み取った内容を実際の学習や指導にどのようにつなげていったらよいのかを考える力を育てます。

【授業の内容】

- 第1回 イントロダクション・Language learning and age; the Critical Period Hypothesis
- 第2回 Language learning and age; the Critical Period Hypothesis
- 第3回 Bilingualism (In the Real World, What the Research Says)
- 第4回 Bilingualism (What the Research Says, What We Can Do)
- 第5回 Input, output, and interaction (In the Real World, What the Research Says)
- 第6回 Input, output, and interaction (What the Research Says, What We Can Do)
- 第7回 Attention and noticing (In the Real World, What the Research Says)
- 第8回 Attention and noticing (What the Research Says, What We Can Do)
- 第9回 Explicit and implicit learning; developmental sequences; interaction (In the Real World, What the Research Says)
- 第10回 Explicit and implicit learning; developmental sequences; interaction (What the Research Says, What We Can Do)
- 第11回 Correction and recasts (In the Real World, What the Research Says)
- 第12回 Correction and recasts (What the Research Says, What We Can Do)
- 第13回 Individual differences (In the Real World, What the Research Says)
- 第14回 Individual differences (What the Research Says, What We Can Do)
- 第15回 まとめ・試験

【事前・事後学修】

テキストの指定のページを読んで理解しておいてください。ワークシートを配布し、理解の度合いを確認します。(2時間)
トピックに関連した書籍を読み、理解を深めるようにしてください。(2時間)

【テキスト・教材】

Steven Brown (著), Jenifer Larson-hall (著) "Second Language Acquisition Myths: Applying Second Language Research to Classroom Teaching"
(2012)Michigan
2889円

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題70%(ワークシートを配布し、内容の理解度、ディスカッションの内容などを確認します)
試験30%(全体を通して学んだことのまとめを行います)

社会言語学講義

社会と言語の交差点に着目する

ウンサーシュッツ, ジャンカーラ

3年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

本講義では、具体例を提示しながら社会が言語に及ぼす影響、また言語が社会におよぼす影響について考察します。同じ国に住んでいるのに、なぜか地域によって話し方が違う…、同じ内容の話でも、話者が女性なのか男性なのかによってことばづかいが異なる…、同じ相手なのに、場が変わっては話し方が違ってくる…、といったように、様々な社会的な要因(地域やジェンダー、コンテキスト等)が言語の使い方を大きく左右させます。その仕組みに対する理解が深まるよう、最初は具体例を取り上げつつことばづかいに影響をおよぼす諸社会的な要因について勉強します。次に、コンテキストによる差を理解するために、ポライトネスやスピーチ・アコモデーションといった現象を取り上げ、社会的要因の具体的な効果を検討していきます。本講義を通し、社会言語学的な観点からことばを考察する姿勢を身につけ、その分析に必要なスキルを取得します。

【授業における到達目標】

社会言語学の基礎的研究に対する理解を活用し、社会言語学な観点から分析を行うことができる。自分の勉学と生活の中で、ことばに意識・関心を持つようになり、データの採取・分析する能力が身につく。

【授業の内容】

- 【第1回】社会言語学のはじまり
- 【第2回】社会言語学の諸要因：地域
- 【第3回】社会言語学の諸要因：階層
- 【第4回】社会言語学の諸要因：民族
- 【第5回】社会言語学の諸要因：性差
- 【第6回】社会言語学の諸要因：年齢
- 【第7回】コンテキストと言語：言語選択
- 【第8回】コンテキストと言語：レジスターとスタイル
- 【第9回】コンテキストと言語：ポライトネス
- 【第10回】コンテキストと言語：異文化コミュニケーション
- 【第11回】コンテキストと言語：会話の仕組みとスタイル
- 【第12回】文化と言語：言語人類学
- 【第13回】文化と言語：認知言語学
- 【第14回】メディアと言語
- 【第15回】社会言語学の今後

【事前・事後学修】

- 1) 各回指定された教科書の章・授業で配布されたプリントを読むこと(週2時間)
- 2) 各回指定された課題に取り組むこと(週2時間)

【テキスト・教材】

岩田祐子・重光由加・村田泰美著『概説 社会言語学』(ひつじ書房 2013年)2,200円

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(受講票・授業への積極的な参加)：40%
課題：60%
1) 受講票を参考に、各回はいただいた学生の質問や疑問に答える。
2) 課題等の評価基準は明確にし、授業内で具体的に解説する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【注意事項】

課題等について質問・相談があった場合、giancarlaunerschultz@ris.ac.jpまでお気軽にご連絡いただけます。原則として喜んで手伝うが、≠切前日以降のメールには必ずしも答えられるとは限りないことをご了承下さい。

英語史 a

—英語の起源から、ノルマン征服による中英語の始まりまで—

片見 彰夫

3年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

英語の辿った歴史を内面史・外面史の両観点から概観し、印欧語族に属する英語への通時的理解を深める。英語史aでは、古英語（450-1100年頃）について焦点を当てる。実際の古英語の文献を読むことも含めて、英語史前半について理解を深める。

英語学習の際に、goodの比較級がなぜbetterか、toothの複数形はどうしてteethなのかということが頭をよぎったことがあるだろう。さらに、独仏語と似た単語が英語に存在する理由について探ったことはないだろうか。本授業では英語史の知識を得ることによって、様々な文化的要因が言葉に影響を及ぼしていることを見出し、英語学習が一層実り多いものになることを目指していく。

【授業における到達目標】

英語の時代区分について理解するとともに、古英語の音韻・語形・語彙・統語法について基礎的知識を得ることを到達目標とする。さらに、古英語の言語知識をもとに作品の一部を読解できるようにする。また、英語の歴史を知ることで、英文科学生としての専門性を高め、英語運用能力向上の礎とする。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス。英語史の概観
- 第2週 インド・ヨーロッパ語族
- 第3週 英語の成立と発達の背景
- 第4週 古英語の方言
- 第5週 アングロ・サクソン文学について（韻文）
- 第6週 アングロ・サクソン文学について（散文）
- 第7週 古英語の特徴1（名詞・代名詞）
- 第8週 古英語の特徴2（動詞）
- 第9週 古英語の特徴3（形容詞）
- 第10週 古英語の特徴4（副詞・前置詞・接続詞）
- 第11週 古英語の特徴5（冠詞）
- 第12週 Anglo-Saxon Chroniclesの言語（語彙中心）
- 第13週 Anglo-Saxon Chroniclesの言語（文体中心）
- 第14週 Beowulfの言語（語彙中心）
- 第15週 Beowulf（文体中心） 全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】事前に指示する予習項目は、次回授業までに必ず目を通しておくことが必要である。また、次回授業で扱う項目について指定参考書等で確認しておくことが求められる。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内容を復習し、配布課題を用いて理解を定着させておくことが必要である。適宜理解確認のための小テストを行うので事後学習で備えること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

Brigit Viney 著『The History of the English Language』（Oxford University Press、2008年）810円＋税
ISBN：9780194233972
その他にハンドアウトを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験60%、平常点（授業参加度・課題提出）40%で評価する。小テスト・課題については次回授業、試験については授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

宇賀治正朋 著『英語史』（開拓社 2000年）
児馬修 著『ファンダメンタル英語史』（ひつじ書房 1996年）

【注意事項】

履修を前提としませんが、後期「英語史b」と併せて受講することでより理解が深まります。

英語史 b

—中英語から近代英語まで。そして世界における様々な現代英語—

片見 彰夫

3年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

本授業では、中英語から始まり、近代、現代に至る英語の変遷と特徴を知ること为目标とする。通時的言語区分のうち、Chaucerが用いた英語として知られる中英語（1100-1500年頃）とShakespeareや『欽定訳聖書』で知られる初期近代英語（1500-1700年頃）について焦点を当てる。実際の中英語・初期近代英語の文献を読むことも含めて、英語史全体の流れについて理解を深める。同時に、それらの英語と現代英語を比較することで、英語の通時的変化について理解を深める。

【授業における到達目標】

英語の時代区分について理解するとともに、中・近代英語の音韻・語形・語彙・統語法について基礎的知識を得ることを到達目標とする。さらに、中・近代英語の言語知識をもとに作品の一部を読解できるようにする。また、現代英語の形式を整え始めた中英語、印刷術の普及や大母音推移により、それを定着させていく近代英語の歴史を知ることで、英文科学生としての専門性を高め、英語運用能力向上の礎とする。

【授業の内容】

- 第1週 ガイダンス。中・近代英語の特徴
- 第2週 中英語期の外面史と方言
- 第3週 外来語の流入
- 第4週 非人称構文の発達
- 第5週 関係代名詞の発達
- 第6週 『カンタベリー物語』を読む（総序）
- 第7週 近代英語期の外面史
- 第8章 大母音推移
- 第9章 助動詞doの発達
- 第10週 『ロメオとジュリエット』を読む
- 第11週 『欽定訳聖書』を読む1（ヨハネによる福音書抜粋）
- 第12週 『欽定訳聖書』を読む2（マタイによる福音書抜粋）
- 第12週 『高慢と偏見』を読む
- 第13週 世界の英語1（オーストラリア、ニュージーランド英語）
- 第14週 世界の英語2（アメリカ、カナダ英語）
- 第15週 現代の英語・全体のまとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】事前に指示する予習項目は、次回授業までに必ず目を通しておくことが必要である。また、次回授業で扱う項目について指定参考書等で確認しておくことが求められる。（学修時間 週2時間）

【事後学修】授業内容を復習し、配布課題を用いて理解を定着させておくことが必要である。適宜理解確認のための小テストを行うので事後学習で備えること。（学修時間 週2時間）

【テキスト・教材】

Brigit Viney 著『The History of the English Language』（Oxford University Press、2008年）810円＋税
ISBN：9780194233972
その他にハンドアウトを使用する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

試験60%、平常点（授業参加度・課題提出）40%で評価する。小テスト・課題については次回授業、試験については授業最終回でフィードバックを行う。

【参考書】

宇賀治正朋 著『英語史』（開拓社 2000年）
児馬修 著『ファンダメンタル英語史』（ひつじ書房 1996年）

【注意事項】

履修を前提としませんが、後期「英語史a」と併せて受講することでより理解が深まります。

西洋古典入門

古代ギリシア・ローマの文学

堀尾 耕一

3年 前期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

西洋古典研究

ラテン語の世界

堀尾 耕一

3年 後期 2単位

◎：国際的視野 ○：研鑽力

【授業のテーマ】

古代ギリシアおよびローマの文学は、近代ヨーロッパにおいて「古典」として広く親しまれてきました。その理由のひとつに、今日に生きるわれわれが共有する「市民社会」という考え方の原型を、そこに見いだすことができるという点が挙げられます。たとえば「民主主義」あるいは「裁判員」といった仕組みは、いずれも古代ギリシアをその起源としているに違いありません。二千年の時を経てもまったく色あせることのない作品群に、翻訳および映像資料をとおしてできるだけ多く触れてもらいます。参加者の率直な感想が、考察の出発点となるでしょう。

【授業における到達目標】

西洋古典文学の基本的な知識、および翻訳資料等との基本的な接し方を身に付けること。

【授業の内容】

翻訳資料をとおして古典そのものに触れることを目指します。また映画などの映像資料をできるかぎり利用して、その理解を深めていきます。

- 第1週 問題の概観および資料紹介
- 第2週 ホメロスとは何者か？
- 第3週 「イリアス」の世界
- 第4週 映画「トロイ」の観賞
- 第5週 ソフォクレス「オイディプス王」
- 第6週 劇場版「オイディプス王」の観賞
- 第7週 プラトン「ソクラテスの弁明」
- 第8週 民主政の功罪について
- 第9週 エウリピデス「メデア」
- 第10週 劇場版「メデア」の観賞
- 第11週 ギリシアからローマへ
- 第12週 シェイクスピア「ジュリアス・シーザー」
- 第13週 ウェルギリウスからダンテへ
- 第14週 古典の受容とその再生
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前の知識を前提とするものではありません。日ごろから文学全般に興味を持ち、気の向くままに書物を手にとってみる習慣を身に付けること、それこそが何よりの予習であり、また復習であると信じます。

【テキスト・教材】

こちらでプリント資料を配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

数回ごとに、講義内容のまとめおよび感想を提出してもらい、これを平常点とします(40%)。また学期末にレポートを提出してもらいます(60%)。その際、簡単な口頭発表をしてもらうことも考えています。

【参考書】

- 高津春繁・斉藤忍隋『ギリシア・ローマ文学案内』（岩波文庫）
- ホメロス『イリアス』『オデュッセイア』（岩波文庫）
- ソポクレス『オイディプス王』（岩波文庫）
- プラトン『ソクラテスの弁明・クリトン』（講談社学術文庫）
- シェイクスピア『ジュリアス・シーザー』（岩波文庫）

【授業のテーマ】

古代ローマ人の言葉であるラテン語は、ギリシア語とともに、近代ヨーロッパにおいて「古典語」としての位置づけを得てきました。ちょうどわれわれ日本人が古代中国の文字（すなわち漢字）をとくにそれと意識することなく用いているのと同様、英語をはじめとする西洋近代語の語彙および文法においては、彼らにとっての「古典語」、とりわけラテン語に由来する要素がじつに大きな役割を演じているのです。この授業では、英語と古典語との関係を概観したうえで、ラテン語の基礎的な文法を学習します。整然としたその文法体系は、むしろ数学の合理性にも通じるところがあるでしょう。英文法がどうも腑に落ちないというみなさんにも、一条の光となるかもしれません。

【授業における到達目標】

ラテン語文法の基礎を習得する

【授業の内容】

下記教科書の章立てにそってラテン語文法の基礎を習得することが授業の基本となります。また、それに平行して、英語の語彙に関する資料を随時配布し、解説します。

- 第1週 ラテン語の歴史的役割
- 第2週 ラテン語文法の概観
- 第3週 動詞の活用
- 第4週 名詞の変化（1）
- 第5週 名詞の変化（2）
- 第6週 ラテン語から派生した英単語（1）
- 第7週 形容詞の変化
- 第8週 形容詞の用法
- 第9週 文法解析の作法
- 第10週 ラテン語と西洋近代諸語の関係
- 第11週 動詞の時制（1）
- 第12週 動詞の時制（2）
- 第13週 ラテン語から派生した英単語（2）
- 第14週 音楽作品におけるラテン語：ミサ曲ほか
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

予備知識はいっさい前提としません。教科書に付された練習問題の予習を求めますが、毎回の授業時間に集中力をもって臨んでもらうことを第一とします。また、英語を読む際に多少とも語源への眼差しを持つことができれば、それが何よりの事後学修になるものと信じます。

【テキスト・教材】

中山恒夫『標準ラテン文法』（白水社 1987年）1,995円

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内の練習問題への取組みを評価し、平常点とします(50%)。また定期試験を行います(50%)。

【参考書】

- 大西英文『はじめてのラテン語』（講談社現代新書 1997年）
- 小林標『ラテン語の世界』（中公新書 2006年）

【注意事項】

おそらくは誰にとってもなじみの薄い分野だと思われます。授業の進度はできるだけ受講生の理解力に合わせてしますので、まずはご安心を。好奇心旺盛な学生諸姉の参加を期待します。

中世イギリス文学・文化演習 f

中世ロマンス文学を読む

大関 啓子

4年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

中世ヨーロッパの口承文学の系譜として、アーサー王伝説の一環となる中世騎士物語を読み、その中にあるキリスト教的騎士道精神とケルト文化の影響を考えます。

【授業における到達目標】

表のギリシャ・ローマ文化に対し、ヨーロッパ文化の裏を成しているケルト民族の影響を探り、現代ヨーロッパ文化についての理解を深めます。また数少ない登場人物の女性に注目し、当時の女性の生き方についても考えたいと思います。

中世ロマンス作品を通して、異文化理解の力を養います。

【授業の内容】

以下の内容を予定しています。

ロマンス作品については、初回授業時に決めます。

- 第1週 Introduction
- 第2週 中世ロマンス文学
- 第3週 ケルト民族の歴史と伝統
- 第4週 古代ケルトの信仰と芸術
- 第5週 ロマンズⅠーPart 1 (宮廷社会)
- 第6週 ロマンズⅠーPart 2 (騎士概念と身分)
- 第7週 ロマンズⅠーPart 3 (騎士道)
- 第8週 ロマンズⅡーPart 1 (馬上槍試合)
- 第9週 ロマンズⅡーPart 2 (貴婦人の掟)
- 第10週 ロマンズⅡーPart 3 (宮廷風恋愛)
- 第11週 ロマンズⅢーPart 1 (恋愛と婚姻)
- 第12週 ロマンズⅢーPart 2 (叙事詩と抒情詩)
- 第13週 ロマンズⅢーPart 3 (口承文学と文字伝承)
- 第14週 現代ヨーロッパにおけるケルト
- 第15週 Conclusion

この他、作品の映画・DVD等を用いる予定です。

【事前・事後学修】

事前学修として各回の授業で取り上げる作品について、2時間程度しっかり予習し、大意を読み取ること。

事後学修として、前回の授業で扱った作品について、2時間程度復習し、まとめておくこと。

【テキスト・教材】

テキストは使用せず、プリントを配布します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(授業態度・リアクション・ペーパー・課題等)40%、レポート60%で評価。

平常点については、毎週の授業時における貢献度(作品の理解を深めるような意見や質問、発表など)を高く評価。

課題については、期日と場所を指定してフィードバックします。

近代イギリス文学・文化演習 e

『ビグマリオン』を通して見るイギリス社会

土屋 結城

4年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

19世紀から20世紀に活躍した作家バーナード・ショー(Bernard Shaw)の『ビグマリオン』(1912)を読む。作品の読解とあわせて19世紀末から20世紀初頭頃のイギリスの状況、特に階級制度や女性の立場について考察する。

【授業における到達目標】

文学作品の鑑賞のしかたを身につけるとに、当時のイギリス社会、女性の地位へ理解を深めることを目的とし、全学DPのうち、研鑽力、美の探究、行動力を身につけることを目標とする。

【授業の内容】

初回及び第2回授業時に担当者を決め、担当者による発表形式で授業を進める。各担当者は担当箇所をあらかじめまとめるだけでなく重要箇所の指摘、文化的背景のリサーチなどを行う必要がある。発表の後には教員による解説、受講者による重要箇所精読、ディスカッションを行う。

- 第1週 イントロダクション(バーナード・ショーの生涯)
- 第2週 イライザの登場
- 第3週 ヒギンズとの出会い
- 第4週 ヒギンズの自宅にて
- 第5週 ドゥーリトル登場
- 第6週 レッソンの始まり
- 第7週 レディとして
- 第8週 園遊会にて
- 第9週 園遊会が終わって
- 第10週 ドゥーリトルとヒギンズ
- 第11週 イライザとヒギンズ
- 第12週 後日譚
- 第13週 映像鑑賞
- 第14週 映像、作品についての考察
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】

テキストで該当箇所を読み、課題に取り組むこと。(学修時間 週2時間)

【事後学修】

授業の内容を復習すること。関連項目について調べること。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

必要に応じてプリントを配布するほか、授業時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点(発表、授業内提出課題)50%、レポート50%で評価する。フィードバックは翌回以降の授業で行う。

【注意事項】

辞書を必ず持参すること。

現代イギリス文学・文化演習 e

ミュリエル・スパークの『独身者 (The Bachelors)』を読む

西野 方子

4年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

戦後イギリスを代表する作家の一人である、ミュリエル・スパーク (Muriel Spark) の『独身者 (The Bachelors)』 (1960) を読む。この作品はロンドンを舞台とし、降霊術による詐欺事件を巡る裁判とそれに巻き込まれる人々 (独身者たち) の様子を描いたものである。この授業では、『独身者』を語りの手法に注目しながら読むことで、書かれた内容と形式の双方から作品を分析していく。

【授業における到達目標】

英語で書かれた文学作品を「何が書かれているか」に加えて「それがどういうふうに表示されているか」に注目しながら読むことで、読解力や分析力を高める。また、発表やディスカッションを通して、相互理解のための対話力や共同作業のための協働力を磨く。

【授業の内容】

各回に発表者を割り当て、該当範囲について発表をしてもらい、クラス全体でディスカッションを行う。発表者は担当する箇所について、あらかじめ注目した箇所をまとめたハンドアウトを用意し発表を行う。それ以外の受講者は、疑問点や注目した箇所を事前に準備した上でディスカッションに参加する。ディスカッション後に、自分が重要だと感じたポイントや疑問点を書いて提出する。

第1週 イギリス戦後文学とミュリエル・スパークについての概要

第2週 Chapter 1

第3週 Chapter 2

第4週 Chapter 3

第5週 Chapter 4

第6週 Chapter 5

第7週 Chapter 6

第8週 Chapter 7

第9週 Chapter 8

第10週 Chapter 9

第11週 Chapter 10 (前半)

第12週 Chapter 10 (後半)

第13週 Chapter 11

第14週 Chapter 12

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修：授業範囲となっている箇所を事前に読んでくる。発表担当者はハンドアウトを用意し、それ以外の受講生は疑問点や注目した箇所をピックアップする。(学修時間：週2時間)

事後学修：ディスカッションの内容を復習し、レポートのためのアイデアを練る。余裕があれば、同著者の短編小説を読んでいく。(短編小説については授業内で紹介する。)(学修時間：週2時間)

【テキスト・教材】

Muriel Spark, *The Bachelors* (H Canongate Books, 2015, 約1600円)

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

評価：平常点 (発表、ディスカッションへの参加、コメントペーパー) 50%、レポート50%

フィードバック：授業の最後に提出されたペーパーにコメントし、次の授業で返却する。

【参考書】

Muriel Spark, *The Complete Short Stories* (Canongate Books, 2011)

ミュリエル・スパーク『パン、パン！はい死んだ：ミュリエル・スパーク傑作短篇集』(訳：木村 政則、河出書房新社、2013年)

大社淑子『ミュリエル・スパークを読む』(水声社、2013年)

MacKay, M., Stonebridge, L. (Eds.), *British Fiction After Modernism: The Novel at Mid-Century* (Palgrave Macmillan UK, 2007)

近代アメリカ文学・文化演習 e

19世紀末から20世紀前半までのアメリカ短篇小説を読む

稲垣 伸一

4年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

19世紀末から20世紀前半の間に活躍した3人の作家、Mark Twain (写実主義)、Stephen Crane (自然主義)、Sherwood Anderson (地方主義)の短篇を一つずつ読む。

【授業における到達目標】

第一に、それぞれの作品を語学的に正確に読むこと、第二に、作品の内容を味わい、3人の作家のそれぞれ異なる特徴を知ること目標とする。

【授業の内容】

毎回、何人かが逐語訳していく形で授業を進める。

第1週 イントロダクション

第2週 Mark Twain, "The Celebrated Jumping Frog of Calaveras County" p. 21

第3週 Mark Twain, "The Celebrated Jumping Frog of Calaveras County" p. 22

第4週 Mark Twain, "The Celebrated Jumping Frog of Calaveras County" p. 23

第5週 Mark Twain, "The Celebrated Jumping Frog of Calaveras County" p. 24

第6週 Mark Twain, "The Celebrated Jumping Frog of Calaveras County" pp. 25-26、まとめ

第7週 Stephen Crane, "The Upturned Face" p. 53

第8週 Stephen Crane, "The Upturned Face" pp. 54-55

第9週 Stephen Crane, "The Upturned Face" pp. 56-57、まとめ

第10週 Sherwood Anderson, "The Egg" pp. 74-75

第11週 Sherwood Anderson, "The Egg" pp. 76-77

第12週 Sherwood Anderson, "The Egg" pp. 78-79

第13週 Sherwood Anderson, "The Egg" pp. 80-81

第14週 Sherwood Anderson, "The Egg" pp. 82-84

第15週 まとめ

【事前・事後学修】

【事前学修】授業前には読む予定の範囲を予習する。(学修時間 週2時間)

【事後学習】授業後はその回で読んだ部分の内容やポイントを復習しておく。(学修時間 週2時間)

【テキスト・教材】

上野直蔵編『アメリカ短編アンソロジー (Anthology of American Short Stories)』(南雲堂、1983年) 1,942円+税

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点 (授業での発表) 50%

レポート 50%

【注意事項】

3つの短編小説をそれぞれ数回の授業に分けて読むので、事前事後学習を通して継続的に読んだ内容を消化していくことが求められる。授業中は英文を読むため、中英和程度の辞書あるいは電子辞書を持参すること。

近代アメリカ文学・文化演習 f

ポー・ホーソーン・メルヴィルを読む

田ノ口 正悟

4年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

・忘れ物（作品プリント、英語辞典はかならず毎回持参）、課題提出の遅れ、授業内の私語や居眠りなどは適宜減点します。

・遅刻は3回で欠席1回とみなす。3分の1（5回）以上の欠席をした場合は評定外とします。

【授業のテーマ】

本授業では19世紀中葉にアメリカにおいて書かれた短編作品を取り上げます。アメリカ文学史において批評再検討の進む古典作家の作品を読みながら、現代社会にも通底する価値観や問題について考えます。

【授業における到達目標】

各作品につき4回程度の授業をかけて読みますが、作家や時代の背景に留意しつつ丁寧な英文読解を心がけるようにしましょう。また、授業内発表および期末レポートを通じて、他の文献を適切に参照しながら、自身の考えや解釈を明らかにするアカデミック・スキルの習得も目指します。

【授業の内容】

第1週 インTRODクシヨン。発表担当者決め。

第2週 アメリカ古典文学入門

第3週 Edgar Allan Poe, “The Fall of the House of Usher” を読む (1; p. 689-692)

第4週 Edgar Allan Poe, “The Fall of the House of Usher” を読む (2; p. 692-695)

第5週 Edgar Allan Poe, “The Fall of the House of Usher” を読む (3; p. 695-699)

第6週 Edgar Allan Poe, “The Fall of the House of Usher” を読む (4; p. 699-701)

第7週 Nathaniel Hawthorne, “Young Goodman Brown” を読む (1; p. 605-609)

第8週 Nathaniel Hawthorne, “Young Goodman Brown” を読む (2; p. 609-611)

第9週 Nathaniel Hawthorne, “Young Goodman Brown” を読む (3; p. 611-614)

第10週 Herman Melville, “Bartley, the Scrivener” を読む (1; p. 1093-1097)

第11週 Herman Melville, “Bartley, the Scrivener” を読む (2; p. 1097-1103)

第12週 Herman Melville, “Bartley, the Scrivener” を読む (3; p. 1103-1108)

第13週 Herman Melville, “Bartley, the Scrivener” を読む (4; p. 1108-1113)

第14週 Herman Melville, “Bartley, the Scrivener” を読む (5; p. 1113-1118)

第15週 総括

【事前・事後学修】

事前学修：各回で扱う範囲の本文を熟読しておくこと。知らない単語や固有名詞について調べる。その上で、分からなかった疑問点を授業に持ちよる。

事後学修：ポイントとなる場面や文章について復習すること。授業内発表に対するコメントを書くこと。

学修時間：4時間

【テキスト・教材】

- ・授業時に指示する。
- ・その他、参考書については適宜紹介します。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

以下の3点を総合して成績を算出します。

- ・平常点（授業への積極参加、授業内課題）：40%
- ・授業内発表：20%
- ・期末レポート：40%

フィードバックは翌週に行います。

【注意事項】

本授業を受講するにあたって、以下の点は留意しておくこと。

- ・初回授業には必ず出席してください。発表担当を決めます。

現代アメリカ文学・文化演習 e

エスニック文学にみるディアスポラとジェンダー

深瀬 有希子

4年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

かつて公民権運動を経た1970年代にはマイノリティ文学と呼ばれるも、いまはエスニック文学と分類される、アフリカ系、アジア系、インド系アメリカ人作家による（短編）小説（及びそれらをもとにして作られた映画）を取り上げ、ディアスポラとジェンダーとの関わりを理解することを目標とします。

【授業における到達目標】

研鑽力： 学修を通して自己成長する力を高める。
美の探究力： 知を求め、心の美を育む態度を養う。
行動力： 問題解決のために主体的に行動する力を高める。

【授業の内容】

- 1 インTRODクシヨン—エスニック文学とは何か
- 2 Amy Tanの『ジョイ・ラック・クラブ』を読む： 民族と移動
- 3 Amy Tanの『ジョイ・ラック・クラブ』を読む： 母娘の関係
- 4 Amy Tanの『ジョイ・ラック・クラブ』を読む： アメリカ化への渴望と葛藤
- 5 映画『ジョイ・ラック・クラブ』を分析する
- 6 Alice Walkerの短編小説を読む： 母娘の関係
- 7 Alice Walkerの短編小説を読む： 伝統の継承
- 8 まとめ ①
- 9 Jhumpa Lahiriの短編小説を読む： 「ハイフン」の意味
- 12 Jhumpa Lahiriの短編小説を読む： 文化の翻訳
- 13 ディアスポラとジェンダーに関する文学文化批評を読む 1
- 14 ディアスポラとジェンダーに関する文学文化批評を読む 2
- 15 まとめ ②

【事前・事後学修】

事前学修： 発表者は担当箇所についてハンドアウトを作成する。発表者以外も重要と思われる場面への意見を用意しておくこと。学修時間週2時間。

事後学修： 発表で提示された問題点を確認しながら、次回の授業範囲の予習を行い、物語の流れを把握しておくこと。また、関連する映画を観ておくこと。学修時間週2時間。

【テキスト・教材】

Amy Tan, *The Joy Luck Club*, Vintage1991年版（約1400円）

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・発表・課題）50%、試験50%で評価する。フィードバックは、manaba または翌日以降の授業で行う。

【参考書】

Alice Walker, *In Search of Our Mothers' Gardens*
Jhumpa Lahiri, *Interpreter of Maladies*

【注意事項】

授業の前に必ず予習を行い、授業には積極的に参加すること。また毎回、辞書を持ってくること。教科書については、上に挙げた版以外で、すでに持っているものがあればそれを用いてもよいが、念のため担当者に確認すること。

現代アメリカ文学・文化演習 f

アメリカ現代作家を読む

植野 達郎

4年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：美の探究、行動力

【授業のテーマ】

William FaulknerおよびErnest Hemingwayの作品を読むことを通して、小説を読むことのおもしろさを味わう。時代を超えて、現代の読者にも訴えるものがあるとすれば、それは変わることのない人間性である。

【授業における到達目標】

日本とアメリカの文化の違いを考えることで国際的視野を広めるとともに、英語の読解力を高めることを目標とする。

【授業の内容】

- 第1週 INTRODUCTION
- 第2週 小説の構成
- 第3週 小説の時間
- 第4週 フォークナーの語り
- 第5週 語られる存在
- 第6週 町の人々
- 第7週 エミリーという存在
- 第8週 エミリーにとってのホーマー・バロン
- 第9週 南部の女性
- 第10週 ヘミングウェイの語り
- 第11週 男性性
- 第12週 女性性
- 第13週 作品で使われているイメージ
- 第14週 小説の構造
- 第15週 まとめ

【事前・事後学修】

事前学修： テキストの該当箇所の精読および課題に対するレポートをmanabaで提出。（学修時間 週3時間）

事後学修： 該当箇所を復習するとともに、他の人のレポートを読むことで自分の考えを整理する。（学修時間 週1時間）

【テキスト・教材】

授業時に指示する。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

平常点（授業態度・発表・課題）50%、期末試験50%

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【注意事項】

授業の前には必ず予習をし、授業には積極的に参加すること。

英語学演習 e

子供の言語獲得研究（言語音声と語彙の獲得）

有井 巴

4年 前期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

子供がどのように母語の言語音声と語彙を獲得するかを、原書を精読することを通じて学ぶ。また日本語の獲得研究にも焦点を当てることで、母語獲得研究の理解を深める。

【授業における到達目標】

ことばを科学の対象とする自然科学としての言語学を学ぶことを通じて、深い洞察力を身につける。

【授業の内容】

担当教員が授業で扱う内容を概説した後、担当の学生に準備してきた成果を発表してもらおうという形式をとる。

第1回 Introduction

第2回 Ch. 1: The Logical Problem of Language Acquisition

第3回 Ch. 1: The Notion of Grammar

第4回 Ch. 1: Where does Knowledge of Language Come From?

第5回 Ch. 2: The Quest for the Native Language (pp.23-32)

第6回 Ch. 2: The Quest for the Native Language (pp.32-40)

第7回 Ch. 2: Learning the Phonemic Contrasts of the Native Language

第8回 Ch. 2: Infants' Speech Production

第9回 Ch. 3: Why Finding Words Is a Problem (pp.55-63)

第10回 Ch. 3: Why Finding Words Is a Problem (pp.63-69)

第11回 Ch. 3: Why Finding Words Is a Problem (pp.69-74)

第12回 Ch. 3: Why Acquiring the Meaning Is a Problem

第13回 Ch. 3: Acquisition of Verbs

第14回 Ch. 3: Bootstrapping of Syntax

第15回 Summary

【事前・事後学修】

次回カバーすると思われる箇所を、事前に入念に予習すること（週約2時間）。事後には、板書を参考にしながら復習すること（週約2時間）。

【テキスト・教材】

Guasti, T. Maria著、『Language Acquisition: The Growth of Grammar』（MIT Press）よりプリント配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内での発表:30%

授業内での発言:10%

コメントシート:10%

課題:50%

学生発表・コメントシートへのフィードバックは授業内で、課題へのフィードバックは翌回以降の授業内に行う。

【参考書】

杉崎鉦司『はじめての言語獲得：普遍文法に基づくアプローチ』（岩波書店）

今井むつみ『ことばの発達の謎を解く』（ちくまプリマー新書）

広瀬友紀『ちいさい言語学者の冒険：子どもに学ぶことばの秘密』（岩波書店）

【注意事項】

英語学演習fと同じテキストを用いるが、英語学演習e, fの両方を履修することは必須ではない。英語学演習eでは言語音声と語彙の獲得を、英語学演習fでは統語知識の獲得を扱う。

英語学演習 f

子供の言語獲得研究（統語規則の獲得）

有井 巴

4年 後期 2単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

子供がどのように母語の統語規則を習得するかを、原書を精読することを通じて学ぶ。また日本語の獲得研究にも焦点を当てることで、母語獲得研究の理解を深める。

【授業における到達目標】

ことばを科学の対象とする自然科学としての言語学を学ぶことを通じて、深い洞察力を身につける。

【授業の内容】

担当教員が授業で扱う内容を概説した後、担当の学生に準備してきた成果を発表してもらおうという形式をとる。

第1回 Introduction

第2回 Ch. 4: Word Order in Children's Productions

第3回 Ch. 4: The Structure of Early Clauses

第4回 Ch. 4: The Subject Agreement Relation

第5回 Ch. 4: Root Infinitives

第6回 Ch. 5: Parametric Accounts of Early Null Subjects

第7回 Ch. 5: Root Null Subjects (pp.160-170)

第8回 Ch. 5: Root Null Subjects (pp.170-179)

第9回 Ch. 5: Performance Accounts

第10回 Ch. 6: Question Formation in Early Systems

第11回 Ch. 6: Auxless Questions in Early English

第12回 Ch. 6: Long-Distance Wh-Movement

第13回 Ch. 6: Relative Clauses (pp.220-230)

第14回 Ch. 6: Relative Clauses (p.230-240)

第15回 Summary

【事前・事後学修】

次回カバーすると思われる箇所を、事前に入念に予習すること（週約2時間）。事後には、板書を参考にしながら復習すること（週約2時間）。

【テキスト・教材】

Guasti, T. Maria著、『Language Acquisition: The Growth of Grammar』（MIT Press）よりプリント配布。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

授業内での発表:30%

授業内での発言:10%

コメントシート:10%

課題:50%

学生発表・コメントシートへのフィードバックは授業内で、課題へのフィードバックは翌回以降の授業内に行う。

【参考書】

杉崎鉦司『はじめての言語獲得』（岩波書店）

広瀬友紀『ちいさい言語学者の冒険：子どもに学ぶことばの秘密』（岩波書店）

【注意事項】

英語学演習eと同じテキストを用いるが、英語学演習e, fの両方を履修することは必須ではない。英語学演習eでは言語音声と語彙の獲得を、英語学演習fでは統語知識の獲得を扱う。

卒論セミナー a

担当教員全員

4年 前期 1単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

各担当教員の指導のもと、卒業論文執筆に必要となる研究の方法論や、各学生の研究テーマに基づいた先行研究の収集・考察を進めます。専門分野に関する資料を収集し分析する能力、プレゼンテーションやディスカッションで自分の意見を伝える能力、論理的な文章を書く能力、自ら問題を提起しその問題を解決する能力を養成し、卒業論文完成に向けた素地を固めることを目標とします。

【授業における到達目標】

卒業論文にむけて学問的視野を広げ、自律的に研究に取り組む姿勢と手法を身につける。これにより、国際的視野、研鑽力、行動力を伸ばすこととなる。

【授業の内容】

イギリス文学・文化

1. 大関ゼミ

中世英文学とその関連、およびケルト文化、イギリス世紀末文学

2. 島ゼミ

18・19世紀イギリス小説、ナンセンス文学、ゴシック小説、イギリス文化

3. 志渡岡ゼミ

18～20世紀イギリスの小説・旅行記・少女文化

4. 土屋ゼミ

19世紀（ヴィクトリア朝）文学

アメリカ文学・文化

1. 稲垣ゼミ

19世紀～20世紀初頭のアメリカ小説、アメリカ文化

2. 植野ゼミ

20世紀小説

3. 佐々木ゼミ

19～20世紀アメリカ文学、女性文学、フェミニズム批評

4. 難波ゼミ

17～19世紀アメリカ文学、17世紀～現代アメリカ文化

5. 深瀬ゼミ

現代アメリカ散文、アフリカ系アメリカ文学文化

英語学

村上ゼミ

英語の動詞に関すること全般

統語論、英語史、意味論、語用論、英語教育、言語習得

【事前・事後学修】

授業の性格上、事前事後学修の時間を数値化することは難しいが、週平均5時間以上の取り組みは必須。担当教員の指示に従い、自身の卒論完成にとって必要となる課題を、自立的に、着実に、消化していくこと。

【テキスト・教材】

クラスによって異なるので、担当教員の指示に従うこと。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題に取り組む姿勢 50%

課題に対する評価 50%

フィードバックは各授業内、および個別面談を通じて適宜行う。

卒論セミナー b

担当教員全員

4年 後期 1単位

◎：研鑽力 ○：国際的視野、行動力

【授業のテーマ】

「卒論セミナーa」の内容を踏まえ、リサーチ、プレゼンテーション、ディスカッション、教員との個別面談などを通して、各自が設定したテーマに基づいて研究を進め、担当教員の指導のもと、卒業論文を執筆します。専門分野に関する資料を収集し分析する能力、プレゼンテーションやディスカッションで自分の意見を伝える能力、論理的な文章を構成し書き上げる能力、自ら問題を提起しその問題を解決する能力を養成し、その集大成として卒業論文を完成させることを目標とします。

【授業における到達目標】

卒業論文を完成させる作業を通じて、問題設定からその解決策の提案まで、論理的・効率的に物事に取り組む姿勢と手法を身につける。これにより、国際的視野、研鑽力、行動力を伸ばすこととなる。

【授業の内容】

イギリス文学・文化

1. 大関ゼミ

中世英文学とその関連、およびケルト文化、イギリス世紀末文学

2. 島ゼミ

18・19世紀イギリス小説、ナンセンス文学、ゴシック小説、イギリス文化

3. 志渡岡ゼミ

18～20世紀イギリスの小説・旅行記・少女文化

3. 土屋ゼミ

19世紀（ヴィクトリア朝）文学

アメリカ文学・文化

1. 稲垣ゼミ

19世紀～20世紀初頭のアメリカ小説、アメリカ文化

2. 植野ゼミ

20世紀小説

3. 佐々木ゼミ

19～20世紀アメリカ文学、女性文学、フェミニズム批評

4. 難波ゼミ

17～19世紀アメリカ文学、17世紀～現代アメリカ文化

5. 深瀬ゼミ

現代アメリカ散文、アフリカ系アメリカ文学文化

英語学

村上ゼミ

英語の動詞に関すること全般

統語論、英語史、意味論、語用論、英語教育、言語習得

【事前・事後学修】

授業の性格上、事前事後学修の時間を数値化することは難しいが、週平均5時間以上の取り組みは必須。担当教員の指示に従い、自身の卒論完成にとって必要となる課題を、自立的に、着実に、消化していくこと。

【テキスト・教材】

クラスによって異なるので、担当教員の指示に従うこと。

【成績評価の方法・基準とフィードバック】

課題に取り組む姿勢 50%

課題に対する評価 50%

フィードバックは各授業内、および個別面談を通じて適宜行う。